

令和 5 年度みえ森と緑の県民税基金事業（資料編）

①	みえ森と緑の県民税基金積立金事業	1
【県営事業】		
②	災害に強い森林づくり推進事業	3
	ア. 災害緩衝林整備事業	
	イ. 土砂・流木緊急除去事業	
③	森林情報基盤整備事業	29
④	森を育む人づくりサポート体制整備事業	
	ア. みえ森林教育ビジョン推進事業	41
	イ. みえ森づくりサポートセンター運営事業	77
	ウ. みえ森林教育ステーション整備事業	99
⑤	生物多様性推進事業	109
⑥	森林とふれあう自然公園環境整備事業	115
【市町交付金事業】		
⑦	みえ森と緑の県民税市町交付金事業	125
	ア. みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業	127
	a. 流域防災機能強化対策事業	
	b. 森林再生力強化対策事業	
	イ. みえ森と緑の県民税市町交付金（防災枠）事業	139
	a. 災害からライフラインを守る事前伐採事業	
	ウ. みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業	147
	四日市市	155
	津市	447
	大紀町	687
	桑名市	195
	松阪市	475
	南伊勢町	715
	鈴鹿市	207
	多気町	505
	名張市	731
	亀山市	271
	明和町	521
	伊賀市	771
	いなべ市	307
	大台町	545
	尾鷲市	809
	木曾岬町	341
	伊勢市	561
	紀北町	845
	東員町	353
	鳥羽市	577
	熊野市	871
	菰野町	369
	志摩市	593
	御浜町	889
	朝日町	393
	玉城町	617
	紀宝町	905
	川越町	417
	度会町	633
【県営事業】		
⑧	みえ森と緑の県民税制度運営事業	923

令和 5 年度みえ森と緑の県民税基金事業の構成

① みえ森と緑の県民税基金積立金事業 1,150,526 千円

みえ森と緑の県民税基金事業 総額 1,075,547 千円



災害に強い森林づくり推進事業

三重県農林水産部治山林道課

近年頻発する豪雨等の異常気象の増加をふまえ、流木や土砂の流出による災害発生の恐れのある溪流沿いの森林を対象に、県が流木災害等を軽減するため、①溪流内の危険木の除去、②流木や土砂の流下を緩衝する溪流沿いの森林整備、③倒木や土砂の溪流への流入を抑制する山腹斜面での森林整備など、災害緩衝林の整備を進めます。

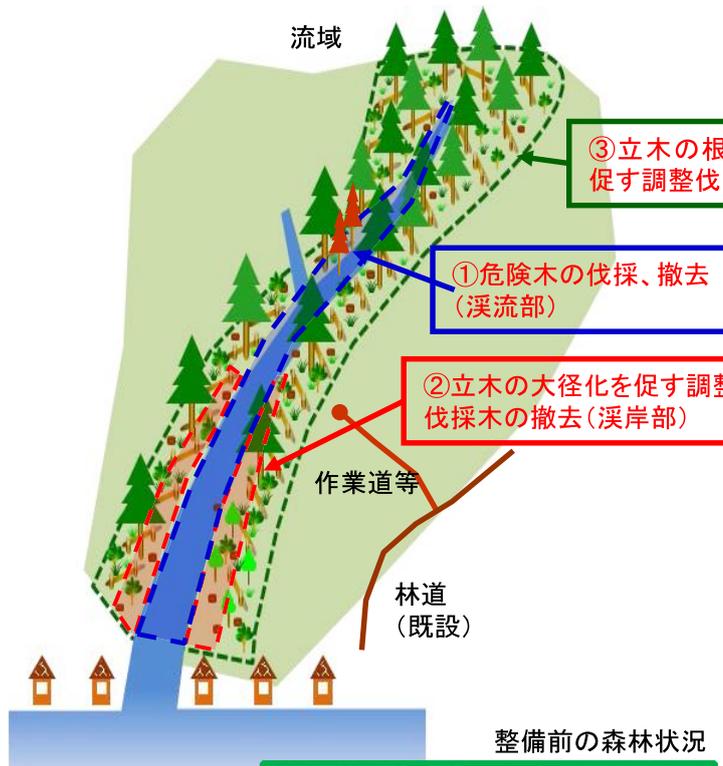
また、豪雨時に流下して下流に被害を与えるおそれのある溪流内に異常に堆積した流木や土砂等について、除去を行います。

I 災害緩衝林整備事業

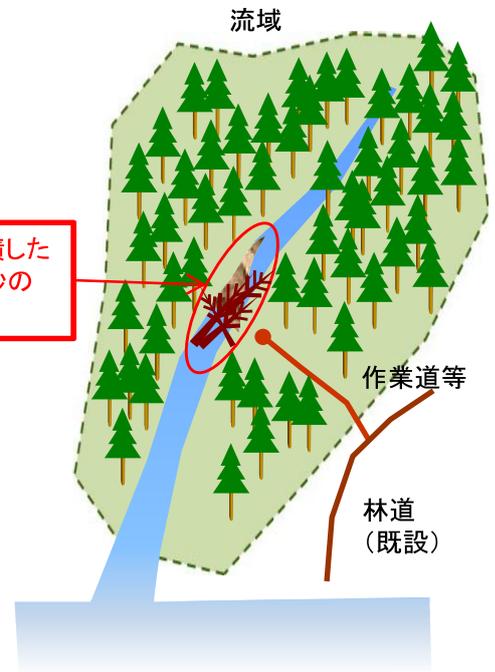
- ①溪流部において、流木になる恐れのある危険木を下流へ流れ出さなくするために「危険木の伐採、撤去」
- ②①の周辺溪岸部において、上流からの土砂の流下を緩和するために「立木の大径化を促す調整伐、伐採木の撤去」
- ③①②の周辺山腹部において、溪流内に土砂が流れ出さなくするために「立木の根系の発達を促す調整伐」

II 土砂・流木緊急除去事業

豪雨等によって流出し人家等に被害を与える恐れのある「異常に堆積した流木や土砂等の除去」



異常に堆積した流木や土砂の除去



整備後の森林状況(紀宝町内)



災害緩衝林整備事業

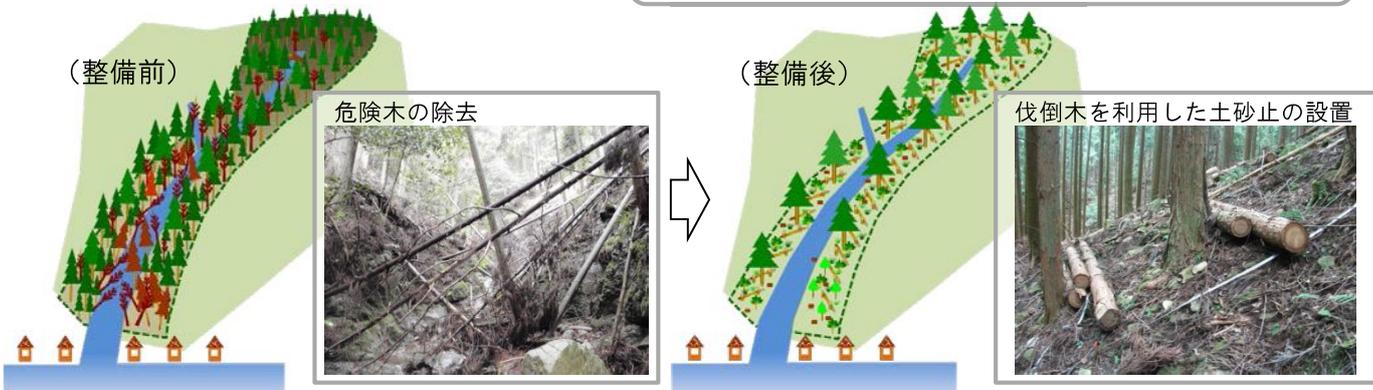
近年頻発する豪雨等の異常気象の増加をふまえ、流木や土砂の流出による災害発生の恐れのある溪流沿いの森林を対象に、流木災害等を軽減するため、①溪流内の危険木の除去、②流木や土砂の流下を緩衝する溪流沿いの森林整備、③倒木や土砂の溪流への流入を抑制する山腹斜面での森林整備など、災害緩衝林の整備を進めます。

〈整備前の森林の状態〉

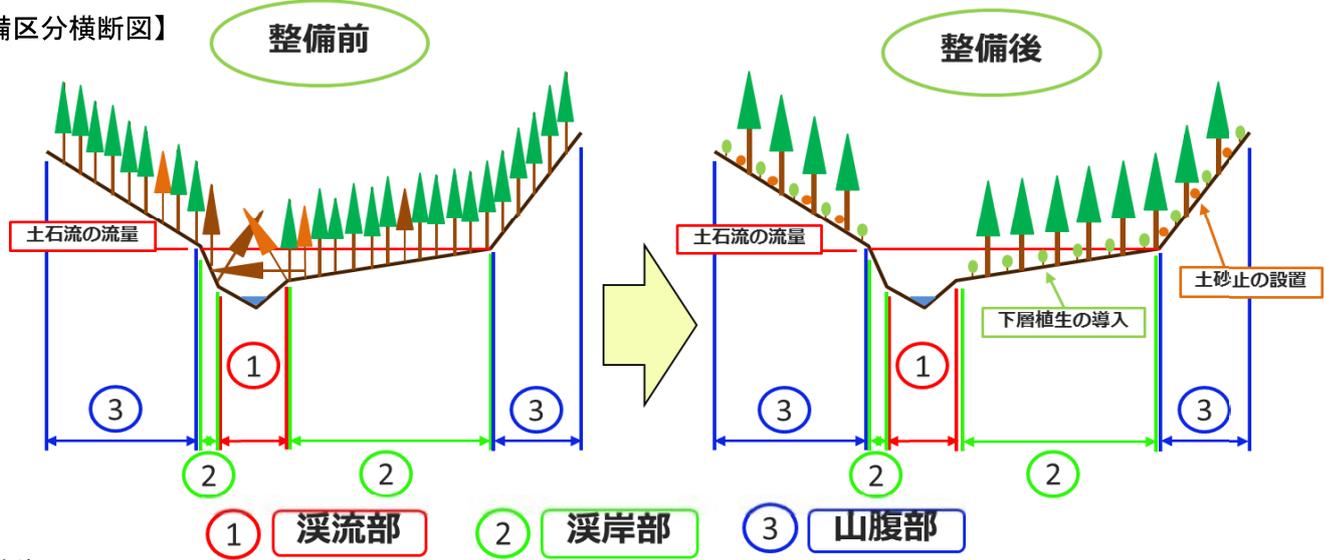
- 流出する恐れのある危険木が存在
- 間伐不足で過密小径な林分
- 下層植生がみられず表土が流出

〈整備区域〉 青字：立地環境 赤字：整備内容

- ①溪流部で**危険木の除去**⇒流木発生抑制
- ②溪岸部で**調整伐**による立木の**大径化促進**⇒森林の抵抗力の増加⇒流木・土砂等流下緩衝
- ③山腹部で**調整伐**による根系の**発達促進**、**土砂止の設置**⇒斜面の安定化⇒流木・土砂等流出抑制



【整備区分横断図】



(整備後)



土砂・流木緊急除去事業

近年頻発する豪雨等の異常気象の増加をふまえ、流木や土砂の流出による災害発生の恐れのある溪流沿いの森林を対象に、溪流内に異常に堆積した土砂や流木について、台風や豪雨の際に流出して下流に被害を与える恐れのあるものを撤去します。



溪流内に異常に堆積した土砂・流木



撤去後(紀北町)



令和5年度災害に強い森林づくり推進事業 実施箇所表

災害緩衝林整備事業

NO	施行箇所				危険木等 除去体積 (m ³)	危険木等 除去単価 (円 / m ³)	調整伐 (ha)	調整伐単価 (円 / ha)	工事費 (千円)	コスト縮 減額(千 円)	保全対象	進捗状況	搬出方法
	郡(市)	町	大字	字									
1	(亀山)	-	関町市瀬	野々谷	51.0	11,775	5.54	624,544	9,903	175	人家4戸、国道	完成	車両系 山腹引上げ
2	(亀山)	-	加太板屋	西谷	168.0	8,860	6.65	489,641	11,593	984	林道、鉄道	完成	車両系 山腹引上げ
3	(亀山)	-	白木町	南河内	27.0	17,135	4.04	716,834	7,379	0	林道	完成	山腹引上げ
4	(亀山)	-	加太板屋	焼揚	23.0	23,590	0.50	555,862	3,359	0	林道、鉄道	完成	山腹引上げ
5	(亀山)	-	関町沓掛	安間平	4.0	29,755	2.37	513,471	3,538	0	人家8戸、国道	完成	山腹引上げ
6	(津)	-	榑原町	河内谷ほか	44.0	6,178	1.57	510,316	4,043	69	人家8戸、林道	完成	車両系
7	(津)	-	芸濃町河内	黒首ほか	66.0	6,909	3.27	508,250	7,228	65	人家20戸、県道、 市道、公共施設	完成	車両系 山腹引上げ
8	(津)	-	白山町佐田	赤坂ほか	152.0	1,750	2.58	509,688	7,882	551	人家2戸、市道	完成	車両系
9	(松阪)	-	大足町	大足山	163.0	9,558	5.06	634,626	17,199	2,115	人家8戸、県道、公 共施設	完成	架線系
10	(松阪)	-	嬉野小原町	古城	64.0	11,764	0.83	624,308	9,185	1,934	人家12戸、県道	完成	架線系
11	(松阪)	-	阿坂町	大谷	23.0	5,418	0.88	655,869	4,393	282	国道、市道	完成	車両系
12	(松阪)	-	茅原町	下ノ宮	155.0	8,807	0.81	533,604	9,597	2,592	人家10戸、市道	完成	架線系
13	(松阪)	-	小片野町	北谷西平	32.0	18,692	2.64	827,127	5,688	0	人家2戸、県道、市 道	完成	山腹引上げ
14	多気	多気	土屋	クリノキダニ	339.0	9,143	3.07	568,164	15,589	3,988	人家4戸、町道、林 道	完成	車両系
15	多気	多気	車川	チョウラグチ	567.0	7,206	2.15	630,610	26,734	4,014	人家2戸、町道、林 道	完成	架線系
16	多気	大台	長ケ	鈴又	456.0	7,699	0.00		22,916	1,576	林道	完成	架線系
17	度会	大紀	田口	樋ノ谷 (田口)	45.3	15,861	3.22	691,454	6,138	0	人家10戸、県道	完成	山腹引上げ
18	度会	大紀	永会	出作	44.2	16,232	6.57	766,867	12,141	0	人家3戸	完成	山腹引上げ
19	度会	大紀	神原	中谷	64.0	16,274	3.25	791,460	7,624	0	人家6戸、県道、公 共施設	完成	山腹引上げ
20	度会	南伊勢	内瀬	豆原	0.0		10.69	769,170	18,152	0	人家15戸、町道、 公共施設	完成	搬出等なし
21	(伊賀)	-	上阿波	船ヶ谷	28.9	17,057	3.93	521,429	5,085	0	人家2戸、国道、県 道	完成	山腹引上げ
22	(伊賀)	-	下阿波	宮谷	122.8	15,978	8.46	548,738	16,893	12	人家20戸、国道、 林道、公共施設	完成	車両系 山腹引上げ
23	(伊賀)	-	諸木	滝谷1	32.6	11,579	4.28	668,012	9,252	11	人家4戸、林道	完成	車両系
24	(伊賀)	-	高尾	津元	49.2	15,684	5.39	532,853	8,929	0	県道	完成	山腹引上げ
25	北牟婁	紀北	十須	江竜	114.0	18,357	1.49	439,654	6,454	0	人家11戸、林道	完成	山腹引上げ
26	北牟婁	紀北	十須	林の谷	187.0	11,442	2.36	475,512	14,255	6,790	人家10戸、林道	完成	架線系
27	(尾鷲)	-	曾根町	梶賀道	166.0	19,357	5.20	790,087	23,109	8,359	国道	施工中	架線系 山腹引上げ
28	(熊野)	-	五郷町	ボオノ	29.0	21,431	5.48	530,817	8,071	0	人家30戸、林道	完成	山腹引上げ
	合計	11市町		28箇所	3,217.0	13,463	102.3	平均 608,480	302,329	33,517			

土砂・流木緊急除去事業

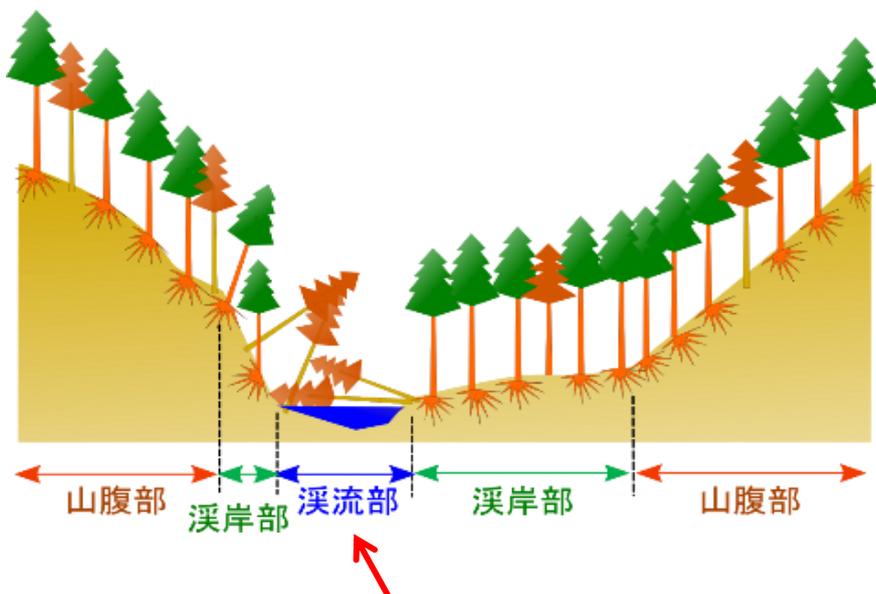
工事 番号	施行箇所				土砂体積 (m ³)	土砂単価 (円 / m ³)	流木体積 (m ³)	流木単価 (円 / m ³)	工事費 (千円)	コスト縮 減額(千 円)	保全対象	進捗状況	搬出方法
	郡市	町	大字	字									
1	三重	菟野	千草	猿ヶ原	17.0	7,318	14.9	26,117	3,100	0	国道	施工中	建設機械
2	北牟婁	紀北	船津	椎戸	164.0	5,413			1,927	0	林道、その他	完成	建設機械
	合計	2市町		2箇所	181.0	平均 6,048	14.9	平均 26,117	5,027	0			

災害に強い森林づくり推進事業合計

合計	12市町		30箇所					307,356	0				
----	------	--	------	--	--	--	--	---------	---	--	--	--	--

災害緩衝林整備事業(溪流部) 施工実績写真

溪流部は、豪雨の際に水が流れる範囲(想定する洪水流の流れ幅の範囲)です。豪雨の際に流木となる恐れのある倒木などを撤去しました。



溪流部 危険木除去

亀山市(野々谷)

整備前

整備後



溪流部 危険木除去

松阪市(下ノ宮)

整備前

整備後



溪流部 危険木除去

紀北町(林の谷)

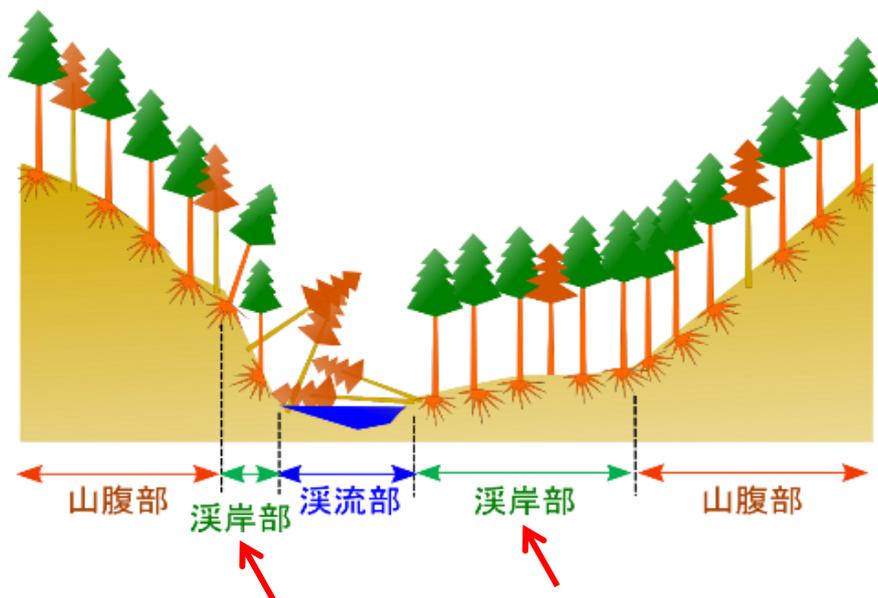
整備前

整備後



災害緩衝林整備事業(溪岸部) 施工実績写真

溪岸部は、土石流が発生した際に、土石が流れると想定される範囲です。(溪流部の外側)。流木となる恐れのある倒木などを撤去しました。また、小規模な土石流等の捕捉や堆積を促進するため、樹木の抵抗機能を向上させる森林整備(調整伐)を行いました。



溪岸部 危険木除去と調整伐

亀山市(南河内)

整備前

整備後



溪岸部 危険木除去と調整伐

大紀町(樋ノ谷(田口))

整備前

整備後



溪岸部 危険木除去と調整伐

伊賀市(宮谷)

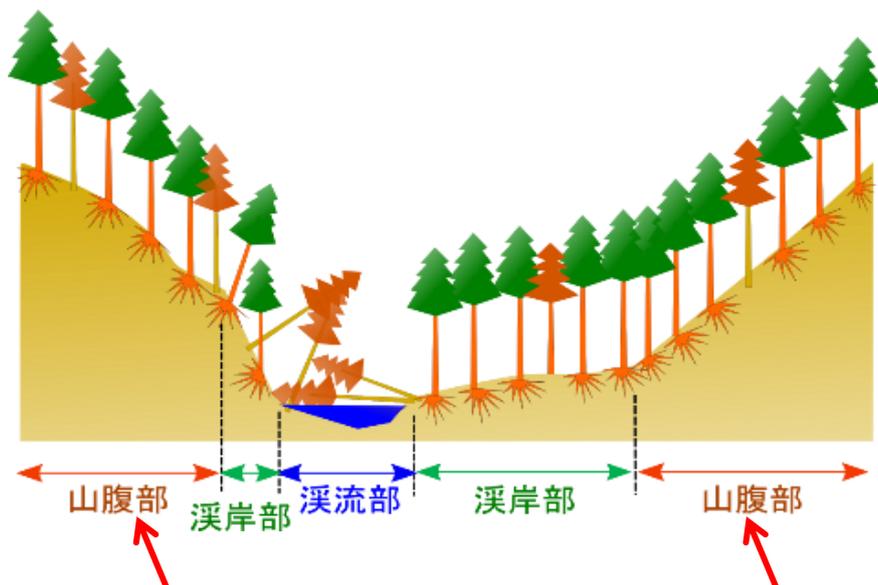
整備前

整備後



災害緩衝林整備事業(山腹部) 施工実績写真

山腹部は、溪岸よりも山側の範囲です。
倒木や土砂(表土)が溪流に流入することを抑制するため、立木の根系の発達を促進するための森林整備(調整伐)を行いました。また、倒木や伐採した樹木は、等高線状(斜面に対して横向き)に並べて、溪流への流入を抑制するとともに、表土の流出抑制を図りました。

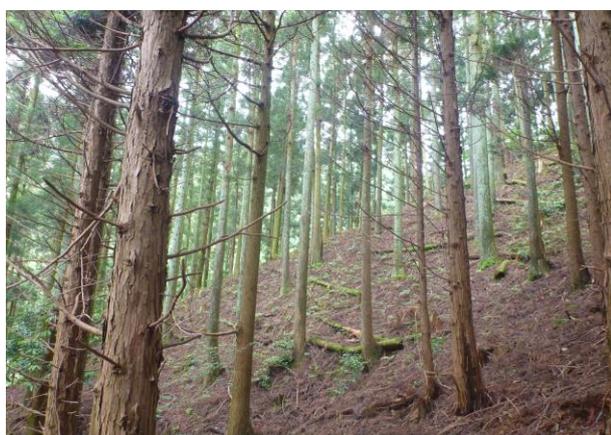


山腹部 調整伐

亀山市(野々谷)

整備前

整備後



山腹部 調整伐

松阪市(大足山)

整備前

整備後



山腹部 調整伐

南伊勢町(豆原)

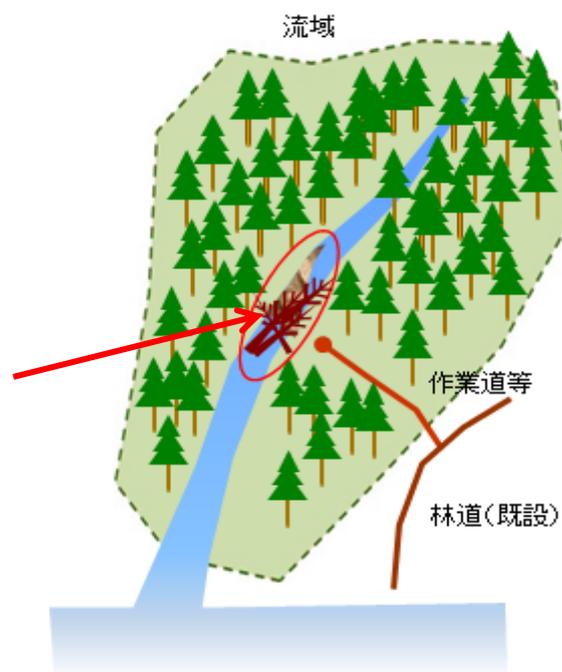
整備前

整備後



土砂・流木緊急除去 施工実績写真

台風などに伴う豪雨の際に流出して下流に被害を与える恐れがある土砂を撤去しました。



土砂撤去

紀北町(椎戸)

整備前



整備後



土砂撤去により、暗渠と流路の閉塞が解消され、水が流れる幅や高さを確保できた。

災害に強い森林づくり推進事業のPR

災害に強い森林づくり推進事業に「みえ森と緑の県民税」を活用していることや、この事業を実施した効果及び効果検証結果を周知するため、パネル展示や三重県ホームページでの実績などの公開を行いました。

1 施工箇所における掲示

事業実施前から事業実施後にかけて「みえ森と緑の県民税」を活用していることを記載した掲示を行うことで、長期にわたり、みえ森と緑の県民税のPRを行いました。

施工箇所における掲示



事業実施前に、施工箇所付近に「のぼり旗」を設置しました。



現場着手前から完了までの間、工事看板に「ロゴマーク」とみえ森と緑の県民税を活用していることを記載しました。



事業実施後の周知のため、施工箇所付近にみえ森と緑の県民税を活用して事業を実施したことを示す標柱を設置しました。

災害に強い森林づくり推進事業のPR

2 工事実施と完了のお知らせ(回覧板)への掲載

工事の実施と完了をお知らせする回覧板に、施工前後の写真を掲載するとともにロゴマークを配置など、みえ森と緑の県民税を活用した工事であることと、工事内容をわかりやすくPRしました。

工事実施と完了のお知らせ(回覧板)への掲載

工事完了のお知らせ

みえ森と緑の県民税
森林づくりを県民みんなの力で!

下記工事は、令和6年1月12日(金)をもちまして完了いたしました。
渓流内の倒木や根の浮き上がった木など、流木の原因となる危険木の除去と、
渓流沿いの森林整備を行いました。

工事名 : 令和5年度災害緩衝林整備事業第四-1号工事
工事内容 : 危険木除去、森林整備 (野々谷・安間平)
施工場所 : 亀山市関町市瀬字野々谷ほか



【対比写真】

(整備前)

(整備後)



引き続き災害に強い森林を目指し、山崩れや洪水などの災害発生のリスクを軽減するための森林整備を進めてまいります。

【工事に関するお問い合わせ先】

発注者：三重県四日市農林事務所 森林・林業室 森林保全課 TEL：059-352-0652
受注者：鈴鹿森林組合 TEL：0595-98-0010



工事完了のお知らせには、施工前後の写真やロゴマークなどを活用して、わかりやすい記載に努めました。

工事実施前は、イメージ図や、過去の事例写真を載せるなど、施工後がイメージしやすい記載に努めました。



災害に強い森林づくり推進事業のPR

3 パネル展示

県内各市町において、施工前後の写真や災害に強い森林づくり推進事業の概要を説明したパネル展示を行いました(27回)。

(津市、四日市市、伊勢市、松阪市、桑名市、鈴鹿市、名張市、尾鷲市、亀山市、熊野市、いなべ市、伊賀市、木曽岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町、多気町、明和町、大台町)

※複数回実施した市町があるため、実施回数と市町数は一致しません。

※みえ森と緑の県民税市町交付金事業のPRと同時に行っています。

パネル展示



伊賀市



木曽岬町



菰野町



多気町

災害に強い森林づくり推進事業のPR

4 その他

三重県ホームページに事業実績(実施箇所、位置図、写真など)を公開しています。(令和5年度事業実績は準備中です。)

災害に強い森林づくり推進事業の効果検証にかかる調査・研究について、三重県林業技術普及協会が発行している林業広報誌「三重の林業」に、「スギ・ヒノキ林での調整伐が表層崩壊防止機能に及ぼす効果」と題して技術情報を掲載し、検証結果を紹介しました。

令和元年度から令和5年度まで(第2期)に行った「災害に強い森林づくり推進事業の効果検証にかかる調査・研究」の結果をまとめたパンフレットを作成しました。今後、パネル展示の際に配布するなど、事業概要とともに事業により期待される効果の検証状況も周知していきます。

その他(県HP、効果検証結果PR)

三重県ホームページ

※令和5年度事業実績は掲載準備中です。

<https://www.pref.mie.lg.jp/SHINRIN/HP/mori/74681015390.htm>

県で取り組む事業

- 流木の発生や土砂の流出を抑制する森林の整備

近年の山地災害に見受けられる流木や土砂流出による被害を低減するため、水が集中する谷地形や浸食されやすい土壌等を立地環境とする溪流沿いの森林において、「災害緩衝林」の整備を進めます。

 - ・ 豪雨時等に流出する恐れのある危険木を除去します。
 - ・ 過密な森林の立木密度を下げて、樹幹の肥大成長、根系の発達等により樹木の抵抗機能、支持機能を向上させ、流下する流木や土砂の捕捉・堆積を促進するとともに、倒木や土砂等の溪流への流入・流出を抑制します。

整備前

崩壊土砂流出危険地区の溪流
整備前

流木となる恐れのある危険木

➡

整備後

保樹木を利用した土砂止の設備
地盤を強れる水を分散して表土の流出を抑制する

PDF [災害緩衝林整備事業の概要](#)

PDF [令和6年度に事業実施を予定している箇所の一覧表](#)

・ 災害緩衝林整備事業の効果等を確認できるガイドラインを以下のとおり作成しましたのでご覧ください。

PDF [「災害に強い森林づくり」の評価のためのガイドライン](#)

PDF [「災害に強い森林づくり」の評価のためのガイドライン 概要版](#)

- 土砂・流木の除去

「崩壊土砂流出危険地区」内の治山施設等に異常堆積して流出する恐れのある土砂や流木を除去します。

PDF [土砂・流木緊急除去事業の概要](#)

三重県林業技術普及協会ホームページ
「三重の林業」

<https://www.ztv.ne.jp/evdva4b3/infomation.html>

災害に強い森林づくり推進事業

効果検証にかかる調査・研究事業 成果の概要（林業研究所）

令和 5 年度の災害に強い森林づくり推進事業 効果検証にかかる調査・研究事業は、みえ森と緑の県民税 第 2 期（令和元～5 年度）の最終年であることから、下記項目について、引き続き、調査・研究を行うとともに、これまでに得られたデータの最終的な解析を実施しました。

1. 樹木根系による斜面安定効果の調査
2. UAV を用いた森林モニタリング調査
3. 整備森林における危険木発生状況の調査

また、これらの結果を取りまとめ、パンフレット「みえ森と緑の県民税 災害に強い森林づくり推進事業 効果検証にかかる調査・研究事業の結果（第 2 期）」を令和 6 年 3 月に発行しました。令和 5 年度の成果としてパンフレットを次ページ以降に示します。

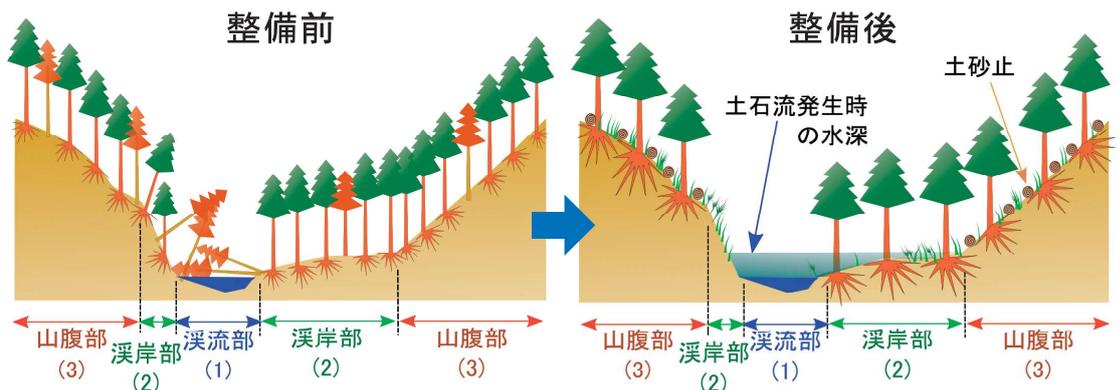
みえ森と緑の県民税 災害に強い森林づくり推進事業 効果検証にかかる 調査・研究事業の結果(第2期)

令和6年3月 三重県林業研究所

「みえ森と緑の県民税」を活用して実施している災害に強い森林づくり推進事業（災害緩衝林整備事業）では、事業効果を検証するための調査・研究を行っています。本冊子では第2期〔平成31年（2019年）4月～令和6年（2024年）3月〕に行った調査・研究の結果を紹介します。

1. 災害に強い森林づくり推進事業による森林整備の概要

事業では、整備区域を下記の3つのエリアに分けて、森林整備を進めています。



(1) 溪流部…「流木発生抑制」のための整備

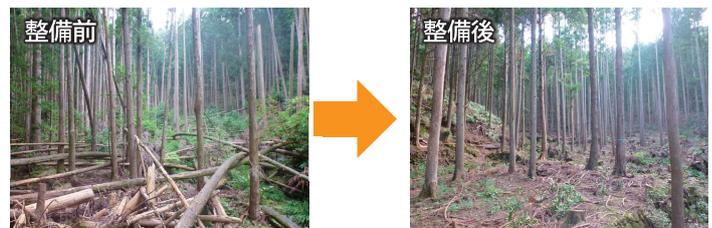
流木の発生源とならないよう、豪雨時等に流出する恐れのある溪流内の流木や倒木などの危険木を除去します。



(2) 溪岸部…「流木・土砂等流下緩衝」のための整備

流下する流木や土砂、小規模な土石流等の捕捉・堆積を促進するため、調整伐※1により胸高直径30cm以上の立木を育成します。

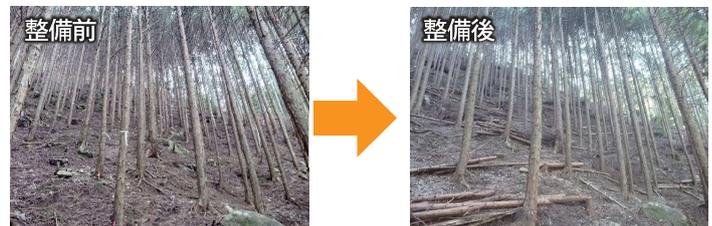
※1 立木の密度を緩和し、成長を促進するための抜き伐り



(3) 山腹部…「流木・土砂等流出抑制」のための整備

倒木や土砂等の溪流への流出を抑制するため、樹木根系による支持機能を向上させ、斜面の安定を図る森林整備（調整伐、土砂止設置※2）を行います。

※2 調整伐で伐倒した木を等高線方向に横並べたもの



2. 災害に強い森林づくり推進事業の効果検証の結果

1期目の効果検証[平成26年(2014年)4月～平成31年(2019年)3月]で未実施あるいは継続実施が必要になった下記の3項目の調査・研究を実施しました。次ページ以降に結果を紹介します。

(1) 渓流部…危険木除去による流木発生抑制効果に対して

効果検証が必要な事項 ・流木発生抑制効果は持続しているか? ----- 項目3

(2) 渓岸部…調整伐による立木の成長の促進に対して

効果検証が必要な事項 ・立木の成長は促進されるか? ----- 項目2

(3) 山腹部…調整伐による立木の成長の促進、斜面安定効果及び土砂流亡抑制効果の発揮に対して

効果検証が必要な事項 ・斜面安定効果、土砂流亡抑制効果は発揮できるか? --- 項目1
 ・立木の成長は促進されるか? ----- 項目2

効果検証にかかる調査・研究

項目1 樹木根系による斜面安定効果の調査

根系発達による斜面安定効果を検証するために

- ①根引き抜き試験、根系分布調査により、樹木根系の崩壊防止力を調査
- ②斜面からの土砂流亡量を継続測定し、土砂流亡抑制効果の持続期間を調査



調整伐と伐倒木を利用した土砂止の設置



根引き抜き試験



根系分布調査



土砂流亡量調査

根引き抜き試験及び根系分布調査の実施、土砂流亡量の継続調査

項目2 UAV（ドローン）を用いた森林モニタリング調査

成長促進効果を検証するために

UAV 空撮画像の解析により事業実施箇所の森林状況の変化を調査



UAV(ドローン)



調整伐実施後の状態変化を調査

項目3 整備森林における危険木発生状況の調査

危険木除去による流木発生抑制効果を検証するために

危険木を除去した渓流で、倒木、流木など危険木の発生状況を調査



危険木除去



その後?

項目 1 樹木根系による斜面安定効果の調査

検証したいこと①

山腹で、調整伐は樹木根系の崩壊防止力を高めるか？

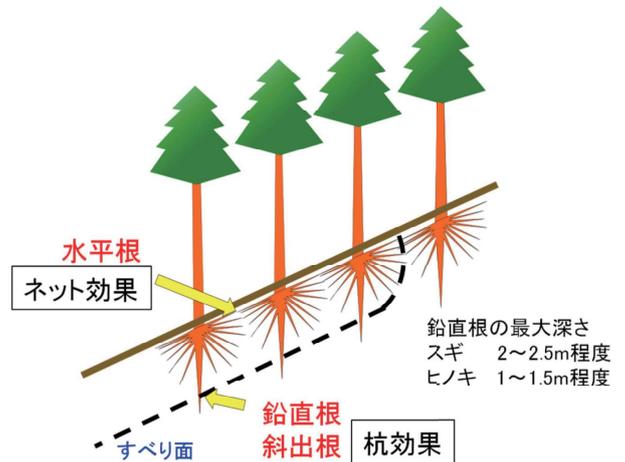
樹木根系による崩壊防止機能を高めるために調整伐を行っています。根引き抜き試験、根系分布調査などを行い、調整伐が樹木根系の崩壊防止力を高める効果について検証しました。

樹木根系の崩壊防止機能

山腹斜面において、表層崩壊時には、すべり面に土のせん断抵抗力（崩壊に抵抗する力）が発生しますが、樹木根があることで、さらに抵抗力が付加されます。本冊子では、この付加分を樹木根系の崩壊防止力と称します。

崩壊防止力は、水平根が互いに絡み合いネット状に発達することで崩壊発生を抑止する「ネット効果」、鉛直根・斜出根が伸長することによる「杭効果」に分けられますが、近年では、ネット効果の役割の方が大きい可能性が示されています。

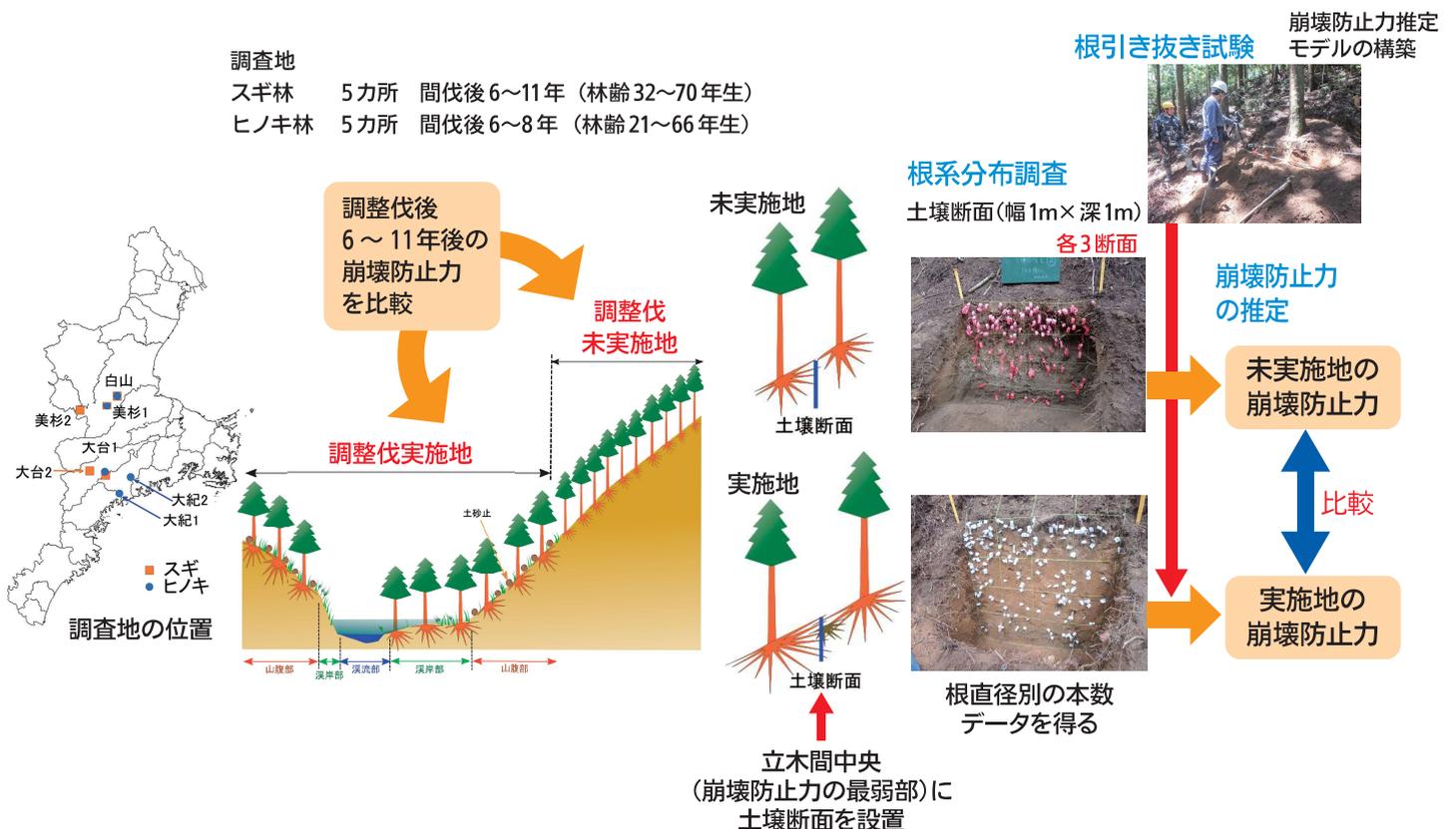
そのため、効果検証では水平根による崩壊防止力の評価を行いました。



Q. 調整伐の効果は？

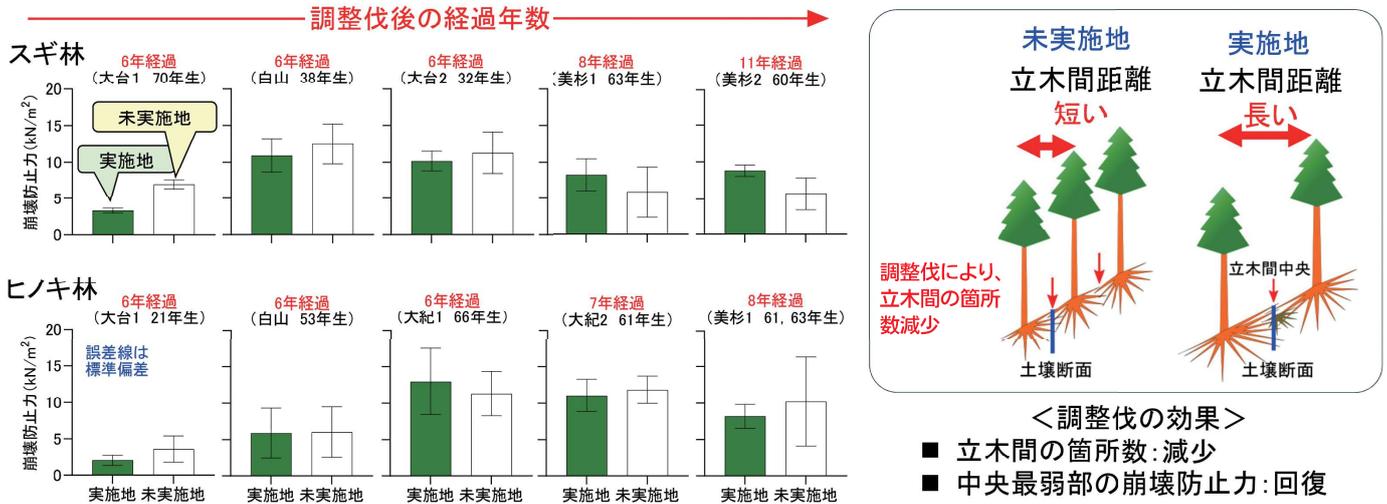
A. 調整伐による崩壊防止力の増強が確認できた

調整伐後6~11年経過したスギ林5カ所、同6~8年経過したヒノキ林5カ所において、調整伐実施地と未実施地の立木間中央（崩壊防止力の最弱部）で根系分布調査を行いました。得られたデータに対し、根引き抜き試験を行うことで構築した崩壊防止力推定モデルを適用して崩壊防止力を推定し、実施地と未実施地を比較することで調整伐の効果を検証しました。



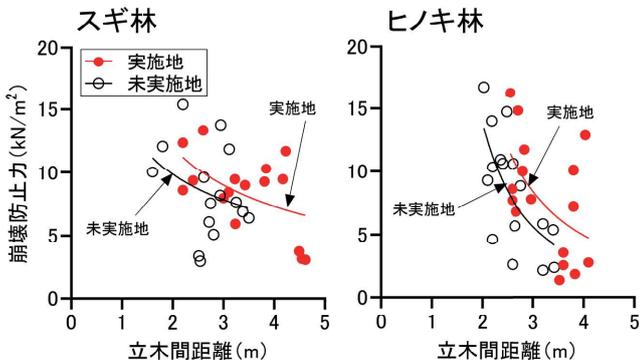
●調整伐実施地と未実施地における樹木根系の崩壊防止力の比較

- 調整伐実施地における立木間中央の崩壊防止力は、調整伐後に伐採木の根系腐朽によって一時的に低下すると推測されます。ところが、そこに残存木の根が伸長成長するので、調整伐6~11年後には立木間距離が長いにも関わらず、最弱部である中央の崩壊防止力は未実施地と同程度まで回復しました。
- 調整伐により、6~11年後に立木間中央の崩壊防止力が同程度まで回復したということは、崩壊防止力の最弱部の箇所数が調整伐分だけ減少したと推察され、結果的に斜面全体ではその分だけ崩壊防止力は増加しました。

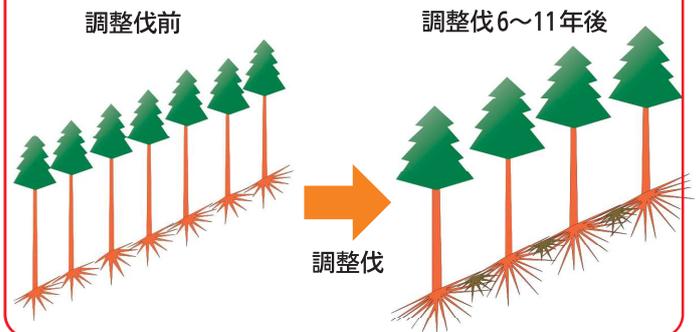


●立木間距離と立木間中央の樹木根系の崩壊防止力の関係

- 立木間中央の崩壊防止力は、同じ立木間距離では実施地の方が未実施地よりも大きい傾向がみられました。
- 調整伐により、面的に崩壊防止力の大きい部分が增加了と推察されます。



調整伐実施地は未実施地と比べて、立木の減少で立木間中央の最弱部の箇所数が減ったこと、面的にみて崩壊防止力の大きい部分が增加了ことが推察され、調整伐の効果により、斜面全体では崩壊防止力が大きくなったと考えられました。



Q. 調整伐の実施において注意すべきことは？

A. 傾斜35°以上の急斜面では立木間距離の空けすぎに注意

- 立木間距離と崩壊防止力の関係において、立木間距離が大きいほど立木間中央の崩壊防止力は小さい傾向がみられました。
 - 表層崩壊が発生しやすいとされる斜面傾斜35°以上の急斜面、特に地下水位が上昇しやすい0次谷などの凹型斜面で調整伐を行う際には、立木間距離の空けすぎに注意する必要があります。
- 立木間中央では調整伐後の一時的な崩壊防止力の低下の影響がみられなくなるまで6~10年程度を要するケースがあると考えられました。
 - 根系成長が緩やかになる林齢30年生以上での調整伐は、地上部の健全性も考慮して可能な場合には、調整伐の実施年間隔を10年以上にした方がよいと考えられます。

検証したいこと②

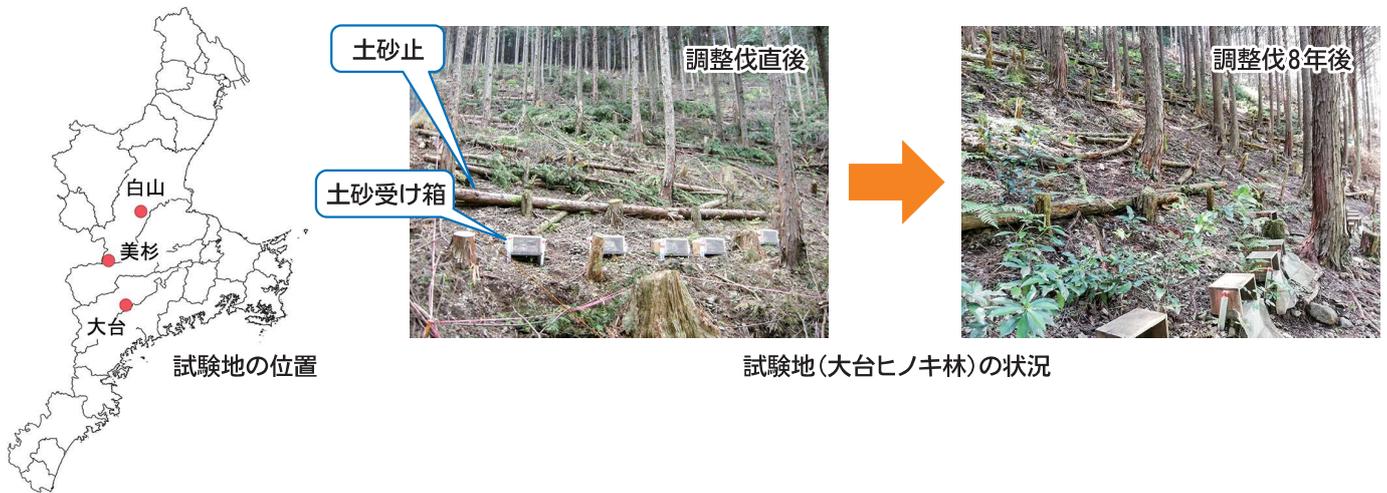
山腹部で、調整伐と土砂止の効果は長期間持続するか？

土砂流亡を抑制するために調整伐と土砂止設置を行っています。三重大学との共同研究により、1期目の調査で、土砂流亡量は調整伐後に植生と落葉落枝による林床被覆率の上昇に伴って減少すること、土砂止を設置することで、さらに減少することを明らかにしました。2期目には、調整伐と土砂止設置に伴う土砂流亡量の変化を8年間調査し、土砂流亡抑制効果の持続期間を検証しました。

Q. 土砂流亡抑制効果の持続期間は？

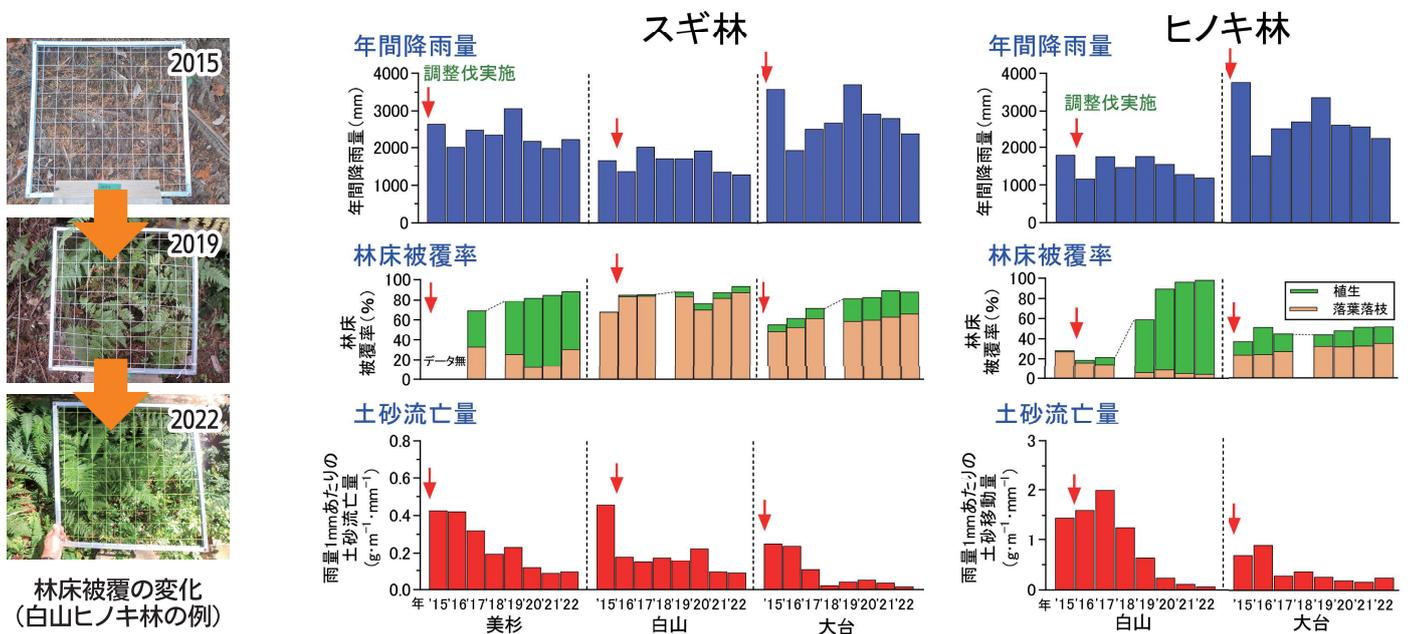
A. 土砂流亡抑制効果は10年程度は持続することが推察された

1期目に設置した試験地のうちスギ林3カ所、ヒノキ林2カ所で土砂流亡量、林床被覆率の調査を8年間継続し、調整伐と土砂止設置の土砂流亡抑制効果の持続期間を検証しました。



●土砂流亡量の経年変化

いずれの試験地でも調整伐後の林床被覆率上昇に伴って土砂流亡量は減少し、調整伐後7、8年経過時点でも低い水準で保たれていました。このとき、林床被覆率が高い状態が保たれていること、土砂止は形状が保たれ、背後に土砂が満砂していないことから、少なくとも10年程度は効果が持続すると推察されました。



項目2 UAV(ドローン)を用いた森林モニタリング調査

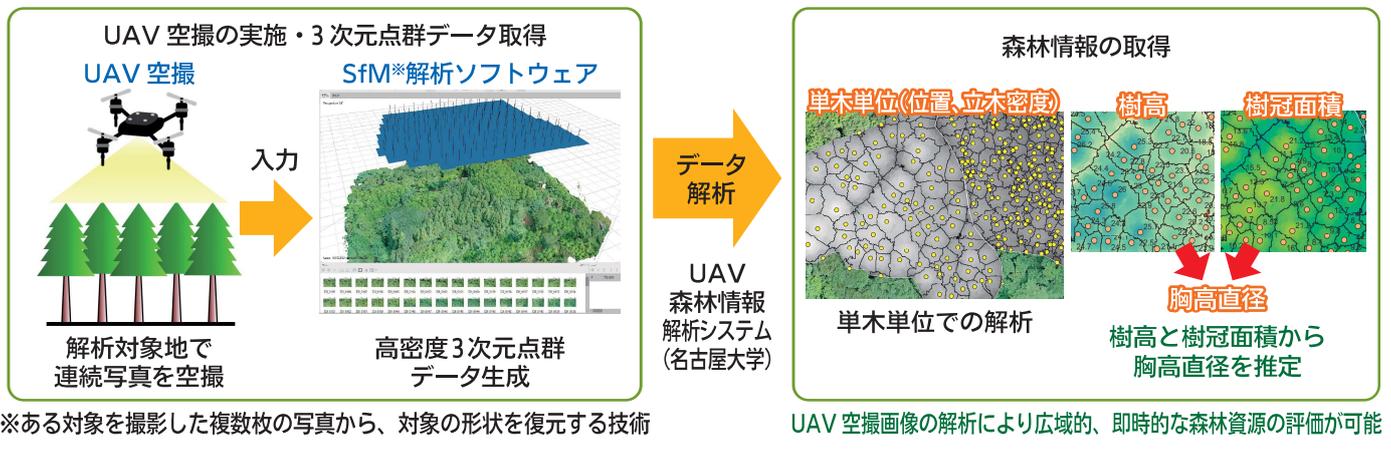
検証したいこと

溪岸部、山腹部で、調整伐は立木の成長を促進するか？

調整伐を実施することで立木の肥大成長を促進し、胸高直径30cm以上の森林を育成することを目指しています。1期目には航空レーザ(LiDAR)測量により調整伐の広域的な成長促進効果を確認しましたが、UAVを使用することで、LiDARよりも面積は限定されるものの低コストで即時的に森林情報を得られる可能性があります。そこで、2期目には、UAV空撮画像の解析によって成長促進効果を検証しました。

UAVを用いた森林モニタリング技術の開発

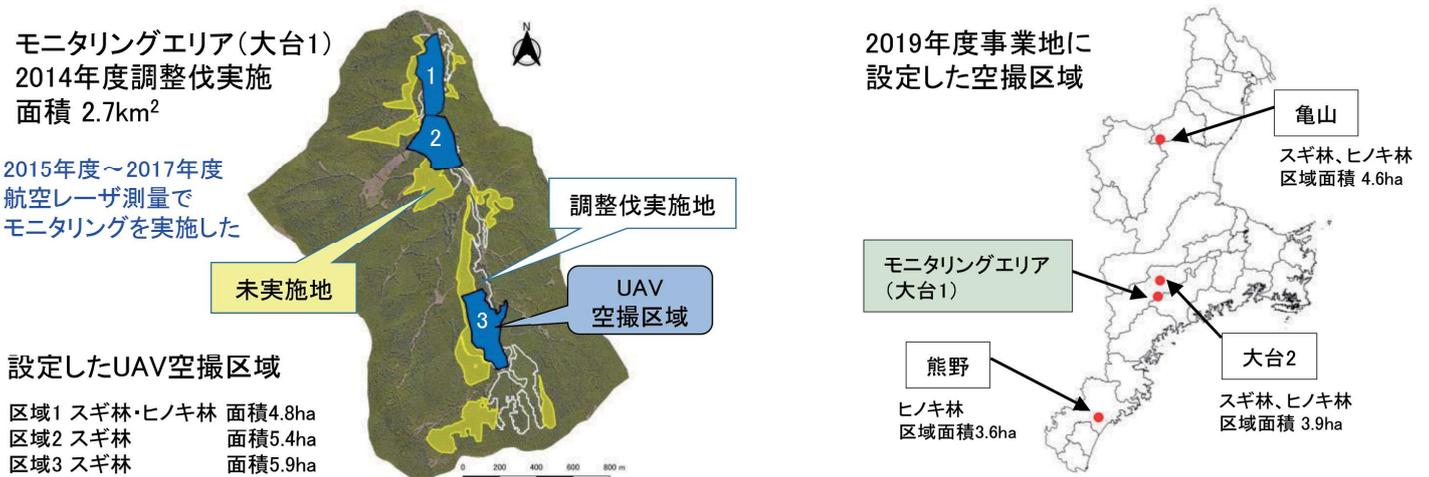
UAV空撮画像からSfM^{*}解析により生成した高密度点群データから地表面や地物の3次元位置構造を広範囲に取得することができます。今回、名古屋大学との共同研究で開発されたUAVを用いた森林モニタリング技術により高精度で広域的なモニタリングが可能となりました。



Q. 直径成長は持続しているか？

A. 調整伐後の直径成長の持続傾向が広域に確認できた

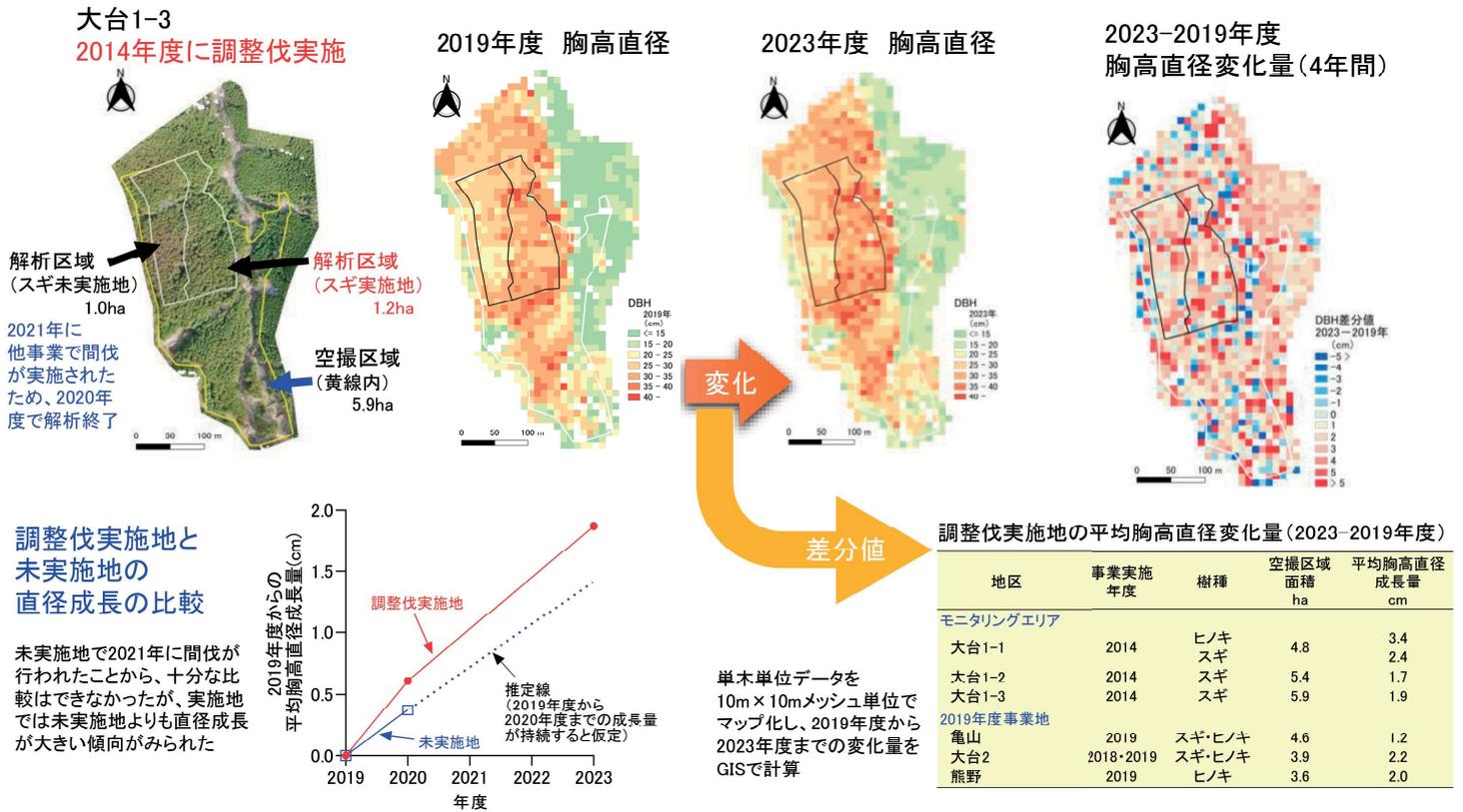
1期目にLiDARを用いて調整伐による直径成長の促進効果を確認したモニタリングエリア(大台1)において、引き続き、効果を検証するために、エリア内に3カ所の空撮区域を設定しました。調整伐後5年目(2019年度)と調整伐後9年目(2023年度)のUAV空撮により調整伐実施地の直径成長量を解析しました。また、2019年度に調整伐を行った3カ所(亀山、大台2、熊野)の事業地においても空撮区域を設定し、調整伐直後(2019年度)と調整伐後4年目(2023年度)のUAV空撮により同様の解析を行いました。



●調整伐の有無による直径成長の違い

いずれの空撮区域でも、調整伐実施地において直径成長が持続していることを広域的に確認できました。

●2019年度から2023年度までの胸高直径の変化 (モニタリングエリア区域3の例)



Q. 森林状態の現況は？

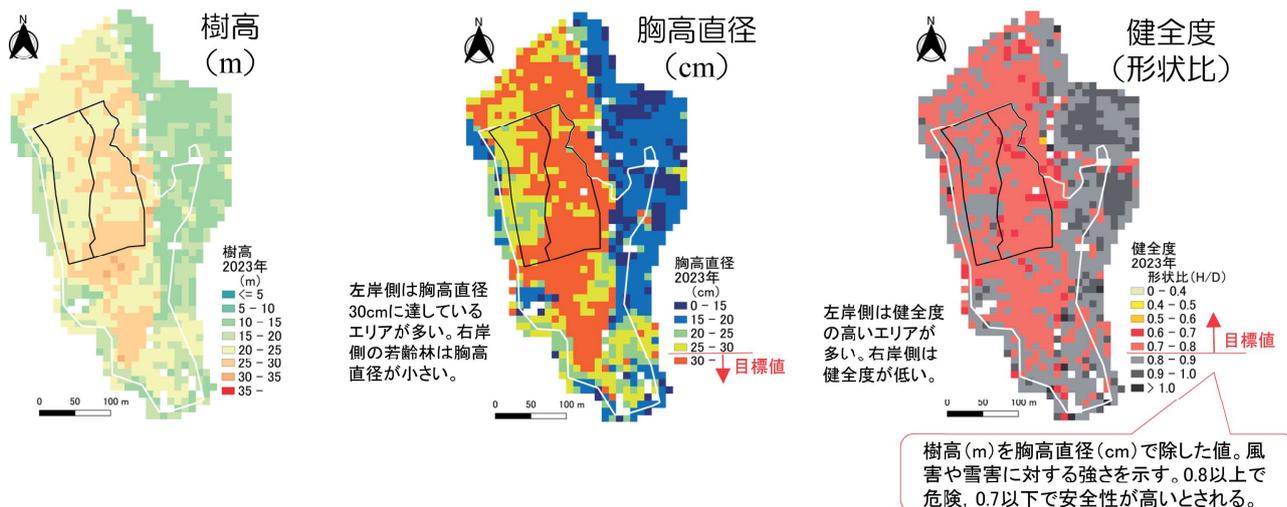
A. 調整伐後の森林状態の現況が広域に確認できた

2023年(調整伐後4年目あるいは9年目)のUAV空撮画像を解析し、樹高、胸高直径、健全度(形状比)の広域的な現状把握を行いました。

●森林状態の現況

各空撮区域の調整伐実施地における森林状態の現況を把握し、目標とする森林状態へ誘導するために森林整備を進める必要があるエリアや健全度を把握することができました。

●2023年度の樹高、胸高直径、健全度(モニタリングエリア区域3の例)



項目3 整備森林における危険木発生状況の調査

検証したいこと

溪流部で、危険木除去の流木発生抑制効果は持続するか？

溪流部が流木発生源にならないように危険木（倒流木）除去を行っています。過去に本事業によって危険木が除去された溪流部における現況調査、溪流部に設置した固定試験地における倒流木の発生、移動などの追跡調査を行い、危険木除去による流木発生抑制効果を検証しました。

Q. 危険木除去後、その状態は長期間持続するか？

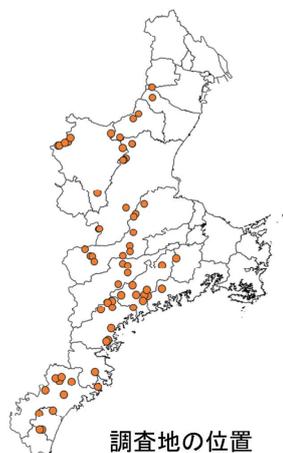
A. 著しい台風被害などを受けなければ、長期間にわたって除去効果は持続すると推察された

2014年度と2015年度事業で溪流部の危険木除去が行われた67カ所の事業地（延長55～2,015m、平均延長548m、総延長36,700m）を除去から1,212～2,333日（3～6年）後に踏査し、長さ1m以上かつ直径10cm以上の危険木（倒木あるいは流木）がみられた場合には、そのサイズ、発生要因などを調査しました（多点調査）。

また、三重大学との共同研究により、危険木を除去した整備溪流4カ所（延長229～673m）、未整備溪流2カ所（延長368m,745m）に固定試験地を設定し、危険木の発生、消失、移動状況を5年間追跡調査しました（追跡調査）。

●危険木除去前と調査時点の危険木量の比較

多点調査の結果、調査時点で溪流部に再発生していた危険木量は除去前の危険木量（除去した危険木量）と比較してわずかであり、2017年21号台風による風倒被害を受けた一部を除き、除去効果は持続していました。



管内	整備年度	箇所数	調査延長	調査年度
四日市	2014, 2015	5	1,460m	2019
津	2014, 2015	9	3,295m	2019, 2021
松阪	2014, 2015	15	9,530m	2020
伊勢	2014, 2015	11	7,280m	2021
伊賀	2014, 2015	8	4,545m	2021
尾鷲	2014, 2015	9	4,165m	2021
熊野	2014, 2015	10	6,425m	2021
合計		67	36,700m	

調査期間中の
 ・最大24時間雨量の最大値
674mm（紀北町、2015年）
 ・年間降雨量の最大値
4,482mm（紀北町、2019年）
 ・2017年21号台風の最大瞬間風速
35.4m/s（津観測所）



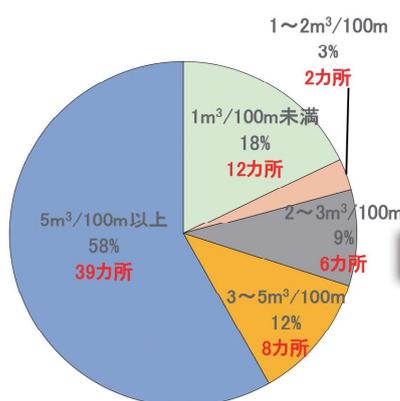
除去後の状態が保たれた溪流



除去後、台風により風倒が発生した溪流

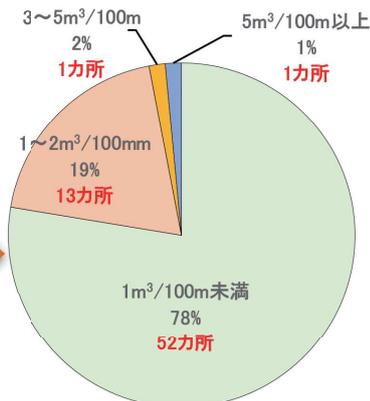
危険木除去前(除去量)

平均 12.4m³/100m



除去後調査時点

平均 0.8m³/100m



●危険木量別の事業地数割合(67カ所)

除去前：5m³/100m以上の事業地の割合が半数以上

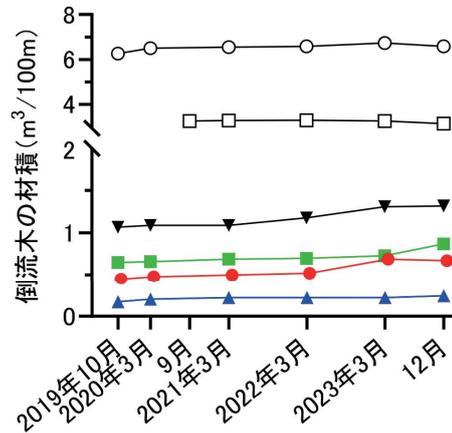
除去後：5m³/100m以上は2017年台風21号の影響がみられた1カ所のみ。1m³/100m未満の事業地が大半

● 溪流部の試験地における危険木量の経年変化

固定試験地における追跡調査でも、調査を行った5年間に危険木量はほとんど変化しませんでした。



多点調査、追跡調査の結果より、5~6年程度は除去効果が維持されており、著しい台風被害などを受けなければ、今後も長期間にわたって除去効果は持続すると推察されました。



Q. 溪流部に危険木を発生させないためには？

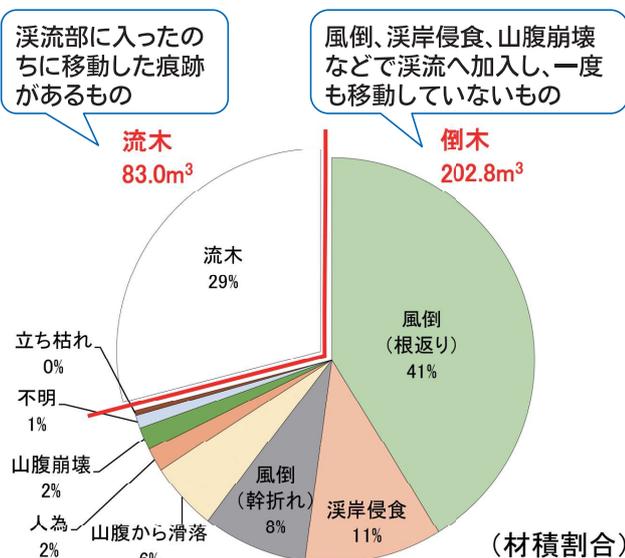
**A. 調整伐の際に、風倒(根返り、幹折れ)しやすい立木、
溪岸侵食で倒れやすい立木を選木、伐採する**

● 危険木の発生要因から考える発生源対策

多点調査で確認された全危険木の発生要因のうち、強風に起因する立木の風倒(根返り、幹折れ)、溪岸侵食の割合が大半を占めており、これらの発生を抑えることで危険木を大幅に減らせる可能性があります。そのため、溪流部周辺の調整伐では、以下の立木を可能な限り選木し、伐採することが重要です。

- 周辺の立木よりも形状比*が高い立木 ※P7 健全度の説明を参照
- 根系発達が弱いと考えられる立木(周辺の立木よりも胸高直径が小さいものは根系発達が弱いことが多い)
- 溪岸侵食を受ける危険性の高い立木

● 再発生していた全危険木(67カ所、285.8m³)の発生要因の割合



主要な発生要因





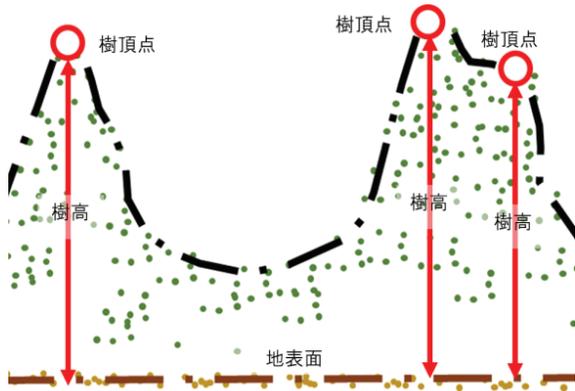
**みえ森と緑の県民税
災害に強い森林づくり推進事業
効果検証にかかる調査・研究事業の結果(第2期)**

発行年月：令和6年3月

編集・発行：三重県林業研究所 研究課
〒515-2602 三重県津市白山町二本木 3769-1
電話：059-262-5351 / FAX：059-262-0960
Email：ringi@pref.mie.lg.jp

樹種や樹高、立木密度、材積等の森林資源情報を正確に把握することは、森林整備を行ううえで重要であるとともに、精度の高い3次元地形データを取得することにより、災害発生の危険性の高い地域等を効率的に把握することが可能となることから、災害に強い森林づくりをより効果的に進めるため、航空レーザ測量を実施します。

① 樹頂点の位置を抽出し、単木情報（樹高や本数、太さ、単木材積）を推定・記録



樹頂点の抽出イメージ

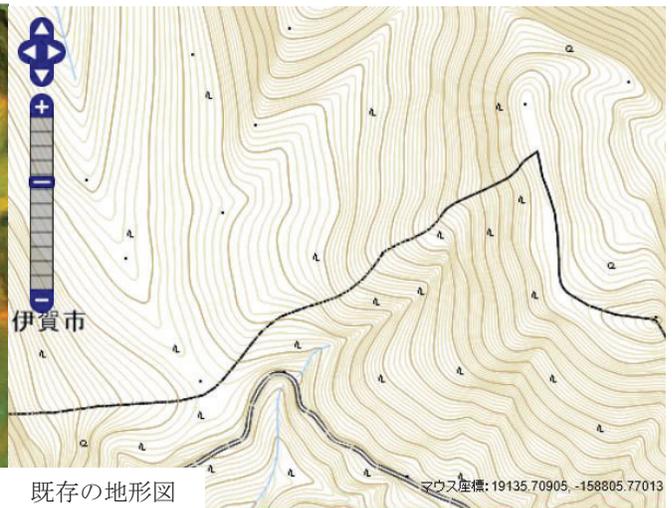


抽出した樹頂点データに、単木情報を記録

② 従来の地形図よりも詳細な地形情報の取得

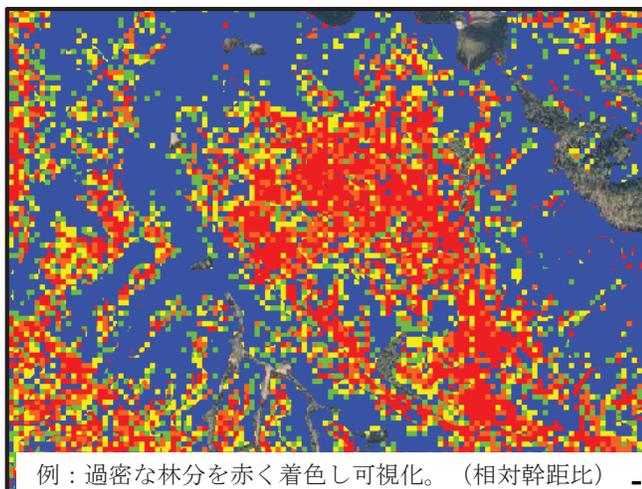


立体地形表現図

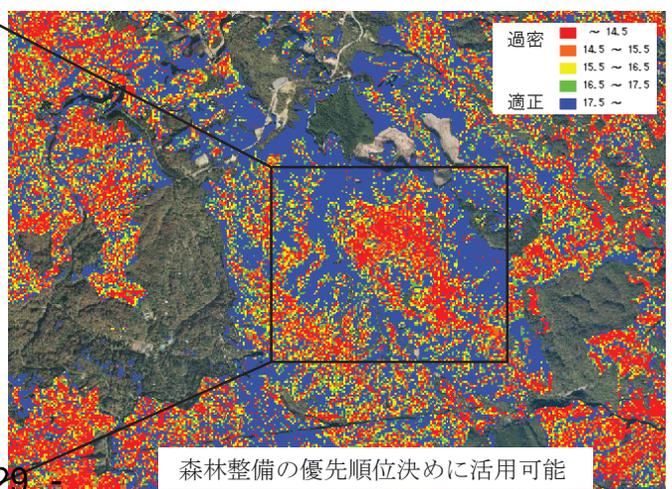


既存の地形図

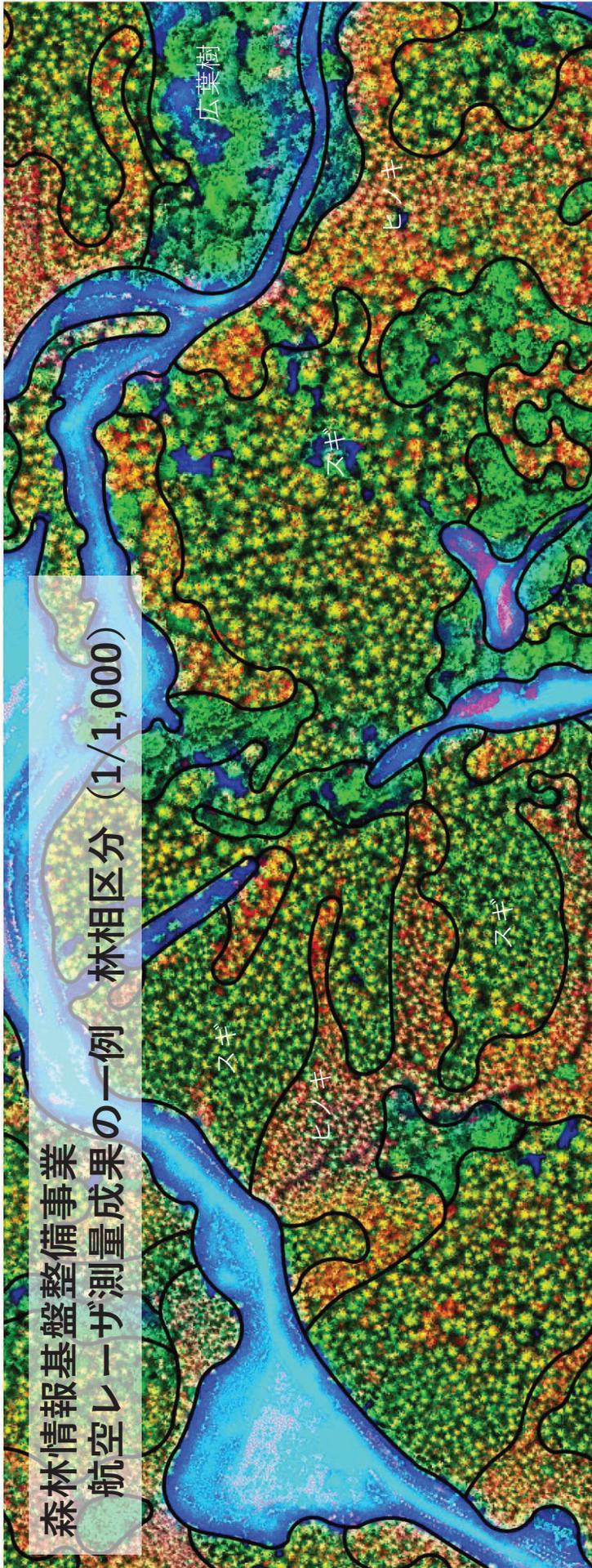
③ 単木情報を林分単位（10m×10m）に集約し、森林の状態を可視化



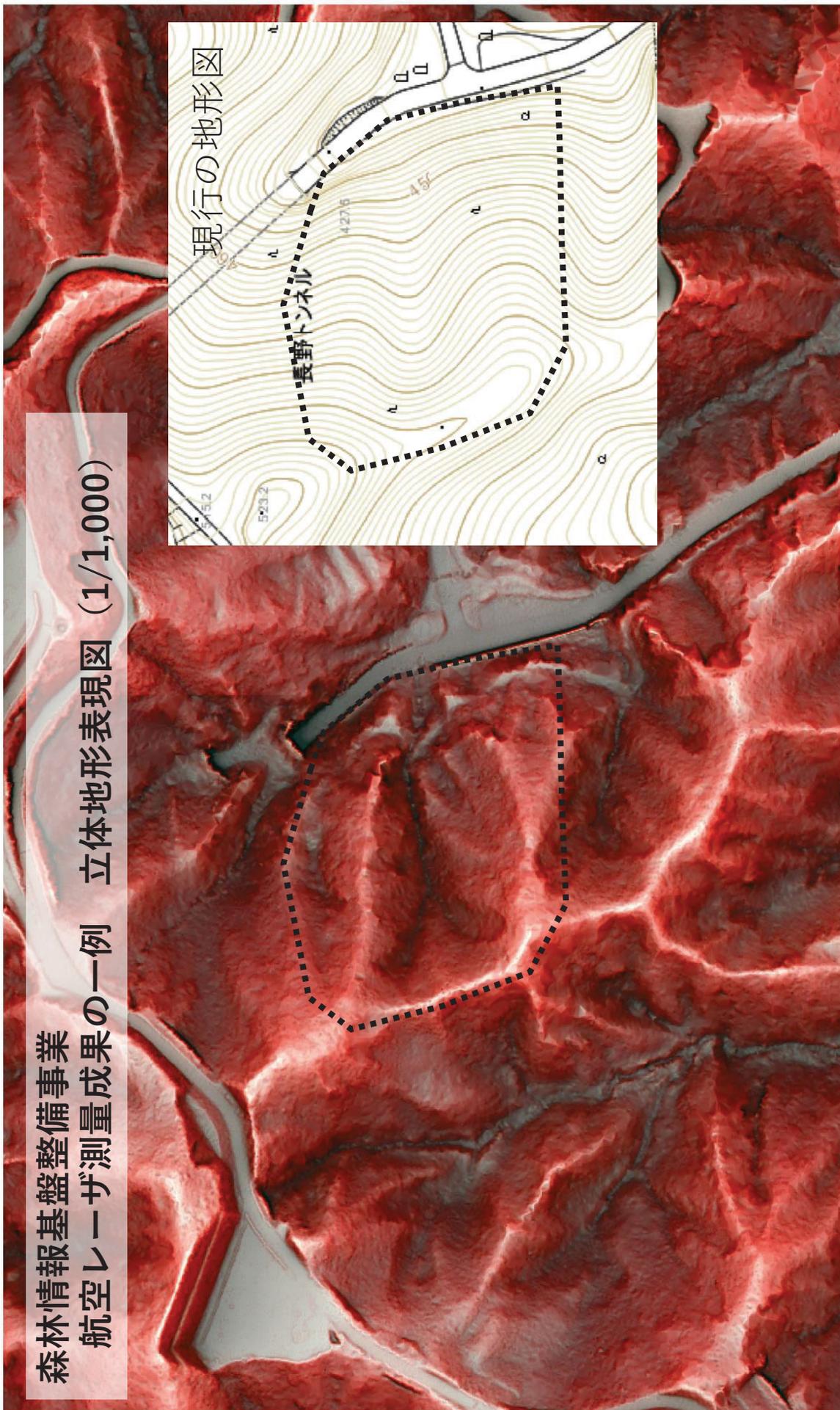
例：過密な林分を赤く着色し可視化。（相対幹距比）



森林整備の優先順位決めに活用可能

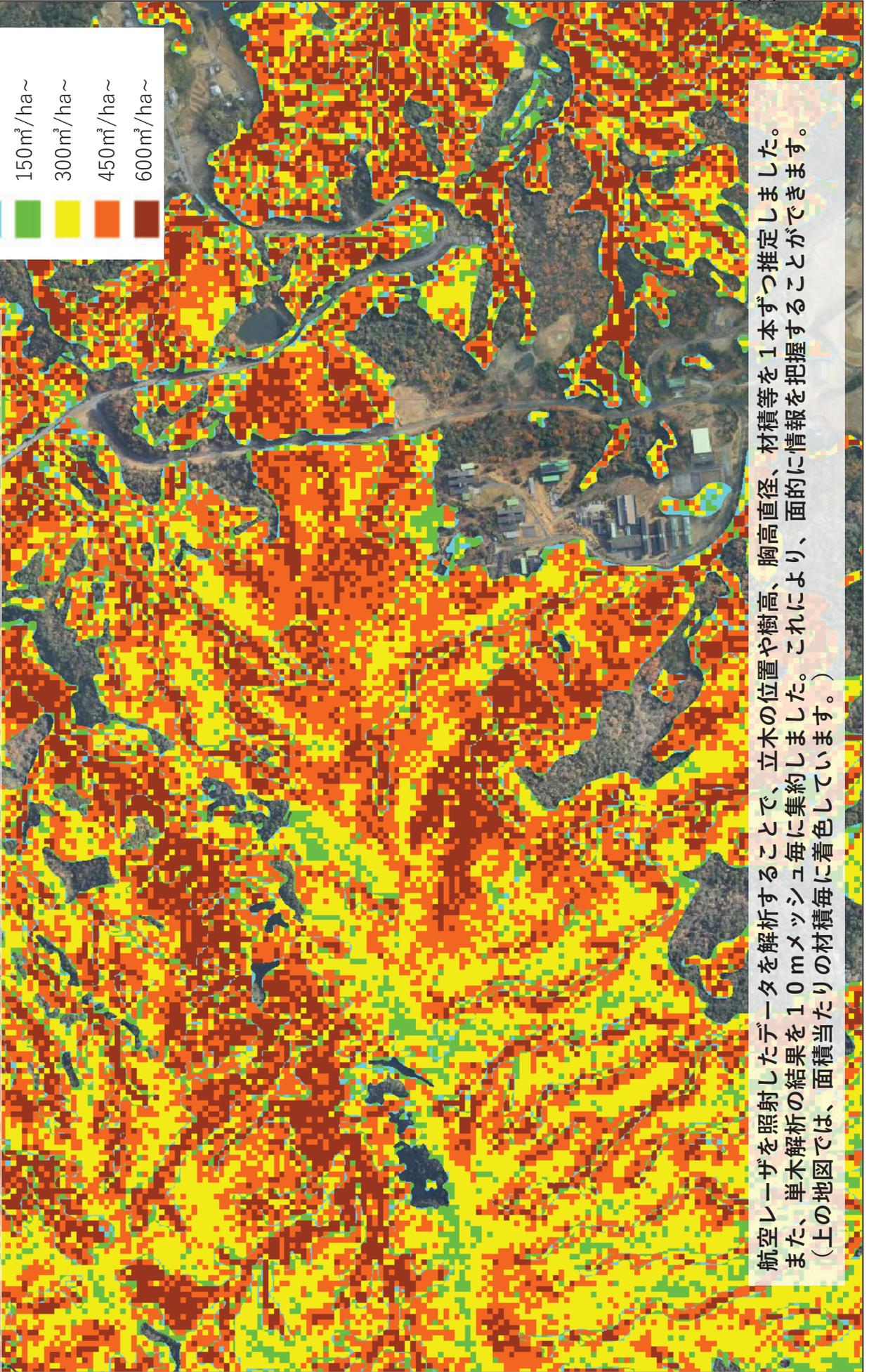


森林情報基盤整備事業
航空レーザー測量成果の一例 立体地形表現図 (1/1,000)



飛行機からレーザー光を照射し、反射した位置を算出することで、詳細に地形を計測し、立体地形表現図を作成しました。
 現行の空中写真から作成した等高線図(右)では微地形は読み取ることができませんが、航空レーザー測量で作成した立体地形表現図(左)では、地形の崩れや浸食状況などを読み取ることができます。
 従来、現地に行かなければわからなかった情報が事前に机上でわかるため、危険で重労働であった現地調査を省力・軽減することができま

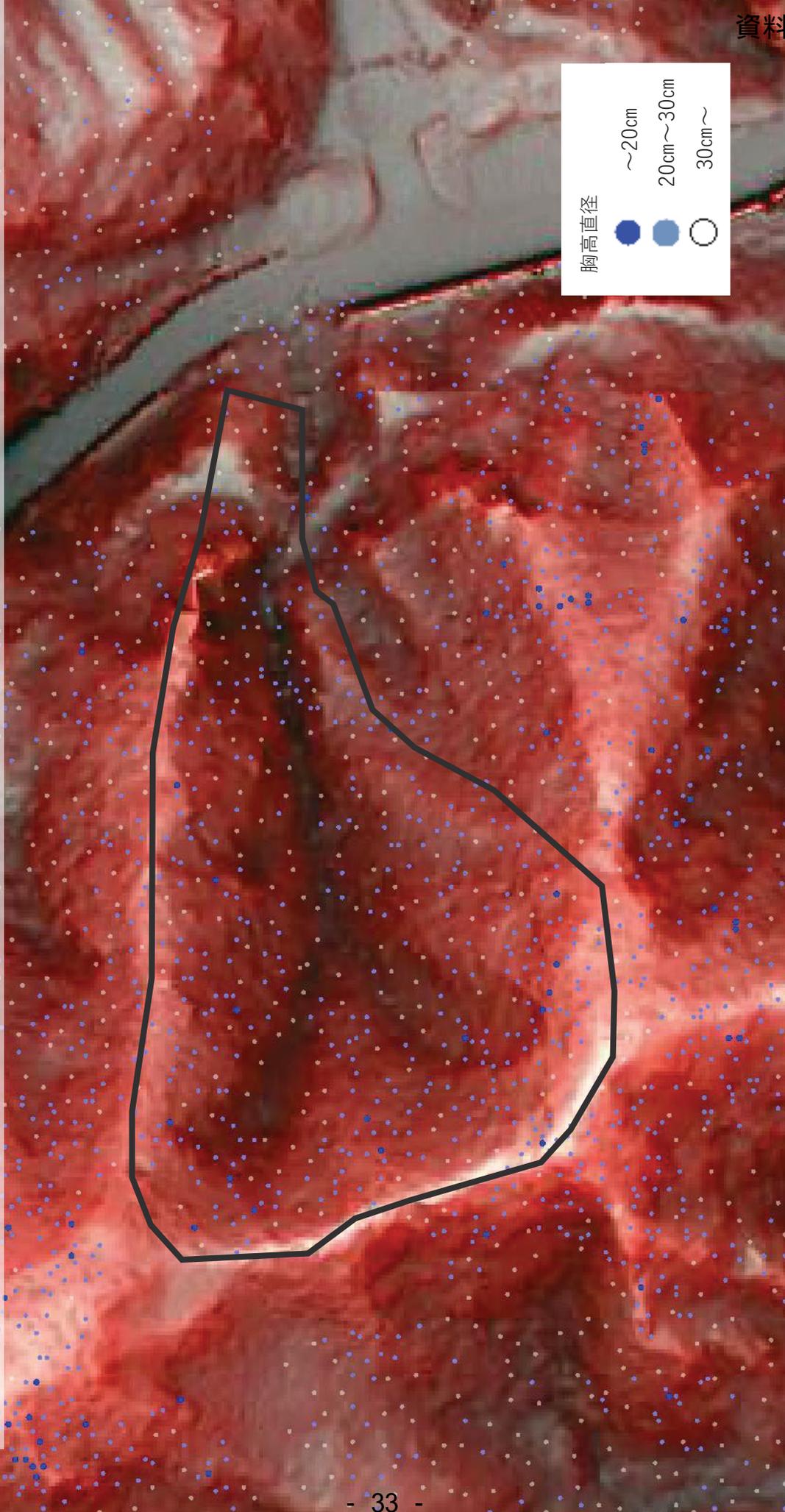
森林情報基盤整備事業 航空レーザー測量成果の一例 森林資源解析（材積）（1/1,0000）



航空レーザーを照射したデータを解析することで、立木の位置や樹高、胸高直径、材積等を1本ずつ推定しました。また、単木解析の結果を10mメッシュ毎に集約しました。これにより、面的に情報を把握することができます。（上の地図では、面積当たりの材積毎に着色しています。）

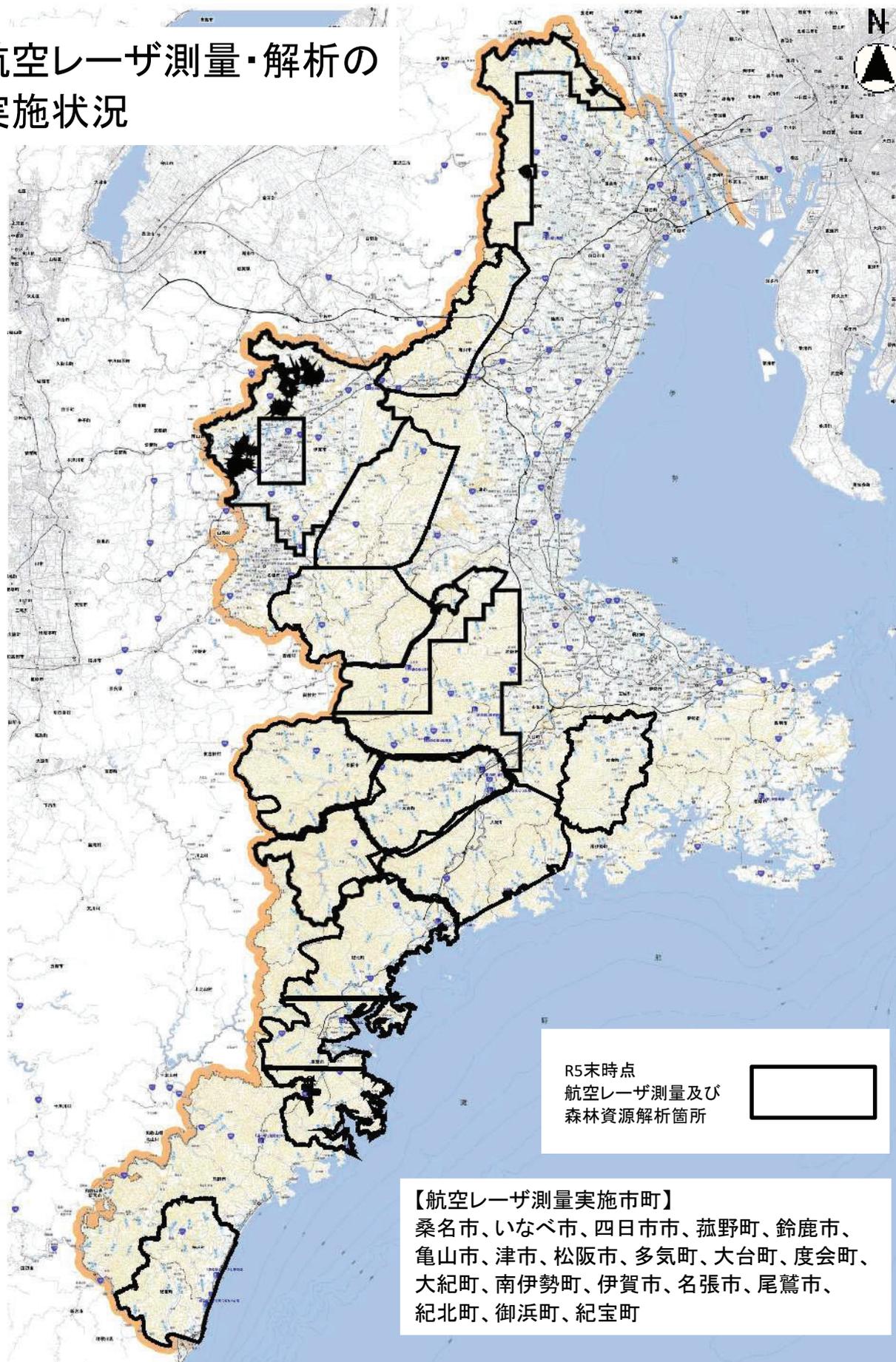
森林情報基盤整備事業

航空レーザー測量成果の組み合わせ例 単木解析 (胸高直径) + 立体地形表現図 (1/800)



これらの成果を単独あるいは組み合わせで活用することで、森林整備を進める林分を抽出することができ
 (例) 立体地形表現図から溪流沿いの箇所を探索し、胸高直径が小さく流木化しやすい立木を可視化しました。

航空レーザ測量・解析の 実施状況



森林情報基盤整備事業について

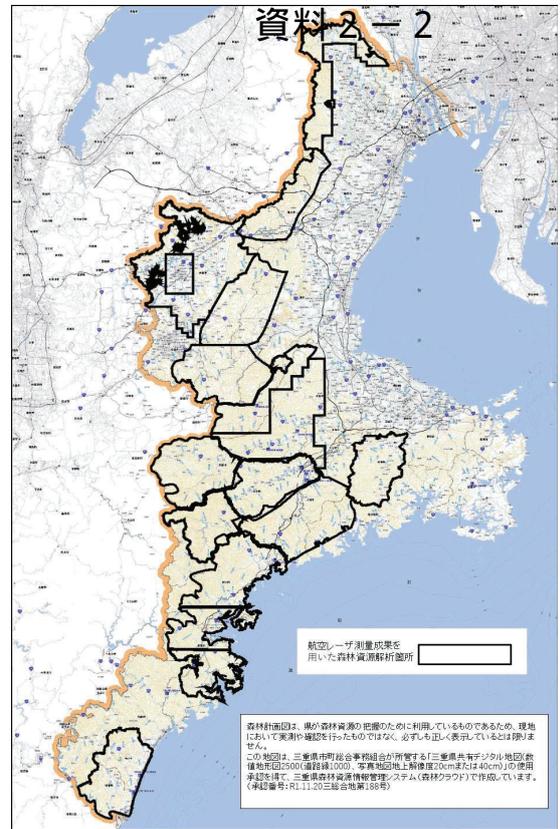
森林情報基盤整備事業とは

県では、災害に強い森林づくりをより効果的に進めるため、令和元年度からみえ森と緑の県民税を活用し、航空レーザ測量と航空レーザ測量成果を用いた森林資源解析により精度の高い森林情報の基盤整備を実施しています。森林情報の基盤整備により、整備が必要な森林や、山地災害や流木被害の発生のおそれのある森林を効率的かつ客観的に、机上で把握することができ、災害に強い森林づくりを着実に進めることができます。

表_航空レーザ測量成果を用いた森林資源解析の実施状況

年度	森林資源解析実施面積 ha		対象市町
	単年度	累計	
R1	39,820	39,820	津市・伊賀市・名張市
R2	55,365	95,185	四日市市・鈴鹿市・亀山市 大台町・度会町・尾鷲市・紀北町
R3	44,038	139,223	松阪市・大紀町・南伊勢町
R4	47,889	187,112	大台町・底野市・紀北町 御浜町・紀宝町
R5	99,320	286,432	桑名市・いなべ市・菟野町 津市・松阪市・多気町・大台町 大紀町・伊賀市・名張市

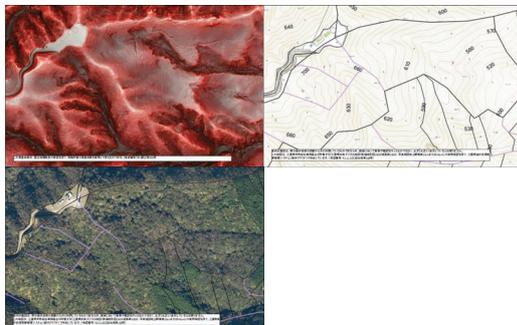
図_航空レーザ測量成果を用いた森林資源解析の実施状況



航空レーザ測量による詳細な地形データの取得

航空レーザ測量とは、飛行機やヘリコプター等からレーザ光を地上に照射し、地形を測量する手法のことです。レーザ光は地表まで到達するため、従来の空中写真測量よりも詳細な地形データの取得が可能です。取得した地形データから傾斜や標高等を割り出し、地図上に表現することで、誰でも容易に地形を把握することができます。以下に、航空レーザ測量による2種類の立体地形表現図(左上)と、それぞれ同一箇所を実施された空中写真測量による等高線地図(右)と空中写真(下)を掲載しました。

(例1) 立体地形表現図の例 (赤色立体地図: アシア航測株式会社調製、左上の図)



(例2) 立体地形表現図の例 (地形起伏図: 中日本航空株式会社調製、左上の図)

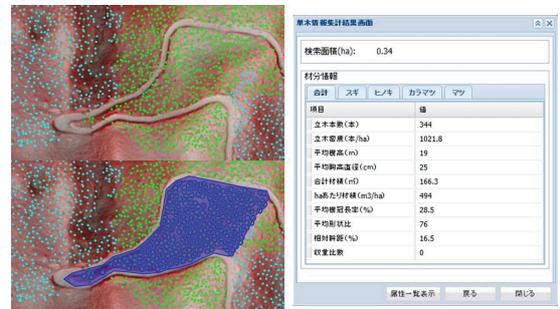


例1の箇所では、空中写真測量による等高線地図からはおおまかな地形形しか読み取ることができませんが、航空レーザ測量による立体地形表現図からは、森林に覆われて上空からは見えにくい小さな尾根や谷、崩壊地形まで読み取ることができます。森林整備を進める上で重要な作業路網の整備状況についても把握することができ、例2の箇所の等高線地図では道が下まで続いているが、実際には伸びていないことがわかります。(赤線箇所) また、現在は森林であっても、地形の形状から過去に田として利用されていたことがわかることで、所有境界の特定に活用できる場合があります。(赤色線箇所)

航空レーザ測量による森林資源解析とは

航空レーザ測量によりレーザ光が樹木に当たった位置情報を解析することで、樹頂点位置や大きさ等の単木情報を推定できます。

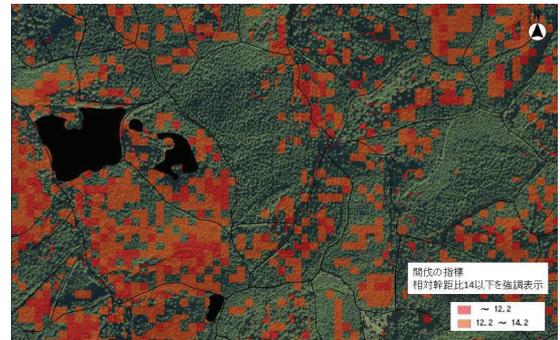
・単木 (樹頂点) データ



上の図では、緑の点がスギ、水色の点がヒノキの樹頂点位置を表しています。点それぞれに単木毎の情報(樹高、DBH、単木材積等)がひも付けられており、GISを活用することで任意のエリアを指定して、情報を集約することが可能です。

※収量比数は単木毎には計算していないため、表記が0になっています。

・森林資源解析データ



森林資源解析データとは、単木毎の情報を10m×10mメッシュ単位で集約し、面的な傾向を可視化できるようにしたデータです。

上の図では、相対幹径比の色調設定を施すことで、森林整備が必要な箇所を可視化した図形になります。相対幹径比(Sr)とは、立木の混み具合の評価を行うものであり、以下の式で算出します。

$$Sr = (100/N)/H \times 100 \quad (N: \text{立木密度 (本/ha)}, H: \text{樹高 (m)})$$

県では、相対幹径比の他、立木密度、代表樹種、平均樹高、平均樹冠長率、平均DBH、総材積、収量比数、平均形状比等計算しており、同様に可視化ができます。

「Mie Click Maps for 三重県森林ページ」 を公開しました

資料2-2

～森林管理のきっかけづくり～

県では、災害に強い森林づくりをより効果的に進めるため、令和元年度からみえ森と緑の県民税を活用し、航空レーザ測量とその測量成果を用いた森林資源解析により精度の高い森林情報の基盤整備を実施しています。得られた森林情報のうち、詳細な地形データや森林の分布などを、WEB上で確認することが可能となります。

また、森林計画図や森林簿の情報の一部についても、WEB上で確認することが可能です。

●所有する森林を確認してみましょう●

森林情報をWEB上で確認することができるため、現地に行かずに所有する森林の情報を把握することができます。

所有する森林の現状が分からずにお困りの方などが、現状を把握するうえで有効な情報収集の手段となります。

立体地形表現図

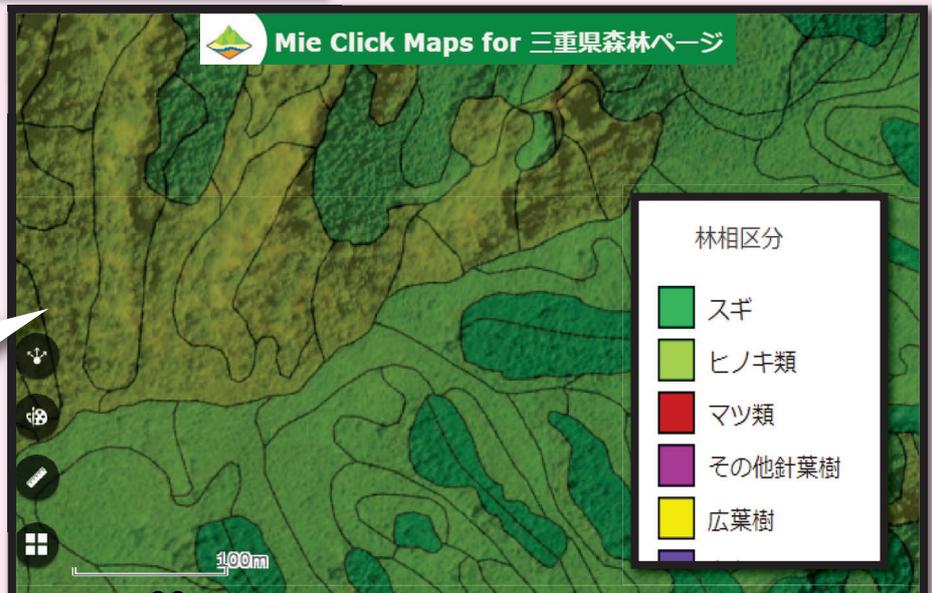


スマホで見れる



微地形を色、濃淡で表現した図です。
森林に覆われて上空からは見えない小さな尾根や谷、崩壊地形まで読み取ることができます。

林相区分図



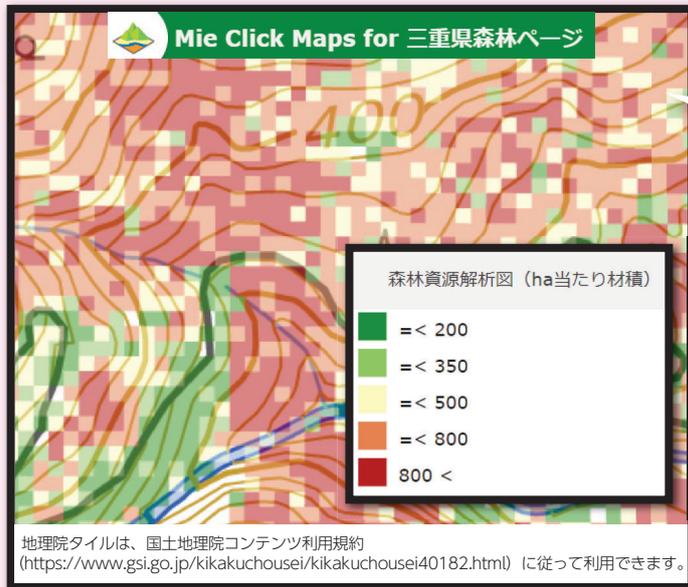
樹種毎に色分けした図です。
森林資源の分布状況を把握することができます。

※同一樹種であっても、本数密度、樹高等に明らかな違いがある場合は分割されています。

森林資源解析データとは、単木毎の情報を10m×10m単位で集約し、森林の特徴を可視化できるようにしたデータです。

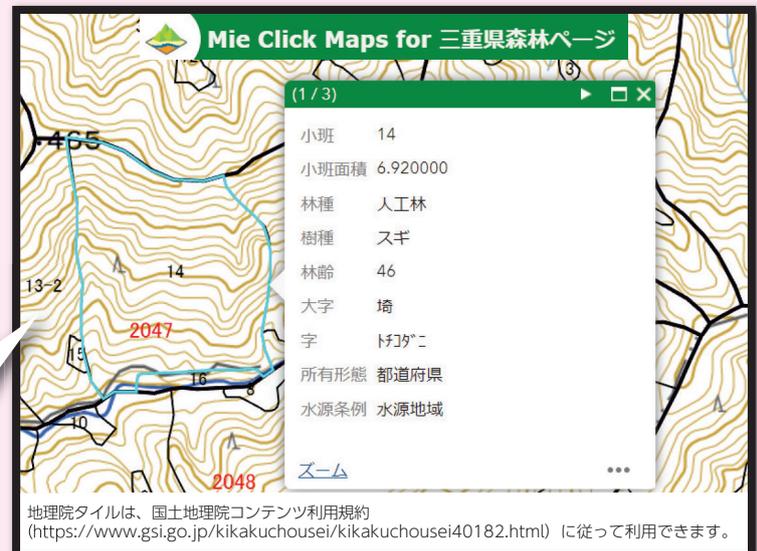
※単木毎の情報→ 航空レーザ測量によりレーザ光が樹木に当たった位置情報を解析し、得られた情報（樹頂点位置や樹高等の推定値）

森林資源解析図(ha当たり材積)



森林のha当たり材積を確認できます。
赤い箇所ほど材積が多いです。
(要因：樹高が高い、密な林分)

森林計画図



森林計画図※をWEB上で確認することができます。
また、森林簿情報(樹種、林齢等)についても、区域ごとに確認できます。
※森林計画図は、樹種や所有形態等により分割されています。

●掲載ホームページの紹介●

三重県地図情報サービス (Mie Click Maps) は、地図を利用して三重県が保有する位置や場所に関する情報を公開・提供するサイトです。

本サイトに三重県森林ページを新たに公開します。

(URL) <https://mcm-map-pref-mie.hub.arcgis.com/>



●お問い合わせ先●

航空レーザ測量に関すること

三重県 農林水産部 森林・林業経営課
スマート林業推進班
TEL059-224-2991

森林計画図に関すること

三重県 農林水産部 森林・林業経営課
森林計画班
TEL-059224-2564

令和 5 年度みえスマート林業推進協議会
第 1 回 森林境界明確化部会 事項書

日時：令和 5 年 10 月 25 日(水) 13 時 30 分～16 時
場所：伊勢市勢田町 628-2 三重県伊勢庁舎 401 会議室

【森林境界明確化部会設置の目的】

森林経営管理制度に基づく集約化施業や、市町による森林管理を進めていくうえで必須となる森林境界の明確化を加速化させていくため、リモートセンシングを活用した効率的な森林境界の明確化の実証と普及を図る。

【情報提供】

1. 森林地域における地番図の面積先行整備による森林境界明確化の進め方

情報提供者

朝日航洋株式会社 空間情報事業本部 自治体アセット事業部
自治体DX推進室 和田 陽一主任技師

2. 参加者による意見交換

令和5年度第1回 ICT 施業推進部会 事項書

日時：令和5年12月4日(月) 13時30分～16時

場所：伊勢市勢田町 628-2 三重県伊勢庁舎 401 会議室

1. 森林可視化による生産性と安全性の向上

～正確な地形解析と維持管理～

情報提供者

株式会社エムズリアライズ 松田 健

株式会社ジツタ 田苗 智大

2. パネルディスカッション

コーディネーター

協同海運株式会社 鍋島 愛

パネリスト

株式会社エムズリアライズ 松田 健

沖中造林株式会社 沖中祐介

3. 参加者からの質問タイム

○第 2 期の取組実績

年度	レーザ計測面積	解析完了面積	計測対象市町	備 考
R1	約643km ² (64,310ha)	約398km ² (39,820ha)	津市・大台町・伊賀市・名張市・尾鷲市・紀北町	大台町・尾鷲市・紀北町は計測のみ
R2	約272km ² (27,205ha)	約554km ² (55,365ha)	四日市市・鈴鹿市・亀山市・大台町・度会町・尾鷲市・紀北町	大台町・尾鷲市・紀北町は解析のみ
R3	約638km ² (63,780ha)	約440km ² (44,038ha)	松阪市・大台町・大紀町・南伊勢町・紀北町	大台町・紀北町は計測のみ
R4	約324km ² (32,386ha)	約479km ² (47,889ha)	津市・松阪市・大台町・尾鷲市・紀北町・御浜町・紀宝町	大台町・紀北町は解析のみ 津市・松阪市は計測のみ
R5	—	約993km ² (99,320ha)	桑名市・いなべ市・菰野町・津市・松阪市・多気町・大台町・大紀町・伊賀市・名張市	全域解析のみ
合計	約1,877km ² (187,681ha)	約2,864km ² (286,432ha)		

○令和 5 年度事業の主な経費

項目	数量	単位	金額(千円)			レーザ計測面積	解析完了面積
			事業費	うち県民税	うち国費		
森林情報基盤整備事業第1号業務委託	1	業務	41,589	17,186	24,403	—	約518km ² (51,762ha)
森林情報基盤整備事業第2号業務委託	1	業務	39,886	39,886	0	—	約476km ² (47,558ha)
合計			81,475	57,072	24,403	—	約993km ² (99,320ha)

④—ア：みえ森林教育ビジョン推進事業

担当課：林業研究所 普及・森林教育課

基本方針：②県民全体で森林を支える社会づくり

対策区分：③森を育む人づくり

1 事業の目的

「森林や木材が暮らしや経済に当たり前に取り入れられている社会づくりへ向けた教育」、「森林に関わる活動やビジネスを志すきっかけとなる教育」、「自ら考え、判断して行動する力を育む森林教育」に取り組むことで、「みえ森林教育ビジョン」を実現し、「県民全体で森林を支える社会づくり」を推進します。

2 令和5年度事業の概要

みえ森林教育ビジョンを実現するため、森林教育の裾野を広げ、子どもから大人まで一貫した教育体系を構築し、主体的・対話的で深い学びの充実を図るためのイベントや講座の開催、みえ森林ワークブックの作成などを実施しました。

【具体的な取組】

(1) 森林教育イベントの開催

- ・第2回みえ森林教育シンポジウム

(2) 森林教育プログラムの展開

- ① 子ども向け講座【ジュニアフォレスター育成講座】
- ② 指導者向け講座【森林をフィールドに子どもの「生きる力」を育む指導者養成講座】
- ③ 学生向け講座【みえ森林教育 学生向け講座～森や木や自然にふれあい、学び、育む森林教育を考えよう～】
- ④ 企業向け講座【みえ森林教育企業講座 SDG s 時代の企業における森林とのつきあい方について考える Vol.3】
- ⑤ 大人向け講座【森のサイエンスカフェ】
- ⑥ 幼児教育関係者向け支援【みえ森林教育アドバイザー派遣】
- ⑦ 小学生向け冊子の発行
 - (A) 副読本「三重の森林とわたしたちの暮らし」
 - (B) みえ森林ワークブック

(1) 森林教育イベントの開催

【第 2 回みえ森林教育シンポジウム】

目的	森林教育に関心のある方から、実際に森林教育に取り組む実践者、また、子どもから大人など幅広い立場の県民が、ワークショップや体験教室に参加し、森林教育について学び、意見を交わし、考える機会を設けるほか、トークセッションや講演会を通じて、森林教育に対する理解を深め、これまで以上に様々な場面で森林教育を推進することを目的に、第 2 回みえ森林教育シンポジウムを開催しました。
日時	令和 6 年 2 月 3 日(土)10 時から 16 時
場所	三重県総合文化センター 男女共同参画棟
対象	県民 参加延べ人数 407 名
内容	<p>第 1 部 ワークショップ及び森林教育体験</p> <p>【ワークショップ】 幼児教育・保育セッション 対象：幼児保育関係者など（参加人数 74 名） テーマ：身近な自然を活用した幼児教育・保育</p> <p>【ワークショップ】 学校教育・森林教育指導者セッション 対象：森林教育指導者など（参加人数 54 名） テーマ：地域と連携した森林教育</p> <p>【森林教育体験】 森のカトラリーづくり 対象：小中学生と保護者（参加人数 23 名） 里山の保全活動で出た小枝を使ったカトラリーづくり</p> <p>【森林教育体験】 森のおくりもの 対象：5 歳以上小学生と保護者（参加人数 19 名） 輪切りと木の実や枝を飾ったオブジェづくり</p> <p>【森林教育体験】 マガジンラックづくり 対象：親子（参加人数 29 名） 県産材を使ったマガジンラックづくり</p> <p>第 2 部 ステージプレゼンテーション（参加人数 208 名）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 10 回みえの森フォトコンテスト表彰式 ・ 講演会 「高知県立牧野植物園の紹介と身近な薬用植物・生薬・漢方薬」 講師：高知県立牧野植物園 園長 川原信夫 氏 ・ トークセッション「地域とともに進める森林教育」 登壇者：高知県立牧野植物園 園長 川原信夫氏、

	<p>お茶の水大学 教授 宮里暁美氏、 (一社) 地球温暖化防止ネット 理事 高田研氏 コーディネーター：(一社) SDGs コミュニティ 代表理事 新海洋子氏</p>
<p>参加者の 反応</p>	<p>【幼児教育・保育セッション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に出ることで、保育者や地域の人を巻き込んでの保育が展開できるということが参考になった。 ・熱い思いを持った人たちとの話し合いや話を聞く機会がもつことができ、とても面白く、有意義な時間だった。 ・公立の園では、保育士の異動があっても自然保育が継続されるようなフィールドを作っておくことが大事と感じた。 <p>【学校教育・森林教育指導者セッション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレイヤーは多いがコーディネーターが少ないという言葉が印象に残った。 ・他の地域の同じような気持ちを持った方々とお話することができてよかった。 ・地域と学校の Win-Win な関係について考える際、それぞれ何が Win なのかという疑問を持てたことがよかった。 ・森林ワークブックを活用したり、マネしたい。 <p>【基調講演】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分であり知る機会のない内容が多く非常に興味深かった。 ・川原先生の植物愛の深さと、視点の持ち方次第で世界が広がることを再確認できた。 <p>【トークセッション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場との一体感があり、心地よかった。 ・内容が濃く、もっと話を聞きたかった。 <p>【シンポジウム全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近にある自然とこれからの付き合い方や自分単位でできることなど、改めて知るきっかけになるものだった。 ・森林教育や森の保育に関わる人が思った以上にたくさんいると気付いた。 ・三重県はどちらかと言うと、海のイメージが強いが森林も多いので、もっとたくさんの人に参加してほしい。



幼児教育・保育セッション



学校教育・森林教育指導者セッション



第 10 回みえの森フォトコンテスト表彰式



高知県立牧野植物園 川原園長による基調講演



トークセッション「地域とともに進める森林教育」



森の学校「森のおくりもの」

第 2 回

みえ森林教育シンポジウム

メインテーマ：地域とともに進める森林教育

2024年 2月 3日(土) 10:00~16:00

場所：三重県総合文化センター 男女共同参画棟

主催：三重県



身近な木・森・自然から学び

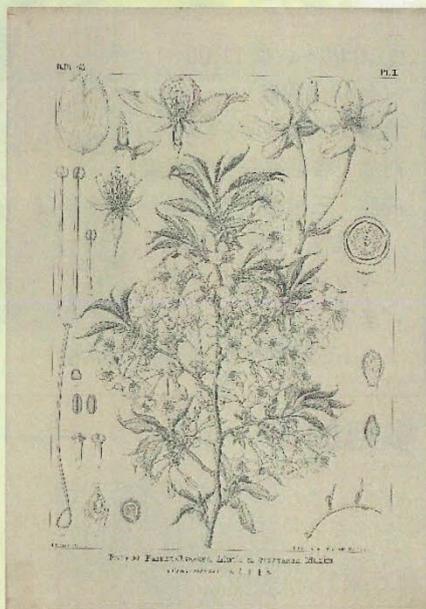
地域の人・文化をつなぐ森林教育を考えよう



～記念講演会～
高知県立牧野植物園の紹介と
身近な薬用植物・生薬・漢方薬

高知県立牧野植物園
園長 川原信夫氏

連続テレビ小説「らんまん」の
モデルとなった牧野富太郎博士の
功績を伝える、
高知県立牧野植物園の川原園長から、
私たちの身近に生育し、
我々の生活に密着してきた
薬用植物の魅力について、
ご講演いただきます。



植物図画像 ヤマザクラ
(高知県立牧野植物園 所蔵)



牧野富太郎肖像画像
(高知県立牧野植物園 提供)



【お問い合わせ先】 三重県林業研究所普及・森林教育課
電話 059-262-5352 FAX 059-262-0960
メール miefa2@pref.mie.lg.jp



みえ森と緑の県民税

この取組には「みえ森と緑の県民税」が活用されています。

プログラム

それぞれ定員がございます。
事前に参加申込フォームより。お申し込みください。

第1部 ワークショップ

幼児教育・保育セッション



10:00～11:45 2F セミナー室A

定員：70名（事前の申し込みが必要です）

テーマ：身近な自然を活用した幼児教育・保育

モデレーター：宮里 暁美 氏

お茶の水女子大学 人間発達教育科学研究所 教授

アドバイザー：嘉成 永慈 氏

保育型認定こども園 森の風こども園 副園長

※ 県内の取組事例の発表のあと、意見交換を行います。

参加申込フォーム

学校教育・森林教育指導者セッション



10:00～11:45 3F セミナー室C

定員：70名（事前の申し込みが必要です）

テーマ：学校、地域と連携した森林教育

モデレーター：高田 研 氏

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長

アドバイザー：平山 大輔 氏 三重大学教育学部 教授

佐藤 洋 氏

山梨県都留市ネイチャーセンター 学芸員

※ 県内の取組事例の発表のあと、意見交換を行います。

参加申込フォーム

森のカトラリーづくり

①10:00～、②11:00～
（各40分程度）

会場：1F 生活工房

対象：小中学生

各回10名程度（小学生は保護者同伴）

（事前の申し込みが必要です）

内容：里山の保全活動で

出た小枝を使って、
カトラリーを作ります。

（みえ森づくりサポートセンター）



参加申込フォーム



森のおくりもの

10:30～（60分程度）

会場：1F 生活工房

対象：5歳以上小学生まで

10名程度（保護者同伴） 参加申込フォーム

（事前の申し込みが必要です）

内容：輪切りの木の上に

木の実や枝を飾って
オブジェを作ります。

（みえ森づくりサポートセンター）



参加申込フォーム



マガジンラックづくり

①10:00～、②11:00～
（各60分程度）

会場：3F フィットネスルーム

対象：各回親子8組程度

（事前の申し込みが必要です）

内容：三重県内の森林か
ら伐採した木を使って、
マガジンラックを作り
ます。

（三重県木材協同組合連合会）



参加申込フォーム



第2部 ステージプレゼンテーション [1F 多目的ホール]

13:00～ 開会

13:05～ 第10回みえの森フォトコンテスト表彰式

13:25～ 基調講演会「高知県立牧野植物園の紹介と身近な薬用植物・生薬・漢方薬」

高知県立牧野植物園 園長 川原 信夫 氏

15:10～ トークセッション「地域とともに進める森林教育」

登壇者：川原 信夫 氏、宮里 暁美 氏、高田 研 氏

コーディネーター：一般社団法人SDGsコミュニティ 代表理事 新海 洋子 氏

16:00 閉会

定員：300名



牧野富太郎肖像画像
（高知県立牧野植物園提供）

基調講演会「高知県立牧野植物園の紹介と身近な薬用植物・生薬・漢方薬」

連続テレビ小説「らんまん」のモデルとなった牧野富太郎博士の功績を伝える、高知県立牧野植物園の川原園長から、私たちの身近に生育し、我々の生活に密着してきた薬用植物の魅力について、ご講演いただきます。



川原 信夫：高知県立牧野植物園 園長

1962年東京都生まれ。

1984年星薬科大学薬学科卒業、薬剤師。1990年星薬科大学大学院薬学専攻科博士課程修了、薬学博士。

同年国立衛生試験所（現国立医薬品食品衛生研究所）生薬部に採用され、漢方薬原料生薬の品質評価に関連する化学的研究に従事する。2002年から生薬部第一室長を経て、2009年より医薬基盤・健康・栄養研究所薬用植物資源研究センターに異動し、薬用植物の国内栽培振興に関連する調査・研究にも取り組む。2021年より現職。



牧野植物園 南園
（高知県立牧野植物園提供）

事前申込のうえ、
ご参加ください。



参加申込フォーム

※予告なく内容を変更する場合があります。

※ 第1部、第2部ともに、事前申込が必要ですが、ステージプレゼンテーションは、席に余裕がある場合は当日参加も可能です。

(2) 森林教育プログラムの展開

① 子ども向け講座

【ジュニアフォレスター育成講座】

目的	森林や自然、野外活動等に関心のある子どもたちの学びの意欲をさらに高揚し、森林・林業及び持続可能な社会への理解を促進するとともに、子供たちの創意工夫や適応力、寛容さなどを養い、「生きる力」を育むことを目的に講座を実施しました。
開催日	令和5年12月23日(土)、24日(日) 令和6年1月13日(土)、14日(日) 計4日間
場所	三重県立熊野少年自然の家
対象	参加人数 12名 小学校4年生から6年生
内容	<p>1回目：12月23日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズでみえの森林・林業の姿を知る ・セーザイゲームで製材の仕事を知る、木取りの模擬体験をする ・木の大きさを予測・計測する ・ヒノキの伐倒体験 ・クリスマスリースづくり <p>2回目：12月24日(日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊野の森と木の観察、樹木医の先生からその魅力を学ぶ ・木の二酸化炭素の吸収量を測る ・薪割り体験・焚き付け体験 ・木の活用法について考える <p>3回目：1月13日(土)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹を使った弓矢づくり ・焚き付け体験・野外炊事 ・セーザイゲームで原木市場と木取りの模擬体験 ・木の付加価値について考える ・キャンドルサービス、冬の星空観察 <p>4回目：1月14日(日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の山で育った木でイスづくり ・ワークショップ「森の価値について考える」
参加者の反応	<p>【ワークショップ「森の価値について考える」で出された意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森はたくさんの生き物のすみかになっているから、森を奪うことは森に生きている生物のすみかを奪うことになるから、森林環境を大切にしないといけないと思った。 ・森を大切にしないと災害が起こるから、森の大切さをできるだけ

たくさんの人に伝えたい。

- ・木からいろいろな物ができるから、森を大切にしないといけない。
- ・森を大切にするために、木を高く買う。
- ・和室をたくさんつくったら、森の価値が高くなると思う。
- ・木がなくなったら、人間は生活できないと思った。
- ・森を大切にするためにも、森に人が踏み入って、木でいろんなものを作る方がいいと思った。

ジュニアフォレスター育成講座の開催状況



3回目：焼き付け体験



3回目：セーザイゲーム
原木市場と木取りの模擬体験



4回目：熊野で育ったスギ材でイスづくり



4回目：森の価値についての発表

～森林の価値を考えよう！～

ジュニアフォレスター育成講座

2023年

2024年

12月23日(土)、12月24日(日)、1月13日(土)、1月14日(日)

※1月13日～14日は宿泊を伴うプログラムです。
参加決定後、保護者の同意書を提出していただきます。

三重県立熊野少年自然の家 (熊野市金山町1577 TEL0597-89-3340)

フォレスターとは、森林を守り育てて活用するプロフェッショナル。

森林の生き物を観察したり、木を伐りたおしたり、
丸太を木材にするゲームや、木を使った道具づくり、

そして火おこしなどの体験を通して、

きみもフォレスターになろう！

森林や木材のみりよくやはたらきについて、

学び・体感して考える4日間です！



※写真は、昨年
三重県民の森で
開催した際の様子で、
イメージです。

定員：15名程度

※応募者多数の場合は抽選となります。また、応募人数が10名未満の場合は中止とします。

※抽選結果や中止の場合等、いずれも同日にご連絡します。

対象：全4日間参加できる三重県内の小学4～6年生

※ご兄弟、ご友人同士の組抽選は行いません。※お子様だけのプログラムです。

参加費：12月23日：570円、12月24日：570円、1月13日～14日：1,610円

※食事代として、当日徴収いたします。

募集締切：令和5年12月15日(金)午前11時

申込方法：裏面の参加申込書により、電話、fax、e-mail、ハガキの

いずれかで下記、申込み先までお申し込みください。※ハガキの場合は12月14日(木)必着

主催：三重県林業研究所、共催：(有)熊野市観光公社・三重県立熊野少年自然の家

申込み・問合せ先：三重県立熊野少年自然の家

〒519-4327 熊野市金山町1577

TEL 0597-89-3340 fax 0597-89-3387 e-mail: uketsuke@kuma-sho.com



4 日間のプログラム

第 1 日目：12月23日(土)

- 9 : 0 0 受付
 9 : 3 0 開講式・オリエンテーション
 三重・熊野の森林・林業を知ろう
 (お昼休み)
 木の大きさを測ろう
 木を伐りたおしてみよう
 クリスマスリースをつくろう
 1 5 : 3 0 解散

第 2 日目：12月24日(日)

- 9 : 0 0 受付
 9 : 3 0 熊野の森林の生き物を知ろう・見よう
 (お昼休み)
 木の二酸化炭素の量を測ろう
 火をおこしてみよう
 1 5 : 3 0 解散

第 3 日目：1月13日(土)

- 9 : 0 0 受付
 9 : 3 0 弓矢をつくってみよう
 自分でおこした火でカレーをつくろう
 (お昼休み)
 セーザイゲームで製材屋さんの仕事を知ろう
 (夕食：熊野少年自然の家)
 キャンプファイヤーお楽しみプログラム♪
 冬の夜空を楽しもう
 2 1 : 0 0 就寝(熊野少年自然の家 泊)

第 4 日目：1月14日(日)

- 6 : 3 0 起床
 (朝食・部屋の片付け)
 9 : 0 0 木で自分の椅子をつくろう
 森林の価値を考えよう
 閉講式
 1 1 : 4 5 解散

みえ森林教育の取組

三重県では、「みえ森林教育ビジョン」に基づき、森林と私たちの暮らし、経済がともに持続可能で豊かな社会をつくるために、誰もが森林や木に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人に育つことを促す「みえ森林教育」の取組を進めています。

今回の講座では、小学生の皆さんに、森林での体験や学びを通して、仲間と楽しみながら森林の価値を探ることで、様々な気づきを得て、森林・林業・木への理解や関心を深めてもらいたいと考えます。

※写真は、昨年三重県民の森で開催した際の様子で、イメージです。



※ 天候等により日程及びプログラムの内容を変更する場合があります。

参加にあたっての注意事項

- ・ 野外活動に適した服装及び靴で、帽子、上着(防寒着)、筆記用具(ノート含む)、水筒をご持参ください。
- ・ 第3日目～第4日目は宿泊を伴います。パジャマ、洗面道具、バスタオル等各自必要なものをご持参ください。
- ・ けがや事故が発生した場合は、応急処置を行います。その補償につきましては、加入する保険の範囲内で行いますので、ご了承ください。

ジュニアフォレスター育成講座 参加申込書

申込先：三重県立熊野少年自然の家

〒519-4327 熊野市金山町1577 fax 0597-89-3387 e-mail: uketsuke@kuma-sho.com

- ・ FAX申込は各項目ご記入のうえ、そのままご送信ください。メール申込は下記事項をご記入のうえ、メールをご送信ください。
- ・ 収集した個人情報は三重県個人情報保護条例に基づき適切に管理します。

ふりがな 参加者氏名	(年生) (性別)	ふりがな 保護者氏名	
電話番号 日中連絡のつく番号		メール アドレス	
住所	〒	備考 連絡欄	

②指導者向け講座

【森林をフィールドに子どもの「生きる力」を育む指導者養成講座】

目的	「自ら考え、判断して行動する力を育む森林教育」を進めていくため、森林をフィールドに子どもの「生きる力」を育むことのできる指導者を育てることを目的に、講座を実施しました。
開催日	令和5年11月25日(土)、12月2日(土)、12月3日(日) 12月16日(土)、12月17日(日) 令和6年1月13日(土)、1月14日(日) 計7日間
場所	速水林業大田賀山林、三重県林業研究所、 国立曽爾青少年自然の家、三重県立熊野少年自然の家
対象	参加人数 10 名 ・三重県内に在住、通勤又は通学している 18 歳以上の方 ・教育・保育関係者（志望者を含む）、森林教育指導者、自然体験等施設関係者又は当該分野に関する取組を実践されている方
内容	1 回目：11 月 25 日(土) 森林の姿と持続可能な利用について知る 講師：速水林業 代表 速水 亨 氏 場所：速水林業大田賀山林 2 回目：12 月 2 日(土) 子どもの生きる力を育む自然体験活動 ～指導者としての心構え～ 講師：国立曽爾青少年自然の家 所長 藤井 玄 氏 (一社) 明和観光公社 岡野 ころろ 氏 場所：三重県林業研究所 3 回目：12 月 3 日(日) 対象者を理解する～発達段階を踏まえた子どもとの関わり方～ 講師：国立曽爾青少年自然の家 所長 藤井 玄 氏 場所：三重県林業研究所 4 回目：12 月 16 日(土) そに森の子キャンプの視察と自然体験での指導法 講師：国立曽爾青少年自然の家 菱川 裕輝 氏 場所：国立曽爾青少年自然の家 5 回目：12 月 17 日(日) 自然体験活動における安全管理 講師：天理大学 准教授 蓬田 高正 氏

	<p>国立曽爾青少年自然の家 菱川 裕輝 氏 場所：国立曽爾青少年自然の家 6・7日目：1月13日(土)・14日(日) 子どもを対象とした自然体験指導（実践） 講師：国立曽爾青少年自然の家 所長 藤井 玄 氏、菱川 裕輝 氏 （一社）明和観光商社 岡野 ころろ 氏 場所：三重県立熊野少年自然の家</p>
参加者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・森林教育をすることの必要性や、その意味・目的を世界の森林まで含めた広い視野から学ぶことができた。 ・100年単位で考えて木を植えていかなければならないなど、時間と気力とお金が必要であり、世代を超えた持続していくためには、関係者や次世代への教育が必要であると思いました。 ・リーダーとしての心構えや関わり方、参加者のことを知るためのポイントなど、とても分かりやすく学べました。 ・ただ知識や技術を伝えるだけでなく、参加者を理解し、参加者どうしの距離も近づける必要があることがわかりました。 ・体験活動は指導者次第でよくも悪くもなることがわかったので、責任の重大さを感じた。 ・子どもたちのことをよく見極めて、それぞれにあった対応をし安全安心に楽しく過ごしてもらえる場所をつくっていかないといけないと思った。 ・実際に子どもたちの姿を見て、動き、感情、モチベーション、得意不得意などしっかりと関わることができた。 ・自分が思っていたよりも高学年の子どもが楽しんでいる姿は、本当にうれしかった。 ・前日のセーザイゲームで木取りや木材について学んだあとに、実際に木材に触れてしかも熊野スギを使って木製品を自分の手で作るという内容はとてもいいプログラムだと思いました。 ・実際に子どもたちの指導する時間がたくさんあった、とても実践に役立つ講座でした。 ・コーチ陣の具体的で実用的なアドバイスや手厚い支援のおかげで、リーダーとして活動するために必要なこと、大事にしなければならないことがとてもよく理解できた。

森林をフィールドに子どもの「生きる力」を育む指導者養成講座の状況



1 回目：速水林業大田賀山林の視察



2 回目：焚き付けの実習



4 回目：そに森の子キャンプの視察



5 回目：安全管理の演習



6 回目：弓矢づくりでの指導実践



7 回目：指導実践のあとのふりかえり



森林をフィールドに子どもの「生きる力」を育む 指導者養成講座

自然体験活動指導者〔NEALリーダー〕資格取得可能カリキュラム



森林や野外をフィールドに、子どもたちの主体的、対話的で深い学びを促進し、「自ら考え、判断して行動する力」「生きる力」を育む指導者養成講座を実施します。

また、この講座は自然体験活動指導者（NEALリーダー）養成カリキュラムに相当する内容となっており、所定のカリキュラム修了時に認定試験に合格すると自然体験活動指導者（NEALリーダー）に登録することができます。

11/25(±)、12/2(±)、12/3(㊟)、12/16(±)、12/17(㊟)、1/13(±)、1/14(㊟)

- 日 程：全7日間（日時・内容は下記の概要のとおり）
- 講 師：速水林業代表 速水 亨氏（11月25日のみ）
天理大学体育学部体育学科准教授 蓬田 高正 氏
国立曾爾青少年自然の家所長 藤井 玄 氏 等（上記以外の日）
- 対 象：次の要件を全て満たす方
 - ・三重県内に在住、通勤又は通学している18歳以上の方
 - ・教育・保育関係者（志望者含む）、森林教育指導者、自然体験等施設関係者又は当該分野に関する取組を実践されている方
 - ・原則、全日参加可能な方
- 定 員：10名程度（申込先着順）
- 参加費：無料
※ ただし、曾爾青少年自然の家（第4・5回）及び熊野少年自然の家（第6・7回）において、宿泊及び食事を希望されます場合は、施設利用料及び食費をご負担いただきます。
- 申込方法：右記のQRコード、三重県林業研究所ホームページ、みえ森林・林業アカデミーフェイスブックから、専用申込フォーム（<https://logoform.jp/form/8vMX/354305>）にアクセスしてお申し込みください。お問合わせは、下段に記載の林業研究所普及・森林教育課までご連絡ください。
- 申込締切：令和5年11月15日（水）17時
※ 申込人数が定員に達した場合、申込を早期に締め切る場合があります。
- 概 要：1. 導入（第1回）
「持続可能な森林利用」に関する基礎知識と環境に配慮した林業について、講義と現地視察を通じて学び、日本の森林・林業の課題について考えます。
2. 講義・実習（第2回～第5回）
森林・野外での体験活動の意義や指導者としての技術、対象者理解、安全管理に加え、子どもの生きる力を育む体験活動の先進地視察から活動の運営方法や指導者の子どもとのかかわり方について学びます。
3. 実践（第6回～7回）
視察や講義・実習で学んだことをもとに、県主催の小学生を対象とした森林教育講座「ジュニアフォレスト育成講座」において、運営スタッフとして運営に関わります。
- 主 催：三重県 ■ 共 催：（独）国立青少年教育振興機構 国立曾爾青少年自然の家



専用申込フォーム
QRコード



○問合せ先：三重県林業研究所普及・森林教育課
〒515-2602 津市白山町二本木3769-1 TEL：059-262-5352 / FAX：059-262-0960 Mail：miefa2@pref.me.lg.jp

■第1回 フィールド（森林）についての理解、「持続可能な森林利用」

日時：令和5年11月25日(土)10:00-15:00

場所：速水林業大田賀山林（紀北町上里地内）

講師：速水林業代表 速水亨氏

■第2回 子どもの生きる力を育む自然体験活動 -指導者としての心構え-

日時：令和5年12月2日（土）10:00-15:00

場所：三重県林業研究所みえ森林・林業アカデミー棟中教室（津市白山町二本木3769-1）

■第3回 対象者を理解する -発達段階をふまえた子どもとの関わり方-

日時：令和5年12月3日（日）10:00-15:00

場所：三重県林業研究所みえ森林・林業アカデミー棟中教室（津市白山町二本木3769-1）

■第4回 そに森の子キャンプ（国立曽爾青少年自然の家主催）の視察

日時：令和5年12月16日(土)13:00-15:00

場所：国立曽爾青少年自然の家（奈良県曽爾村太良路1170）

■第5回 自然体験活動における安全管理

日時：令和5年12月17日（日）10:00-15:00

場所：国立曽爾青少年自然の家（奈良県曽爾村太良路1170）

■第6回 活動実践①

日時：令和6年1月13日（土）10:00-16:00

場所：三重県立熊野少年自然の家（熊野市金山町1577）

■第7回 活動実践②

日時：令和6年1月14日（日）10:00-14:30

場所：三重県立熊野少年自然の家（熊野市金山町1577）

この取組には
「みえ森と緑の県民税」が
活用されています。



注意事項

- ・申し込み時に記載していただいた個人情報は、「三重県個人情報の保護に関する法律施行条例」に基づき適切に管理し、本講座の運営及び当該分野に係る情報提供以外の目的で使用することはありません。
- ・自然体験活動指導者（NEAL リーダー）の登録に必要な登録料（一般 5,000 円、学生 3,000 円）は自己負担となります。
- ・講座実施中に写真や動画を撮影し、県の広報媒体で使用させていただくことがあります。撮影が不可の方はあらかじめお申し出ください。
- ・野外での活動は、小雨決行です。荒天の場合は予定を変更する場合があります。
- ・雨具の用意と野外を歩ける靴、服装で参加してください。
- ・昼食と飲料を持参してください。
- ・基礎疾患をお持ちの方で、感染リスクを心配される方は参加をご遠慮いただくようお願いします。
- ・発熱等の症状がある方は参加できません。また、感染防止対策にご協力をお願いします。
- ・気象状況や感染状況により実施方法を変更、または中止する場合があります。

③ 学生向け講座

【森や木や自然にふれあい、学び、育む森林教育を考えよう～】

目的	将来森林教育に携わりたいと考える学生などを対象に、森林や木、自然にふれあいながら学び育む教育・保育について考えることを目的に、講座を開催しました。
開催日	令和5年9月19日(火)、9月22日(金) 2日間
場所	三重県林業研究所 森の風こども園 三栄林産、かぶとの森テラス
対象	主に大学・短大・専門学校・大学校等の教育機関に在学する方で森林・自然、野外体験等を活用した教育・保育・子どもの育ち、森のようちえん、木育などに関心のある方 8名
内容	1日目：9月19日(火) 場所：三重県林業研究所 「なぜ森林教育なのか～SDGsとわたし」 講師：(一社)SDGsコミュニティー代表理事 新海洋子氏 「森と社会の関係を知ろう」「木について知ろう」 講師：熊本大学教育学部教授 田口 博嗣 氏 2日目：9月22日(金) 場所：森の風こども園 「森のようちえんを体感しよう」 場所：三栄林産 かぶとの森テラス 「森林・林業・木材産業の現場を体感しよう」
参加者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が人の生活に密接に関係していることがよく分かった。自然保育ができる保育士になることが夢なので自然の知識をこれからも増やし続けていきたい。 ・木材加工の現場や森林教育の現場を実際に見ることや、森林を守るために働いていらっしゃる方々にお会いすることで、森林を身近に感じる事ができたと同時に、どうして森林を大事にしていくべきなのかを理解することができた。 ・誰もが森林教育を受けることが当たり前になるべきで、森林について実体験を伴って学ぶ人が増えることで、環境に配慮して森を守る社会をつくることに繋がると感じた。 ・森林についての知識だけでなく、教育者としてどうあるべきなのかについても学ぶことができて非常に良かった。 ・2日間参加して、こんなにも森林について考えたのは初めてでした。

学生向け講座の状況



1回目：講義「なぜ森林教育なのか」



1回目：講義「森と社会の関係を知ろう」
「木について知ろう」



2回目：森の風こども園視察の様子



2回目：かぶとの森テラス視察の様子



2回目：製材所視察の様子



みえ森林教育 学生向け講座

森や木、自然に ふれあい、学び、育む 森林教育を考えよう

参加費
無料

森や木、自然にふれあいながら学び育む教育・保育の実践に向けて、森林教育について学び、考える、学生向け講座を開催します。森と社会との関係や木について知るとともに、森林教育や森林・林業・木材産業の現場を体感することのできる2日間となっていますので、ぜひご参加ください。



9/19 火 , 9/22 金

全2日間、詳細は裏面をご覧ください

開催場所 9月19日 三重県林業研究所（津市白山町二本木3769-1）
9月22日 森の風こども園（三重郡菰野町千草1622）
三栄林産 かぶとの森テラス（亀山市加太中在家8125）
亀山市林業総合センター（亀山市加太板屋4622-1）
※9/22は近鉄四日市駅に集合、津駅にて解散となります。

主催 三重県

参加費 無料

対象 主に大学・短大・専門学校・大学校等の教育機関に在学する方で、森林や木、自然を活用した教育・保育などに関心のある方（全2日間に参加できる方）

定員 15名
※先着順/県内に在学・在住する方を優先する場合があります。

申込方法 QRコード/三重県林業研究所ホームページ/みえ森林・林業アカデミーFacebookページから講座受付フォームにアクセスしてお申し込みください。



申込期限 令和5年9月5日（火）17:00まで
※定員に達した時点で募集を締め切ります。

お問合せ 三重県林業研究所 普及・森林教育課
TEL 059-262-5352 FAX 059-262-0960
E-mail miefa2@pref.mie.lg.jp 58 -



この講座は「みえ森と緑の県民税」を活用して実施しています。

■ スケジュール

1 日目 (9月19日)

- 9:30~10:00 あいさつ・オリエンテーション
- 10:00~11:30 『なぜ森林教育なのか ~SDGsとわたし』
(一社)SDGsコミュニティ代表理事 新海 洋子 氏
- 11:30~12:00 三重県林業研究所 みえ森林・林業アカデミー棟 施設見学
- 13:00~16:00 『森と社会の関係を知ろう』『木について知ろう』
熊本大学教育学部教授 田口 浩継 氏
- 16:00~16:30 ふりかえり・意見交換

2 日目 (9月22日)

- 9:30~10:00 近鉄四日市駅集合・バス移動
- 10:00~11:15 『森のようちえんを体感しよう』
※森の風こども園 (菰野町千草)
- 11:15~13:15 バス移動・昼食
- 13:15~14:45 『森林・林業・木材産業の現場を体感しよう』
※三栄林産 かぶとの森テラス (亀山市加太中在家)
- 14:45~15:00 バス移動
- 15:00~16:00 ふりかえり・意見交換
- 16:00~16:30 バス移動・津駅にて解散

※(一社)SDGsコミュニティ代表理事 新海洋子氏には、全日程のモデレーターとしてもご参加いただきます。
※両日ともに各自昼食をご持参ください。



みえ森林・林業アカデミー棟



森の風こども園



かぶとの森テラス

■ 講師紹介

新海 洋子 (しんかい ようこ)



一般社団法人 SDGsコミュニティ代表理事

SDGs・ESDプログラム開発、協働による地域課題解決の取組創出、協働による政策づくり、ESD/SDGs研修等を行う。

田口 浩継 (たぐち ひろつぐ)



熊本大学 教育学部 教授

木育・木材利用、森と人との関わりについての啓発に尽力。
熊本県が発行する小学生・中学生の森林・林業・木材産業に関する副読本の監修を務める。

④ 企業向け講座

【みえ森林教育 企業講座 SDG s 時代の企業における森林とのつきあい方について考える Vol.3】

目的	企業（事業者）を対象に、代々手入れされてきた林業地を見学することで、森林を知る体験をし、森林の現状や森林を活用することの意義などについて学び、企業が森林との結びつきやビジネスチャンスなどについて考える機会を創出することを目的に、講座を実施しました。
開催日	令和 5 年 9 月 26 日(火)、11 月 10 日(金) 2 日間
場所	速水林業大田賀山林、三重県林業研究所 他
対象	参加人数 7 社 11 名 三重県内に本社、または事業所を置かれている企業の方 (林業関係事業体を除く)
内容	総合講師：三重大学人文学部教授 青木 雅生 氏 1 回目：9 月 26 日(火) 場所：速水林業大田賀山林 「森林・林業に関する講義」「林業地見学」 講師：速水林業 速水 亨 氏 2 回目：11 月 10 日(金) 場所：三重県林業研究所、woodjob(株) 「製材所見学」「林業に関する講義」 ディスカッション「SDG s 時代の企業における森林との付き合い方」
参加者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・三重の森林と木の利活用について企業としてどうすべきか考える良い機会となった。 ・過疎地域の林業の衰退状況や子どもの人口減少の危機感を目の当たりにし、真剣に何ができるのかを考えたい。 ・参加者の方に SDG s の担当の方が多くいらっしゃり、県内企業においても ESG 経営に積極的に取り組んでいることが印象に残った。 ・元気で挑戦心のある若い林業や木材関係の経営者がおり、多様な働き方を受け入れていることが印象的だった。 ・企業として三重の森林との付き合い方を意識し、計画立案、具現化していこうという意識の変化があった。 ・今回の講座で「直接林業に携わっていない企業、人も林業に参加できる」ことを知り、今後の展開の参考になった。

企業向け講座の状況



1回目：速水氏による講義の様子



1回目：林業地視察の様子



2回目：製材所視察の様子



2回目：青木氏と木村氏による講義の様子



2回目：ディスカッションの様子
「三重の資源、森と木をどう活かすか」





日本の森林は、木材利用だけでなく、国土保全や水源かん養など、私たちの暮らしを支える重要な役割を担っています。今まさに利用期を迎えているにも関わらず、この豊富な資源が十分に活用されず、林業や木材産業の担い手が不足する中、森林をいかに健全な状態で持続させていくかが大きな課題となっています。

SDGsの時代にあって、私たちを取り巻く環境や社会、経済がうまく調和し、持続可能で豊かな社会をつくっていくためには、三重県の森林を上手く活用し、林業・木材産業だけにとどまらず、健康、観光、教育などの新たな視点で事業を展開するなど、森林や木材が私たちの暮らしの中で、ごく当たり前に取り入れられている社会をつくっていく必要があります。

県では、森林や森林資源を活用する担い手として、林業以外の業種の企業にも注目し、企業が新たに森林との結びつきや木材利用、さらには新たなビジネスチャンスなどを考えるきっかけをつくりたいと考え、企業の方を対象とした講座を開催します。

本講座では、実際に林業地や製材・加工場を訪れ、講義と林業最前線の事業者を交えたディスカッションや交流を通じて、これからの森林とのつきあい方について様々な視点から考えていきます。

企業講座参加者募集

全2日間
定員15人(先着順)

令和5年度みえ森林教育 企業講座

「SDGs時代の企業における森林とのつきあい方について考える vol.3」

対象 三重県内に本社、または事業所を置かれている企業の方(林業関係企業を除く)
全2日間の受講が可能な方を対象とし、1企業につき2名まで参加可

内容 ・日本の森林や林業について知っていただく講義
・林業現場(林業地、製材所など)の見学
・森林や林業、地域とのこれからのつきあい方に関するディスカッション
・異業種の方との交流

講師 全日程のモデレーター：青木 雅生氏(三重大学リカレント教育センター 教授)
講師：速水 亨氏(速水林業代表)、青木 雅俊氏(woodjob株式会社代表取締役)
木村 寿志氏(木村森業株式会社代表取締役)

日程 全2日間
第1日目 令和5年 9月26日(火) 10:00~16:30
(集合) 速水林業大田賀山林(三重県北牟婁郡紀北町海山上里) 9:45現地集合
第2日目 令和5年 11月10日(金) 9:00~17:00
(集合) 三重県林業研究所(津市白山町二本木3769-1) 8:45集合
現地見学: woodjob株式会社(津市美杉町丹生俣)

受講料 無料

主催: 三重県林業研究所

⑤ 大人向け講座【森のサイエンスカフェ】

目的	森林教育の裾野の拡大を目的に、森林や木材が暮らしや経済に当たり前に取り入れられている社会づくりについて考える、一般県民を対象とした「森のサイエンスカフェ」を開催しました。
日時	令5年9月18日（月・祝）14時から16時
場所	BROOK FURNITURE CENTER（四日市）
対象	森林・林業に興味のある県民 11名
内容	木や森の魅力を考える 講師：熊本大学教育学部 教授 田口 浩継 氏 (内容) 講師からの講義のあと、参加者で意見交換をしました。
参加者の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・森は分からないから面白いと感じた。 ・子どもの発想力を発揮させる演出が大切ということが分かった。 ・子どもにもわかりやすい体験の紹介もあり、自分もぜひやってみたい。 ・今回の講座で、素材に愛着を持つことが大切と感じた。

大人向け講座の開催状況



田口氏による講義の様子



森のサイエンスカフェ ①



木や森の魅力を考える

9/18 (月・祝)

主に、鈴鹿川の上流の山で育った地域の木で作られた家具を、下流の街で販売しているBROOK FURNITURE CENTERのレンタルスペースで、木や森の魅力や、私たちの生活と森のつながりについて、一緒に考えませんか。

いくつになっても、知りたい・学びたい! 森の話で、知的好奇心をかきたてよう。



■ 講師紹介

田口 浩継 (たぐち ひろつぐ) 先生

熊本大学 教育学部 教授

木育・木材利用、森と人との関わりについての啓発に尽力。

熊本県が発行する小学生・中学生の森林・林業・木材産業に関する副読本の監修を務める。



■ 日時: 令和5年9月18日(月・祝) 13時30分受付 14時から16時まで

■ 場所: BROOK FURNITURE CENTER (JR四日市駅から徒歩6分、近鉄四日市駅から徒歩16分)

〒510-0061 三重県四日市市朝日町11-3

■ 参加費: 無料

■ 対象: 18歳以上の方(15名程度、先着順)

■ 申込方法: 三重県林業研究所ホームページ/みえ森林・林業アカデミーFacebookから専用受付フォームにアクセスしてお申し込みください。

■ 申込期限: 令和5年9月11日(月)15時まで

■ お問い合わせ先: 三重県林業研究所普及・森林教育課

電話059-262-5352 fax059-262-0960 E-mail:mief2@pref.mie.lg.jp

= 参加にあたっての注意事項 =

- ・ 駐車スペースが限られています。公共交通機関をご利用のうえ、ご参加ください。
- ・ 飲み物の持ち込みは自由ですが、アルコール類の持ち込みはご遠慮ください。
- ・ ゴミは各自、お持ち帰りください。

※「サイエンスカフェ」とは、カフェのような雰囲気の中で科学を語り合う場で、イギリスやフランスが期限と言われています。



専用受付フォームの
QRコード

主催: 三重県 この講座は「みえ森と緑の県民税」を活用して実施しています。



⑥ 幼児教育関係者向け支援【みえ森林教育アドバイザー派遣】

目的	森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人づくりを目的とした「みえ森林教育」を推進するため、未就学児を対象とした保育、幼児教育を行う現場での森林教育の取組を支援することを目的に、森林教育アドバイザーを派遣しています。
日時 場所	令和5年9月から令和6年2月 県内の保育施設
対象	森林を活用した保育に取り組みたい、県内の保育所、幼稚園及び認定こども園や市町 4か所
内容	<p>アドバイザー：認定こども園森の風こども園 副園長 嘉成永慈氏 ふらここ保育園（紀北町）保育士等延べ9名参加 9月6日(水)：現場確認 10月26日(木)：保育指導 12月21日(木)：保育指導</p> <p>よっかいちひばり保育園（四日市市）保育士等延べ11名参加 9月7日(木)：現場確認 11月30日(木)：保育指導 1月11日(木)：保育指導</p> <p>きしだこども園（鈴鹿市）保育士等延べ17名参加 10月25日(水)：現場確認 12月15日(水)：保育研修会 1月24日(水)：保育指導</p> <p>名張市（こもはら保育所）保育士等延べ30名参加 11月10日(金)：現場確認 11月22日(水)：保育指導 2月15日(木)：保育指導</p>
アドバイザー派遣の結果	<p>ふらここ保育園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動フィールドとして、低年齢児でも活動しやすい場所が選定できた。 ・年代別に目的意識を持った、自然保育が実践できるようになった。 <p>よっかいちひばり保育園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所有者の了解を得て、保育園関係者で竹林に続く土手を整備することができた。 ・地区の自治会の協力で、竹林を間伐してもらい、明るい林内で

自然保育ができるようになった。

- ・今後、「ひばりの丘」に草花や木を植えて、どんぐり拾いなどの自然遊びができるフィールドとして整備する計画ができた。

きしだこども園

- ・勉強会を実施することで、保育士と園の間で自然保育に対する共通認識が持てた。

- ・ケガ等の事故が発生した際の対処法が明確になり、緊急連絡網や対応マニュアルの整備を進めることになった。

- ・自然保育を取り入れるため、園の保育計画を見直すこととなった。

名張市（こもはら保育所）

- ・名張市内近隣の保育所、保育園への自然保育推進の横展開のきっかけができた。

- ・担当者の異動等への対応として、保育計画、カリキュラムの中に野外体験保育を位置づけ、繰り返し実践することで、自然保育の継続につなげられることが理解できた。

- ・リスク管理の仕方など、起こりうる事態をシミュレーションして、対応策をマニュアル化することが決まった。



よっかいちひばり保育園における
保育指導の様子



名張市における
保育指導の後のふりかえりの様子

⑦ 小学生向け冊子の発行

(A) 副読本「三重の森林とわたしたちの暮らし」

目的	「みえ森林教育ビジョン」の趣旨に則り、森林教育の裾野の拡大のための取組として、児童が三重県の森林について知識を深め、関心を持つきっかけとなることを目的に、小学5年生の社会科に対応した副読本を発行・配布しました。
日時	令和5年7月発行・配布
対象	県内の小学校に通う小学5年生の全ての児童

三重の森林とわたしたちの暮らし

年組

名前

もくじ

- もしも森がなかったら? 1
- 木を切ることは自然破壊? 3
- 三重県の木はどこに使われているの? 4
- 森のお仕事ってどんなもの? 5
- 校庭の木を調べよう 6
- 三重県の木にはどんな特徴があるの? 7
- 地域と森のつながり 8

とくちようき 三重県の特徴的な生き物

カモシカ (ウシ科カモシカ属)
三重県の獣 (昭和39年指定)
昭和39年に国の特別天然記念物に指定。三重県では、鈴鹿山地と紀伊山地の2箇所にカモシカ保護地域が設定されています。

イセエビ (イセエビ科イセエビ属)
三重県の魚 (平成7年指定)
輝かききれいな水環境を好みます。江戸時代にはすでに「伊勢えび」として人びとに親しまれていました。

ネコギギ (ギギ科ギギバチ属)
伊勢湾・三河湾に流入する河川の固有種で、現在は絶滅危惧種に指定されています。三重県の中村川が「中村川ネコギギ生息地」として平成23年に国の天然記念物に指定されました。

神宮スギ (スギ) (ヒノキ科スギ属)
三重県の木 (昭和41年指定)
伊勢神宮の神域に生育するスギのことを神宮スギといいます。樹高40mを超える高木もみられ、天に伸びる美しい姿は参拝者の目をみはらせ、人々に親しまれています。

<p>発行 三重県農林水産部 監修 三重大学教育学部 教授 平山大輔 協力 三重県教育委員会事務局 株式会社自然産業研究所 発行年月 平成26年10月(初版) 令和4年7月(令和4年度版)</p>	<p>問い合わせ先 三重県林業研究所 普及・森林教育課 〒515-2602 津市白山町二本木3769-1 TEL 059-262-5352 TEL 059-262-0960 FAX 059-262-0960 Email miefa2@pref.mie.lg.jp</p>
--	---

この副読本は、「みえ森と緑の県民税」を活用して作成しました。

(B) みえ森林ワークブックの開発・発行

目的	「みえ森林教育ビジョン」の趣旨に則り、主体的・対話的な学びを取り入れた教育手法の体系化を図ることを目的に、小学校の学習指導要領に適合した令和5年度版「みえ森林ワークブック」を配布しました。 また、「みえ森林ワークブック」に対応した動画を制作するとともに、令和6年度版「みえ森林ワークブック」を発行します。
日時	令和5年度版ワークブック配布 令和5年7月 関連動画作成 令和5年8月から令和6年1月まで 令和6年度版ワークブック発行 令和6年3月
対象	県内の小学校に通う5年生及び6年生の全ての児童

みえ森林ワークブック 5年生 社会

名前 _____

組 _____

もくじ

- 森林のようす ～天啓林と人工林～ P.1
- 森林を育て、守る人々 ～木材生産と木材輸入～ P.3
- 森林のはたらき ～森林の適正な管理～ P.5
- 緑の循環 ～木材利用の大切さ～ P.9
- 森林を守る取組 ～わたしたちができること～ P.11
- 【資料集】森林のすがた(三重県・日本・世界) P.13

森林とわたしたちの暮らし

森林を育て、守る人々 ～木材生産と木材輸入～

問題2 林業とは、どんな仕事なんだろう。また、森林を手入れすることは、わたしたちの暮らしにどのような関わりがあるのだろうか。

1 教科書や副読本「三重の森林とわたしたちの暮らし」を参考に、6枚の写真を木を植えて、育てて木材を生産する順番に並べよう。

2 切り出された木はどのように使われているのだろうか。予想したことを書きましよう。

3 2つのグラフを見て、三重県と日本の林業の課題について考えたことを書きましよう。

日本の木材生産量と木材自給率の推移

三重県と全国の林業従事者数の推移

まとめ 森林ではたらく人が減ると、どのような影響が出るのだろうか。今日の学習を振り返って、わかったことや疑問に思ったことを書きましよう。

みえ森林・林業アカデミー

三重県では、森林・林業・木材産業、または地域社会のさまざまな課題に導いて取り組み、リーダーとなる人を育てるため、平成31年4月に「みえ森林・林業アカデミー」を設立しました。みえ森林・林業アカデミーには、3つの基本コースがあり、自分にあった講座を選択し、はたらきながら森林・林業・木材産業について学ぶことができます。

わたしたちの暮らしと、三重県の自然や森林のすがた

問題1 わたしたちの暮らしと、三重県の自然や森林のすがたをみつめよう。

1 下のイラストには何が描いてありますか。発見したものを丸で囲み、下の□の中に書きましよう。

6年生 理科

「地球に生きるわたしたちと森林」

生活の身近にある水、空気そして食べる、食べられるのつながりについて考え、地球上の様々な物質と森林、そしてわたしたちの生活が深く関わっていることを学ぼう。また、森林のはたらきについて自分たちで調べて、森林の大切さを感じよう。

わたしたちの暮らしと、三重県の自然や森林のすがた
わたしたちの暮らしと、三重県の自然や森林のすがたをみつめよう。

地球にある水の循環
水は、すがたを変えながら、どこからどこへ移動しているのだろうか。

地球にある空気と生物の関わり
地球にある酸素と二酸化炭素は、どこからどこへ出入りしているのだろうか。

地球にすむ生物のつながり (食物連鎖)
森林にすむ生物たちの食べる、食べられるの関係を考えよう。

水、空気、生物、そして森林とのつながり
わたしたちの暮らしにとって、森林はどのような役に立っているのだろうか。

- 目標1 森林のはたらき「川や海を豊かにする」
- 目標2 森林のはたらき「二酸化炭素をたくわえる」「きれいな空気をつくる」
- 目標3 森林のはたらき「動物のすみかとなる」
- 目標4 森林のはたらき「木材を生み出す」
- 目標5 森林のはたらき「水をたくわえる」「土を支える」
- 目標6 森林のはたらき「風や砂を防ぐ」

発行 三重県森林管理部
編集 みえ森林ワークブック制作委員会
協力 三重県教育委員会事務局
制作 株式会社アイブレン
発行年月 令和5年3月

問い合わせ
三重県森林研究開発部・森林教育課
〒515-2602 津市白山町二本木 3769-1
TEL 059-262-5352 FAX 059-262-0960
email: meba2@pref.mie.jp

このワークブックは「みえ」と「緑の県民税」を活用して作成しました。

制作した動画の概要

・「みえ森林ワークブック」に関連する動画 8本

	小学生 5 年生社会	小学生 6 年生理科
メイン タイトル	聞いてみよう 森林を守る人、育てる人のお話	調べよう 森林を守る人、育てる人
サブ タイトル①	森林を育て、守る人々 ～木材生産と木材輸入～	森林のはたらき 「二酸化炭素をたくわえる」 「きれいな空気をつくる」
サブ タイトル②	森林のはたらき ～森林の適正な管理～	森林のはたらき 「動植物のすみかとなる」
サブ タイトル③	緑の循環 ～木材利用の大切さ～	森林のはたらき 「水をたくわえる」 「土を支える」
サブ タイトル④	森林を守る取組 ～わたしたちにできること～	森林のはたらき 「風や砂を防ぐ」

動画撮影の様子



小学 5 年生社会④森を守る取組

小学 6 年生理科④
森林のはたらき「風や砂を防ぐ」

動画のカットシーン



小学 5 年生社会共通タイトル



小学 5 年生社会①森林を育て、守る人々

**令和 5 年度「みえ森林ワークブック」及び
「副読本～三重の森林と私たちの暮らし～」活用状況アンケート
アンケート結果（抜粋）**

実施期間：令和 6 年 2 月 27 日(火)から 3 月 22 日(金)

回答校数：149 校（全小学校数 344 校 公立 341 校、私立 2 校、国立 1 校）

回答学級数：小学 5 年生 253 学級

（全 560 学級、公立 553 学級 私立 4 学級、国立 3 学級）

小学 6 年生 257 学級

（全 585 学級 公立 578 学級 私立 4 学級、国立 3 学級）

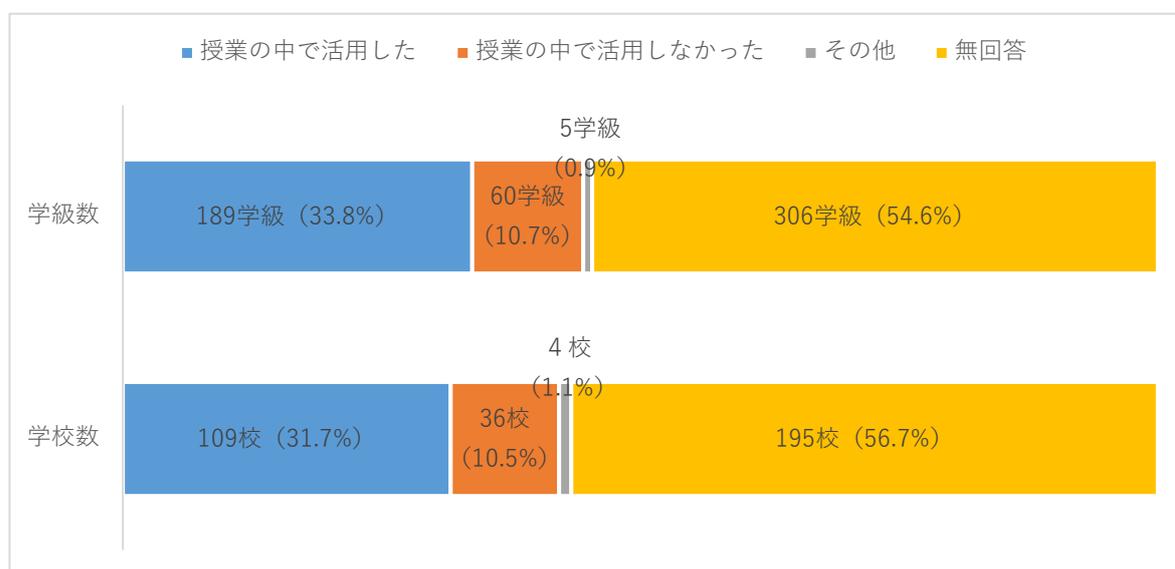
回答率：学校数 43.3% (149/344)

学級数 小学 5 年生 45.2% (253/560)

小学 6 年生 43.9% (257/585)

回答方法：専用アンケートシステムによる学校ごとの回答

【問 1】 貴校では「みえ森林ワークブック（小学 5 年生社会）」を授業の中で活用しましたか。



【問 2】 「みえ森林ワークブック（小学 5 年生社会）」を「授業で活用した」または「授業で活用しなかった」理由を記載してください。

○ 授業で活用した理由

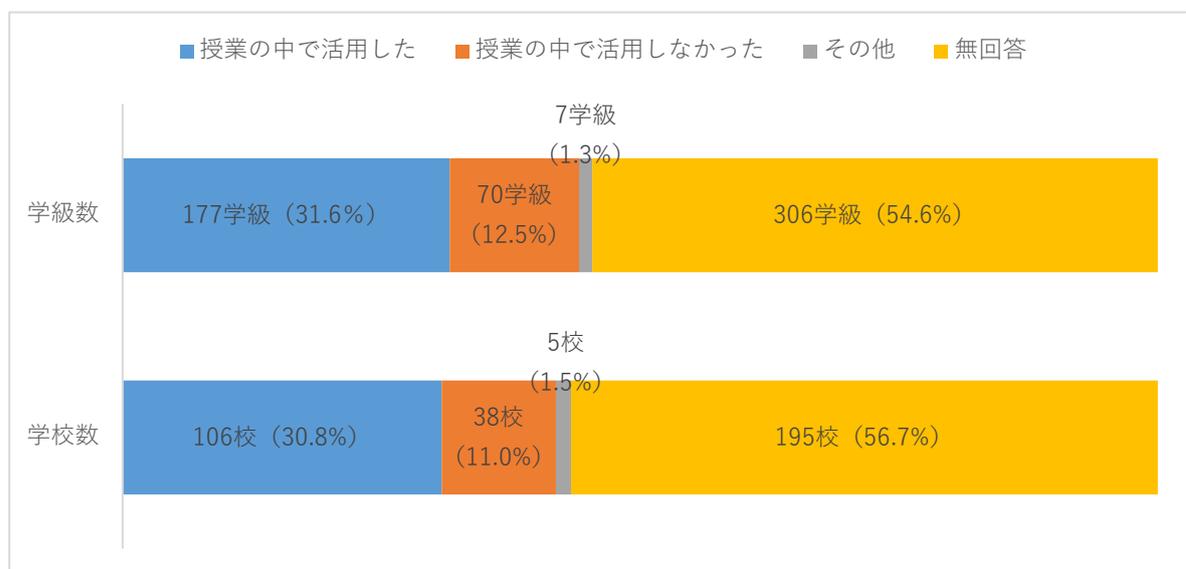
- ・ 社会科の中で森林を守る取り組みについて学習する単元があり、「みえ森林ワークブック」を使用すれば、学習がさらに深まると思ったから活用した。

- ・写真や絵、グラフも多く、子どもたちが興味をもって学習することができた。
- ・社会科の学習で、林業の学習があり、教科書や資料集にはないデータ、図、写真が掲載されており、社会の学習を深めるのに有効だと考えたから。
- ・三重県のデータが豊富なため、地元のことについて知る良い機会になると考えたから。
- ・教科書で学習したことを踏まえて、三重県の森林はどうだろうと投げかけて、ワークブックを使用した。
- ・林業の仕事を並び替える問題などは、副読本「三重の森林と私たちの暮らし」とリンクしており、使いやすいと感じた。

○ 授業で活用しなかった理由

- ・教科書を中心に授業を行い、「みえ森林ワークブック（小学5年生社会）」を使う余裕がなかった。
- ・教科書内容の学習が終わった後に自主学習用の教材とした。
- ・夏休みの調べ学習で活用するように説明し配布したため。

【問3】 貴校では、小学5年生において、副読本「三重の森林と私たちの暮らし」を授業の中で活用しましたか。



【問4】 副読本「三重の森林と私たちの暮らし」を「授業の中で活用した」または「活用しなかった」理由を記載してください。

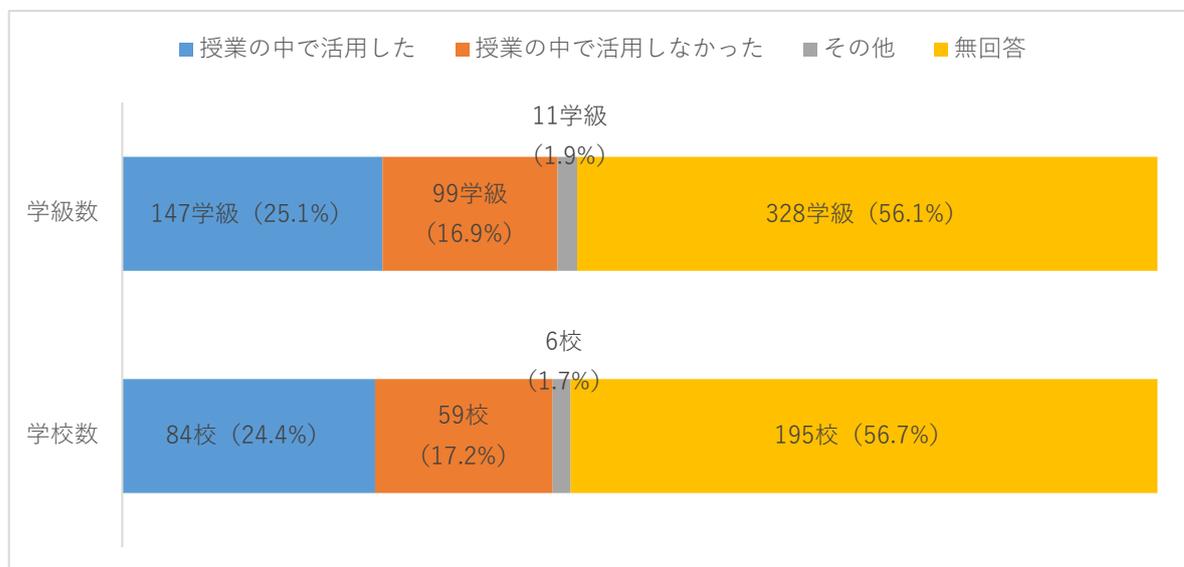
○ 活用した理由

- ・間伐材など木材を無駄なく利用するため三重県の木はどんなところに使われているか確認するために使った。
- ・社会科の森林についての学習の中で資料として活用した。
- ・三重の森林の環境を守る活動について知ることができたため。
- ・写真やグラフなど分かりやすい資料が多く参考になったため。
- ・ワークブックと連動していて一緒に使いやすいと思ったから。
- ・三重の森林について、より身近に感じることで森林や自然を守るために自分に何ができるのかを考えさせたかったから。

○ 活用しなかった理由

- ・教科書に沿って授業を進めたので、活用する時間をもてなかった。
- ・配布し各自が持ち帰ってしまったため。
- ・授業では時間が足りず活用していないが、一人ひとりに資料として配付した。
- ・より教科書の内容に近い「みえ森林ワークブック」を選択し、活用することにしたため。

【問 5】 貴校では「みえ森林ワークブック（小学 6 年生理科）」を授業の中で活用しましたか。



【問 6】 「みえ森林ワークブック（小学 6 年生理科）」を「授業の中で活用した」または「授業の中で活用しなかった」理由を記載してください。

- 授業の中で活用した理由
 - ・教科書の教材と関連する内容のため、ワークブックを使って指導した。
 - ・食物連鎖の学習で、教科書よりも内容がよくわかる問題があったから。
 - ・書き込んだり、話し合ったりといった活動がたくさん盛り込まれており、楽しく学習できると考えたため。
 - ・指導者の教材研究の資料として活用し、その内容は授業に反映させた。ワークとしては使用しなかった。

- 授業の中で活用しなかった理由
 - ・学習内容と配布された時期のタイミングが合わなかったから、活用できなかった。
 - ・教科書の内容で十分に事足りるから。
 - ・配布し各自が持ち帰ってしまったため。
 - ・他のワークブックを活用した。
 - ・子どもたちの興味関心に合わせ、家庭学習（毎日の自主学習）の一つとして、自主的な活用をさせたいと考えたため。

【問 7】「みえ森林ワークブック」及び副読本「三重の森林と私たちの暮らし」に対するご意見・ご提案などありましたらご記入ください。

- ・地域に関する情報を得られる資料として活用しているので、制作の継続を希望します。
- ・社会や理科の教科書の内容に加え、子どもたちが郷土や三重県の自然（森林）を知ることができて、郷土学習、郷土愛という視点から良い副読本だと思う。
- ・来年度も活用する機会があれば、活用します。
- ・教員用のみえ森林ワークブック等に、学習指導要領との関連が明示されたり、参考資料がたくさん記載されたりしているので、指導する上で役立っています。
- ・森を守っていくために、自分たちに出来ることを考えることができる学年であるため、近くの森と親しんだり、森を守ってくださっている方々との交流の中で、今後も、みえ森林ワークブック及び三重の森林と私たちの暮らしを活用していきたい。

(3) 情報発信

① テレビ放送

テレビ放送を通じて「みえ森林ワークブック」を紹介するとともに、森林・林業の現状をふまえ、みえ森と緑の県民税を活用した「県民全体で森林を支える社会づくり」の取組の重要性について伝えました。



三重テレビ放送「Mie ライブ」における情報発信

② 県ホームページ

県ホームページにより各種講座やイベントの開催趣旨をつたえとともに、みえ森と緑の県民税を活用して取組が行われていることを掲載しました。



県ホームページによる
「第2回みえ森林教育シンポジウム」の情報発信

③ SNS

Facebook を活用して各種講座やイベント開催の案内をすると同時に、各取組にみえ森と緑の県民税が活用されていることを伝えました。



Facebook による「指導者養成講座」の開催案内

④ 講座・イベント会場

会場にみえ森と緑の県民税ののぼりを設置するとともに、参加者に「みえ森と緑の県民税」のリーフレットやチラシを配布したほか、会場エントランスにおいてパネル展示をしました。

また、みえ森林教育アドバイザー派遣を行った施設利用者へもチラシを配布し、災害に強い森林づくりのため県民全体で森林を支える社会づくりの大切さを伝えました。



学生向け講座における
みえ森と緑の県民税ののぼりの設置



みえ森林教育シンポジウムにおける
みえ森と緑の県民税のパネル展示

(4) 主な経費の内訳

項目	経費	備考
みえ森林教育シンポジウム開催	961 千円	
みえ森林教育アドバイザー派遣	717 千円	
子ども向け講座の開催	506 千円	
指導者向け講座	431 千円	
企業向け講座	520 千円	
学生向け講座	204 千円	
大人向け講座	284 千円	
副読本及びワークブック	8,017 千円	
その他事務経費等	10,014 千円	
合計	21,654 千円	

④ーイ：みえ森づくりサポートセンター運営事業

担当課：林業研究所 普及・森林教育課

基本方針：②県民全体で森林を支える社会づくり

対策区分：③森を育む人づくり

1. 事業の目的

森林教育や森づくり活動に携わる人材の育成を図るとともに、これらの活動に地域や学校等で取り組みやすい体制を整えることで、「県民全体で森林を支える社会づくり」を推進します。

2. 令和5年度事業の概要

学校や地域で実施される森林教育や森づくり活動にかかる相談窓口となる「みえ森づくりサポートセンター」を運営し、森林教育や森づくり活動に対する、広域的・総合的なサポートします。

【具体的な取組】

- (1) 森林教育指導者や学校関係者を対象とした養成講座の開催
 - ① 森林教育指導者養成講座【地域講座】
 - ② 森林教育指導者養成講座【スキルアップ講座】
 - ③ 学校教職員森林環境教育研修
- (2) 森林教育指導者等への活動支援
 - ① 森のせんせい登録、② 森のせんせい座談会、③ 森の学校
 - ④ 物品の貸出
- (3) 学校現場における森林教育の支援
 - ① 森林教育出前授業、② 森林教育活動のコーディネート
- (4) 森の写真教室及びみえの森フォトコンテストの実施
 - ① こども森の写真教室
 - ② 第10回みえの森フォトコンテスト
 - ③ みえの森フォトコンテスト入賞作品展示
- (5) 森づくり活動の支援
 - ① 県民参加の植樹祭、② 森づくり活動支援講座
- (6) 森林教育・森づくり活動に関する相談対応
- (7) 森林教育・森づくりに関する情報提供
 - ① 森林教育活動事例集、② 森林づくりニュース
 - ③ ホームページや SNS を活動した情報発信

(1) 森林教育指導者や学校関係者を対象とした養成講座の開催

森林教育の推進に向けた指導者養成講座及び学校教育関係者を対象とした研修を実施しました。

① 森林教育指導者養成講座【地域講座】：地域の特性に応じた指導者養成講座を7回実施し、119名が参加しました。

講座名	開催日	開催場所	募集人数	受講人数
【四日市地域】 野外活動安全管理編	4月23日(日)	四日市市少年自然の家 (四日市市)	10名	12名
【伊勢地域】 知識編	7月23日(日)	吉田本家山林部の森林 ヒノキ家研修室(大紀町)	10名	12名
【伊勢地域】 森林教育指導者養成編	8月3日(木)	伊勢市立小俣小学校(伊勢市)	20名	11名
【津地域】 木育初級編	8月8日(火)	三重県林業研究所(津市)	10名	14名
【津地域】 技術編インタープリテーション	9月2日(土)	高田短期大学(津市)	10名	15名
【四日市地域】 自然保育編	10月29日(日)	亀山市鈴鹿馬子倶会館、 鈴鹿峠自然の家(亀山市)	25名	29名
【熊野地域】 見学編(流通・加工)	12月9日(土)	熊野原木市場協同組合 株式会社 nojimoku(熊野市)	15名	16名

受講者の声

- ・クップを通じて森林教育を広げていきたいです。(8月3日クップ編)
- ・未来の子どもたちが幸せになるため、今、私たちにできることを考えました。五感を刺激し、好奇心、探究心を高めることが大切だと思いました。(8月8日木育初級編)
- ・改めて、木の温かさや機能性などを再確認できたので大変役に立ちました。(8月8日木育初級編)
- ・保育の現場をはじめ、様々な立場の参加者と一緒にできてとても良かったです。(9月2日技術編インタープリテーション)



木育初級編



自然保育編

- ② 森林教育指導者養成講座【スキルアップ講座】：森林教育の指導者のスキルアップ講座を3回実施し、35名が参加しました。

講座名	開催日	開催場所	募集人数	受講人数
知識編	6月25日(日)	三重びよクエの森(三重県民の森) 朝明溪谷、砂防学習ゾーン 他	10名	10名
LEAF ローカルインストラクター	8月26日(土) 8月27日(日)	吉田本家山林部、 ひのき家2階研修室(大紀町)	10名	9名
木育中級編	11月19日(日)	松阪市森林公園	10名	16名

受講者の声

- ・ 治山と砂防の本来の目的、なぜ工事をしなければならないのかよく理解できた。やはり森林は遠くから見るものではなく自分の足で確かめることが重要と思った。(6月25日知識編受講者)
- ・ LEAFの森林環境教育を通じて、よりよい選択をする人を育むという内容のルートがすっきりしていてわかりやすいと思った。(8月26・27日LEAFローカルインストラクター編)
- ・ 特に準備物がなくても、その場の自然にあるものを使って、いろんなことができることがわかって、とても勉強になりました。(8月26・27日LEAFローカルインストラクター編)
- ・ 道具の扱い方や危険性、安全に行うための注意点等を教えていただけたのがとてもよかったです。(11月19日木育中級編)



知識編



LEAF ローカルインストラクター編

- ③ 学校教職員森林環境教育研修：学校での森林教育の取組促進を図るため、県教育委員会事務局との共催により学校教職員を対象とした研修（1回）を実施し、15名が参加しました。

講座名	開催日	開催場所	募集人数	受講人数
学校教職員森林環境教育研修	7月28日（金）	三重大学教育学部	15名	15名

受講者の声

- ・校庭の木々の変化を伝えたり、身近な樹木を話題にしたりすることで、児童が樹木に関心を持つ機会を作っていきたいと感じた。
- ・身近で実践できる実習内容であり、授業で活用できそうな研修内容だった。



クスノキの観察



講義の様子

（2）森林教育指導者等への活動支援

① 森のせんせい登録

県民やさまざまな主体の参画による森林教育を進めるため、森林教育指導者の活動内容等の情報を学校や関連施設に提供し、森林教育の場や機会を拡大することを目的に、森林や自然環境に関する学習の指導者を「森のせんせい」として登録しました。

(森のせんせい登録者数の推移)

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
個人	19	19	24	29	33	34	38	48	55	61	77	82
団体	10	16	16	20	26	28	30	32	40	43	47	48
合計	29	35	40	49	59	62	68	80	95	104	124	130

② 森の先生座談会

森のせんせいなど森林教育者のネットワーク構築を目的に、森のせんせい座談会を3回開催し、地域で行っている森林教育の状況について報告したり、活動における課題への対応や参考となる事例の紹介など意見交換を行いました。

対象地域	開催日時	開催会場	参加人数
北勢地域	7月15日(土) 10:00~15:45	ぎふ木遊館 TUBAKILAB	4名
中南勢・伊賀地域(津会場)	6月24日(土) 10:00~12:00	三重県林業研究所	6名
伊勢志摩地域	1月28日(土) 10:00~12:00	横山ビジターセンター	3名



中南勢・伊賀地域対象の座談会



北勢地域対象の座談会

③ 森の学校

これから森林教育指導者として活躍する意欲のある森のせんせいが、森林教育を実践し、経験を積む場として、森林や木について楽しく学べることをテーマに、森林散策や木工体験等を行う「森の学校」を 25 回実施し 1,031 名が参加しました。

【森の学校開催一覧】

番号	開催場所	開催日	森の学校名	参加者数
1	イオンモール東員	4月1日(土)	いなべの木でお道具箱を作ろう	32名
2	イオンモール東員	4月2日(日)	森の木端でウサギやネコを作ろう	36名
3	松阪市森林公園	4月16日(日)	ことりの鳴き声が出せる笛を作ろう	73名
4	イオンモール四日市北	4月22日(土)	木の木端でロボットを作ろう	28名
5	イオンモール四日市北	4月23日(日)	三重県の木でターナーやカッティングボードを作ろう	30名
6	みえこどもの城	5月20日(土)	初夏の生き物と自然観察会	40名
7	みえこどもの城	5月20日(土)	自然観察とネイチャーゲーム	31名
8	みえこどもの城	5月20日(土)	スケルトンリーフ作り	24名
9	みえこどもの城	5月20日(土)	間伐材でイス作り	25名
10	伊賀びよクエの森	5月28日(日)	バードコールで野鳥と遊ぼう	35名
11	松阪市森林公園	7月9日(日)	ヒノキのポンポン作り	27名
12	県営サンアリーナ	10月9日 (月・祝)	ヒノキのカッティングボード作り	47名
13	県営サンアリーナ	10月9日 (月・祝)	組子のコースター作り	51名
14	奈屋浦漁港	10月14日(土)	丸太切り体験と木工作	115名
15	奈屋浦漁港	10月14日(土)	小枝のボールペン作り	34名
16	松阪市森林公園	10月15日(日)	森のカスタネット作り	65人
17	松阪農業公園ベルファーム	10月29日(日)	森のロボット作り	56名
18	津市丸之内商店街	11月3日 (金・祝)	木のペンダント作り	40名

19	三重県林業研究所	11月26日(日)	マイ箸作り	27名
20	三重県林業研究所	11月26日(日)	自然観察	18名
21	松阪市森林公園	12月10日(日)	ヒノキリボンのポンポン作り	66名
22	三重県総合文化センター	2月3日(土)	森のおくりものオブジェ	8名
23	三重県総合文化センター	2月3日(土)	森のカトラリー作り	12名
24	いつきのみや地域交流センター	3月10日(日)	森のおはなしと木のストラップ作り ヒノキのストラップ作り	96名
25	いつきのみや地域交流センター	3月10日(日)	樹木観察会	15名



10月14日奈屋浦漁港
小枝のボールペン作り



10月15日松阪市森林公園
森のカスタネット作り



11月26日林業研究所
自然観察



2月3日三重県総合文化センター
森のおくりものオブジェ

④ 物品の貸出

地域における森林教育活動を支援することを目的に森のせんせい、森づくり活動団体、市町等 37 件に、森林教育活動や森づくり活動に必要な物品などを貸し出しました。

(物品貸出の内訳)

番号	貸出先	貸出物品	貸出期間	用途・イベント等
1	森のせんせい	クップ 2 組	4 月 4 日～ 4 月 18 日	安濃交流会館 HAPPY VOTIGN!
2	三重県立熊野 古道センター	すべり台 1 基、もりぼーる四角枠 1 組、ジョイントマット 36 枚、イベント用テント 1 組	4 月 28 日～ 5 月 10 日	ゴールデンウィークド リームフェスタ 2023
3	伊賀上野びよ クエの森	もりぼー八角 1 式	5 月 26 日～ 7 月 3 日	伊賀上野びよクエの森
4	森のせんせい	ヘルメット 20 個	6 月 7 日～ 6 月 13 日	亀山市関町沓掛
5	森のせんせい	カナヅチ 10 本	6 月 14 日～ 6 月 14 日	三重県林業研究所
6	松阪農林事務 所	子どもフォレスターなり きりセット 1 式、丸太切 り台 3 台	6 月 24 日～ 6 月 26 日	みえこどもの城
7	伊賀上野びよ クエの森	キッズスペース 1 式	7 月 3 日～ 9 月 11 日	伊賀上野びよクエの森
8	伊賀市丸柱区 市民センター	ヘルメット (40 個)	7 月 12 日～ 7 月 18 日	森を美しく・士で学ぶ 『もりとつちっこ』体 験活動
9	森のせんせい	バーニングペン 4 本	7 月 21 日～ 7 月 24 日	亀山市加太中在家
10	森のせんせい	ゼットソー 4 本、丸太切 り台 3 組	7 月 19 日～ 7 月 24 日	鈴鹿市河曲公民館
11	津市農林水産 部林業振興課	森のはたらきパネル 1 式	7 月 28 日～ 7 月 31 日	津市木材処理加工施設
12	森のせんせい	もりぼーる四角 1 式	8 月 4 日～ 8 月 7 日	ザ・オレンジガーデン ン五十鈴
13	森のせんせい	もりぼーる四角 1 式、 DVD「つかって元気に」 1 枚	8 月 4 日～ 8 月 7 日	ザ・オレンジガーデン ン五十鈴川

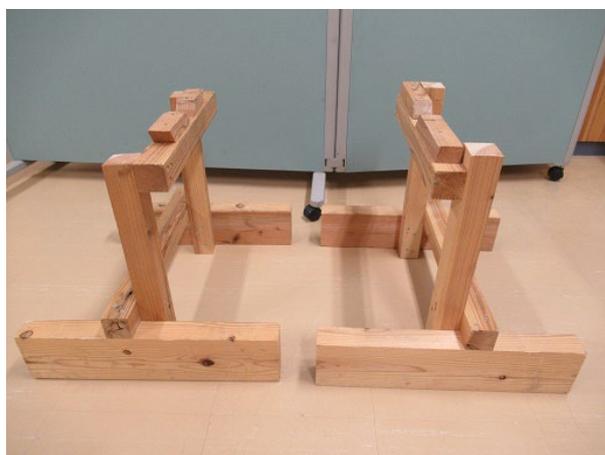
14	森のせんせい	尾鷲ヒノキ積木 4 組	8 月 16 日～ 8 月 30 日	みつよルーム及び津市 白塚公民館
15	森のせんせい	丸太切り台 3 組、治具 7 枚、ゼットソーノコギリ 3 本、木工用小刀 7 本	8 月 22 日～ 8 月 24 日	鈴鹿市
16	森づくり活動 団体	ヘルメット 20 個、木工用 小刀 10 本、カッターナイ フ 10 本	8 月 25 日～ 8 月 28 日	津市白山町
17	森のせんせい	電熱ペン 1 本	8 月 31 日～ 9 月 15 日	みつよルーム
18	森のせんせい	子どもフォレスターなり きりセット 1 式、丸太切 り台 1 台、もりぼーる四 角 1 式、四方すべり台 1 式、ジョイントマット 36 枚、尾鷲ヒノキ積木 2 セ ット	9 月 1 日～ 9 月 4 日	津松菱百貨店
19	森のせんせい	丸太切り台 3 組	10 月 6 日～ 10 月 13 日	鈴鹿市深谷公園
20	森のせんせい	ヘルメット 27 個	10 月 11 日～ 10 月 18 日	企業の森
21	農林水産部み どり共生推進 課	もりぼーる八角 1 式、フォト コンテスト入賞作品 8 点、森 のはたらきパネル 1 式	10 月 12 日～ 10 月 16 日	四日市ドーム 住まいと暮らしの総合 フェア 2023
22	森のせんせい	もりぼーる四角 1 式、も くろック 2 袋	10 月 13 日～ 10 月 16 日	森のすみか木木市
23	松阪農林事務 所	子どもフォレスターなり きりセット 1 式	10 月 27 日～ 10 月 30 日	企業の森
24	森のせんせい	森のはたらきパネル 1 式	10 月 26 日～ 10 月 30 日	津市白山町 まるごと林業体験
25	森のせんせい	ハンドマイク	11 月 15 日～ 11 月 16 日	労働災害集会
26	森のせんせい	ヘルメット 26 個	11 月 16 日～ 11 月 28 日	社有林植樹祭
27	森づくり活動 団体	もりぼーる四角 1 式、四 方滑り台 1 式、ジョイン トマット 36 枚	12 月 1 日～ 12 月 4 日	伊賀オーガニックフェ スタ

28	森のせんせい	ヘルメット 15 個	12 月 15 日～ 12 月 18 日	鎮守の森遊び
29	森のせんせい	ヘルメット 20 個	12 月 19 日～ 12 月 22 日	山郷保育園自然保育フ ィールドの整備
30	森のせんせい	丸太切り台 2 基、ヘルメ ット 5 個、ゼットソー 2 本	12 月 26 日～ 1 月 4 日	鈴鹿市栄公民館主催 森林環境教育講座
31	森のせんせい	もりぼーる四角 1 式、ジ ョイントマット 36 枚	1 月 12 日～ 1 月 15 日	久居西中学校区人権フ ェスティバル
32	森のせんせい	もりぼーる八角 1 式、ジョ イントマット 36 枚、尾鷲ヒノ キ積木 10、四方滑り台 1 式、 キッズバイク 1 基	1 月 25 日～ 1 月 26 日	育児サークルキラキラ 「木育体験」
33	森のせんせい	子どもフォレスターなり きりセット、丸太切り台 1 組	2 月 2 日～ 2 月 5 日	松阪市三雲町天白フェ スタ
34	森のせんせい	イーゼル 28 基	2 月 2 日～ 2 月 5 日	みえ自然保育協議会
35	森のせんせい	丸太切り台 3 基、ゼット ソー 3 本	3 月 1 日～ 3 月 4 日	鈴鹿市公民館主催 森林環境教育講座
36	森のせんせい	ヘルメット 18 個	3 月 7 日～ 3 月 12 日	2023 年読売リサイクル ネットワーク植樹祭
37	森のせんせい	もりぼーる四角 1 式、森 のはたらきパネル 1 式	3 月 8 日～ 3 月 11 日	サンピア伊賀にぎわい マルシェ

貸出物品の例



ヘルメット



丸太切り台

(3) 学校現場における森林教育の支援

① 森林教育出前授業(11回)

市町、学校、保育所等における森林教育を支援するため、学校等からの要望に応じ、指導者の紹介やプログラム提案等を行う、出前授業を 11 回実施しました。

市町	開催場所	開催日	内容
桑名市	陽和幼稚園	11月9日(木)	・地域が自然豊かであることを知る。 ・五感を使いながら木の作品を作り、木に親しみを持つ。
桑名市	多度青葉小学校	11月21日(火)	・森のはたらきや林業について知る。 ・間伐の丸太切りや木工体験を通じ、間伐材の利用について考える。
桑名市	深谷教育集会所	8月30日(水)	・森林の役割りや、生活の中でどのように使われているかを知る。 ・木工体験を通じて、木に親しみ感じる。
桑名市	ひまわり学童クラブ	8月25日(金)	・森林のはたらき、役割を知る。 ・木のおもちゃで遊ぶ体験を通して、五感で木の質感を感じ、親しみを持つ。
四日市市	三重小学校	7月28日(金)	・木について学び考える。 ・木に触れ五感で感じ、木工体験を通して木に親しむ。
鈴鹿市	庄内小学校	12月15日(金)	・森林の公益的機能や木を使うことの意義などを知る。 ・地域材で箸をつくる。
松阪市	徳和住民自治協議会	8月28日(月)	・自然の大切さやすばらしさを、工作やネイチャーゲームなどを通じて実感する。
多気町	外城田小学校	7月7日(金)	・校庭にある樹木の観察を通して、樹木への関心を高める。
明和町	上御糸小学校	9月25日(月)	・上流の森が豊かだと、下流でおいしいお米が育つことなどから、森林のはたらきを学ぶ。
伊勢市	明倫小学校	1月12日(金)	・地域の森の形態や林業、森のはたらき、緑の循環などを学ぶ。 ・間伐材を使った木工体験から木の利用について考える。
伊賀市	伊賀つばさ学園	6月30日(金)	・木の名前や生態、森の中の様子を知り、命の循環がどのように行われているのかを学ぶ。 ・木工体験でフォークや木べらなどを制作する。



明和町立上御糸小学校



鈴鹿市立庄内小学校



桑名市立陽和幼稚園



桑名市深谷教育集会所

子どもたちの声

- ・間伐材の皮がきれいに剥けたり、水分をたくさん含んでいることに驚いた。(6月30日三重県立特別支援学校伊賀つばさ学園中等部)
- ・森がおいしい水をつくるということが分かった。(8月28日(月)徳和住民自治協議会)
- ・松ぼっくり、どんぐり、葉っぱなどを使って自分で考えて作るのが楽しかった。(8月25日ひまわり学童クラブ)
- ・山を豊かにするには、私にもできることがきっとあるはず。それを考えてみたいと思った。(9月25日(月)明和町立上御糸小学校)

学校関係者の声

- ・子どもたちが楽しめるようにクイズをしながらお話していただき、退屈せず話が聞けてよかった。(7月28日四日市市立三重小学校)
- ・深谷の太鼓作りという地域に関する話題にもふれながら森林の話をしていただけたのでよかった。(8月30日(水)深谷教育集会所)
- ・普段なかなか使うことのないのこぎりを親子で体験でき、とても良かったです。また、木の種類や形によって切れ具合も違うことに気付いている子どももたくさんいてよい経験になりました。(11月9日桑名市立陽和幼稚園)

② 森林教育活動のコーディネート

森林教育活動を希望する市町、学校、保育所等において森林教育が実施されるよう、指導者の紹介やプログラム構築等のコーディネートを行いました。
(令和5年度コーディネート業務一覧)

	実施月日	実施会場	内容
1	4月~11月	イオンモール東員	10周年記念イベント企画
2	5月1日	高田短期大学 権部ゼミ	竹の話と竹飯盒 危険木の伐採
3	5月22日	高田短期大学 青木ゼミ	竹の話と竹飯盒
4	6月20日	伊勢市立上野小学校1・2年	学校敷地内や自然についての学習
5	6月23日	伊賀市立大山田小学校5年	森林・林業の話
6	7月22日	松阪市森林公園親子キャンプ講座	木工作
7	7月27日	川越町おひさま児童館	夏休みイベント 「スケルトンリーフ作り」
8	8月5日	松阪市森林公園	よく飛ぶ竹とんぼ作り
9	8月10日 ~8月11日	イオンモール東員	10周年イベント 木製ベンチ作り
10	8月30日	鈴鹿市旭ヶ丘公民館	夏休みイベント 「バードコール作り」
11	10月3日	伊勢市立小俣小学校3・4年	森林の講話とクッブ体験
12	10月3日	伊勢市立小俣小学校5・6年	森林の講話とクッブ体験
13	10月5日	伊勢市立富浜西小学校1年	森の話と自然遊び体験
14	10月6日	伊勢市立宮山小学校4年	学校の敷地内や自然についての学習
15	10月11日	伊勢市立中島小学校2年	森の話と自然遊び体験
16	10月12日	伊勢市立小俣小学校5年	森林の講話とクッブ体験
17	10月12日	多気町立外城田小学校4年	お箸づくり
18	10月13日	伊勢市立上野小学校1~6年	森林や林業についての講話と木工作
19	10月16日	伊勢市立中島小学校5年	森林や林業についての講話と木工作
20	10月17日	伊勢市立富浜東小学校1・2年	森の話と自然遊び体験
21	10月24日	伊勢市立中島宗学校3年	森の話と自然遊び体験
22	10月26日	伊勢市立進修小学校1・2年	森の話と自然遊び体験
23	10月28日	三重県緑化推進協会森林教室	小さなイス作り
24	10月31日	伊勢市立修道小学校1年	森の話と自然遊び体験
25	11月7日	伊勢市立城田小学校3年	森の話と自然遊び体験
26	11月9日	伊勢市立中島小学校1年	学校の敷地内や自然についての学習
27	11月11日	トヤオ工務店敷地内	森のとびら in 三重 森と人が豊かに つながるがテーマの木育イベント
28	11月13日	伊勢市立修道小学校3年	学校の敷地内や自然についての学習
29	11月21日	伊勢市立城田小学校1年	森の話と自然遊び体験

30	11月22日	伊勢市立小俣小学校 2年	学校の敷地内や自然についての学習
31	11月28日	伊勢市立中島小学校 4年	森林の講話とクップ体験
32	12月1日	伊賀市立大山田小学校 6年	木の話とマイスプーン作り
33	12月7日	多気町立外城田小学校 4年	地域の財産森林と自然の学習
34	1月29日	三重大学附属小学校 5年	森林・林業の現地見学
35	2月6日	玉城町立外城田保育所	園庭の樹木観察と丸太切り体験 ヒノキの話とヒノキのポンポン作り
36	2月8日	伊勢市立宮山小学校 5年	森林や林業についての講話と木工作
37	2月9日	玉城町立有田保育所	園庭の樹木観察と丸太切り体験 ヒノキの話とヒノキのポンポン作り
38	2月14日	多気町立相可保育所	丸太切りとオブジェ作り
39	2月16日	玉城町立田丸保育所	園庭の樹木観察と丸太切り体験 ヒノキの話とヒノキのポンポン作り
40	2月16日	多気町立津田認定こども園	丸太切りと園名看板作り
41	2月18日	第35回緑の少年隊交流大会	木のロボット作り
42	2月20日	多気の杜こども園	丸太切りとオブジェ作り
43	2月21日	多気町立佐奈保育園	丸太切り、釘打ちとオブジェづくり
44	2月26日	多気町立勢和保育園	丸太切りとオブジェ作り



多気町立相可保育所



伊賀市立大山田小学校



三重大学教育学部附属小学校



玉城町立外城田保育所

(4) こども森の写真教室及びみえの森フォトコンテストの実施

① こども森の写真教室

カメラを通して森や自然のおもしろさや豊かさを発見してもらうことを目的に、8月5日(土)に小中学生とその家族を対象に「こども森の写真教室」を開催し、5組12名の親子が参加しました。

受講者の声

- ・屋内で説明があったあとに、屋外での写真撮影だったので、わかりやすかった。
- ・自然を観察でき、カメラの楽しさも伝わってきて、とてもよかったです。



座学の様子



屋外での実習の様子

② 第10回みえの森フォトコンテスト

写真撮影を通じて森林や木に親しみ、その大切さを知っていただくことを目的に、「三重の森林」をテーマにして「第10回みえの森フォトコンテスト」を開催しました。

(実施概要)

募集期間：令和5年6月20日(火)から10月31日(火)まで

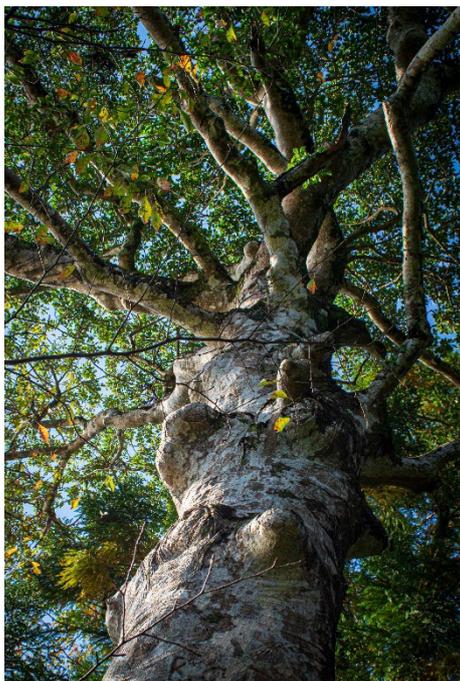
募集テーマ：三重の森林

応募資格：県内在住又は通学・通園(所)等している18歳以下の方

応募作品点数：総数133名 280点

小学生以下の部 49名 85点

中学生以上の部 84名 195点



小学生以下の部 最優秀賞
松阪市立柿野小学校 6年
橋本 英龍
「木でクライミングを！！」



中学生以上の部 最優秀賞
三重大学教育学部附属中学校 2年
齋田 裕音
「新緑」

③ みえの森フォトコンテスト入賞作品展示

「三重の森林」をテーマに実施したみえの森フォトコンテストの入賞作品を、公共施設や商業施設などで展示し、子どもたちの視点で捉えた三重の森林の姿をたくさんの方に見ていただきました。

【第9回みえの森フォトコンテスト入賞作品展】

市町	展示場所	展示期間
東員町	イオンモール東員	4月1日(土)2日(日)
四日市市	イオンモール四日市北	4月10日(月)～5月8日(月)
松阪市	三重県立みえこどもの城	5月9日(火)～5月23日(火)
尾鷲市	三重県立熊野古道センター	6月20日(火)～7月2日(日)
熊野市	熊野市文化交流センター	7月13日(木)～7月26日(水)
いなべ市	いなべ市役所シビックコア棟	8月21日～9月8日
津市	三重県総合博物館 MieMu	10月3日～10月15日
松阪市	三重県立みえこどもの城	10月24日～10月31日
津市	三重県林業研究所	11月26日

【第 10 回みえの森フォトコンテスト入賞作品展】

市町	展示場所	展示期間
津市	三重県総合文化会館男女共同参画棟 1階エントランス	2月3日
東員町	イオンモール東員3階空区画	2月7日～26日
尾鷲市	三重県立熊野古道センター 大ホール	2月27日～3月5日
伊賀市	ハイトピア伊賀 5階展示ギャラリー	3月22日～29日



イオンモール東員



三重県総合文化センター男女共同参画棟

(5) 森づくり活動の支援

① 県民参加の植樹祭

広く県民に呼びかけ、森林を育む意識を醸成し、県民参加の森づくりを推進することを目的に、11月18日(土)に伊賀市の青山ハーモニー・フォレストにおいて、令和5年度県民参加の植樹祭『自然と人が調和する植樹祭 in 青山ハーモニー・フォレスト』を開催しました。

日時：令和5年11月18日(土)9:00から

場所：青山ハーモニー・フォレスト（伊賀市）

参加人数：43名

内容：ソメイヨシノ 50本を植栽



記念植樹



一般植樹

② 森づくり活動支援講座

地域で森づくり活動をさらに活発化するため、安全・安心な活動に向けた森づくりに関する講習会を開催しました。

(実施概要)

参加人数：三重県内で森づくり活動をしている方 8名

【座学】 森林作業をする上での安全衛生講習

5月13日(土) 9:00~16:00 三重県林業研究所

【実技講習(刈払い機)】

5月14日(日) 9:00~12:00 三重県林業研究所

【実技講習(チェーンソー)】

5月14日(日) 13:00~16:00 三重県林業研究所



実技講習 (刈払い機)



実技講習 (チェーンソー)

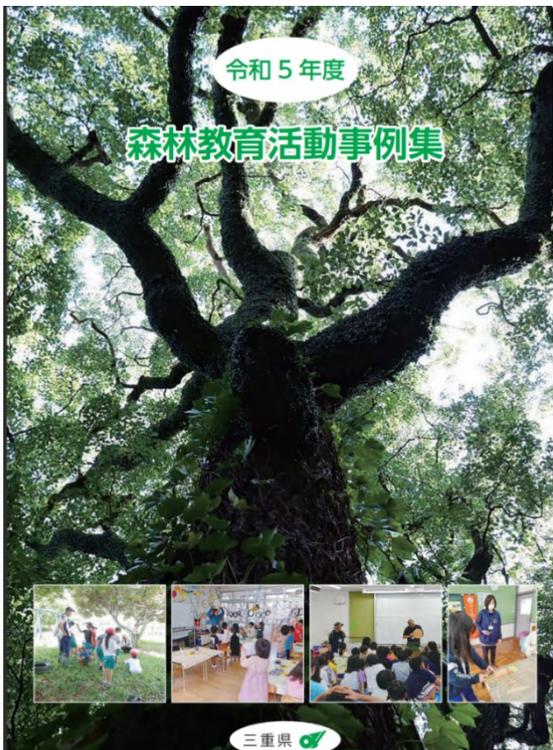
(6) 森林教育・森づくり活動に関する相談対応等

市町や学校、森林教育指導者（森のせんせい）等からの森林教育や森づくり活動に関する相談に随時対応し、活動のコーディネートや森林教育に関する情報収集、普及啓発を行っていました。

(7) 森林教育・森づくりに関する情報発信

① 森林教育活動事例集の発行

学校等において、森林教育の導入や取組の参考となるよう、県内で実施された森林教育活動の取組を取りまとめた事例集を作成し、県内小中学校や関係機関へ配布しました。また、その内容をホームページで公開しました。



森林や林業の話 県産材を使おう

～カード立て作り体験～

02 桑名市立多度青葉小学校



森林の働きや天然林、人工林、森林や林業についての話
年輪の教え方に挑戦
森のせんせいから切るときのコツを伝授
丸太切りに挑戦する様子

ねらい

- 森林の働きや林業について学び、山の恵恵、山あつての私たちの暮らしということを理解し、多度山、ミカン畑のある郷土に愛着を持つ
- 三重県産の木材を使うことでSDG1に対する意識を高める
- 木工体験を通じて、間伐材の利用について考える

取組内容

- 森林の働きや天然林、人工林、森林や林業についての話を聞きました。山の手入れをすることで山だけでなく、周りの環境や海の環境も保たれていることを学びました。
- 樹幹50年を超える輪切りにされた樹木を手に取り、年輪の教え方、同じ輪割でも大きさが違うことなどを学びました。
- 三重県産のヒノキとスギの間伐材を用いて、カード立てを作りました。あだちと協力して木を切りながら、軽い木でも切るのが大変だと感じたり、サンドペーパーで磨けば磨くほど、良い香りがしたりすることを感じることができました。

【設置の反応】

- 広大な森林を管理することは大変だけれど、管理してくれる人がいるから、山崩れが起きないのだなとわかりました。
- 間伐材を使うことは、環境に良いということがわかりました。

【先生のコメント】 生活の身近な場所にある山の役割を知ることができて、より自分たちの地域に好感を持つことができました。また、間伐材の有効利用をすることは、森林にも人にも良いことだと身をもって感じることができ、実践できるこのような機会をさらに続けたいと思いました。

実施月	11月
内容	森林や林業の話 丸太切り体験とカード立て作り
学年	2 年級（総合的な学習の時間）
実施者	5 年生教諭、園芸室
対象	5 年生、12 人、6 年生 16 人 計 28 人
講師	森のせんせい 鈴鹿森林組合 2 人
備考	みえ森づくりサポートセンターによる森林教育出張授業

三重県

令和5年度森林教育活動事例集

② 森林づくりニュースの発行

県内における森林教育や森づくり活動に関する季刊誌を4回、それぞれ2,000部発行し、市町や森林教育関係施設及び森のせんせいなどに配布するとともに、その内容をみえ森づくりサポートセンターのホームページに掲載しました。

MORIDUKURI NEWS 2024.3

「第2回みえ森林教育シンポジウム」を開催!!

第10回みえの森フォトコンテスト表彰式

イベント開催のご案内

〇3月10日(日)に「森の学校&ミエトイキャラバン in 明和」を開催!!

小学生以下の部

中学生以上の部

伊勢市立明倫小学校で出前授業を実施しました

森づくりニュース（令和6年3月発行）

③ ホームページや SNS を活用した情報発信

県内における森林教育や森づくり活動に関する情報や、この事業がみえ森と緑の県民税を活用して実施されていることを、みえ森づくりサポートセンターのホームページやフェイスブック、インスタグラムを活用して発信しました。

みえ森づくりサポートセンター（ホーム）

TEL.059-261-122

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769

三重県林業研究所交流館

開所時間：8:30～17:30

トップ サポートセンターとは 最近のお知らせ NEWS&TOPICS 講座・研修 出前授業 イベント フォトコン

貸出 お問い合わせ Instagram Facebook カレンダー 新型コロナウイルス感染症対策等に関するお願い

新しい森への扉を開こう

三重県では、みえ森林教育ビジョンを進めています。また、NPOなどの活動団体森づくり活動の支援も行っていきます。みえ森づくりサポートセンターでは、みえ森と緑の県民税を活用して様々なメニューでサポートを行います。

みえ森づくりサポートセンターのホームページ



インスタグラムを活用した情報発信



フェイスブックを活用した情報発信

(8) 主な経費の内訳

項目	経費	備考
みえ森づくりサポートセンター運営業務委託	27,127 千円	委託先) 公益社団法人 三重県緑化推進協会
貸出物品等購入	1,336 千円	
その他 (消耗品費)	48 千円	
合計	28,511 千円	

④ーウ：みえ森林教育ステーション整備事業

担当課：林業研究所 普及・森林教育課

基本方針：②県民全体で森林を支える社会づくり

対策区分：④森と人をつなぐ学びの場づくり

1 事業の目的

県民の皆さんがいつでも利用できる森林教育の活動フィールドや木製遊具などが常設された施設を整備し、森林・林業、木材利用への理解を深め、意識の醸成を図ることで、「県民全体で森林を支える社会づくり」を推進します。

2 令和5年度事業の概要

三重県民の森みえ森林教育ステーションの適正な運営を行うとともに、定期的に森林教育にかかるイベント等を実施します。

また、森林教育ステーションの認定及び活用に向けた支援のほか、三重県林業研究所の野外フィールドを、森林教育活動フィールドとして整備しました。

【具体的な取組】

- (1) 三重県民の森みえ森林教育ステーションの運営
- (2) みえ森林教育ステーションの認定と活用支援
 - ① みえ森林教育ステーションの認定
 - ② みえ森林教育ステーション活用に向けた支援
- (3) 三重県林業研究所における「みえ森林教育ステーション」の整備

(1) 三重県民の森みえ森林教育ステーションの運営

目的	三重県民の森みえ森林教育ステーションにおける森林教育や施設運営、安全管理を適切に行い、利用者に安心安全で快適な環境を提供し、より多くの利用者への森林・林業、木材利用への理解を深める森林教育を推進することを目的に、三重県民の森みえ森林教育ステーションを運営しました。
期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日まで
場所	三重びよクエの森（三重県民の森）みえ森林教育ステーション
対象	未就学児とその保護者 利用者数：10,561名
内容	<p>森林教育に関するイベントの開催</p> <p>4月12日(水)春さんぽ：参加人数16名</p> <p>4月14日(金)春さんぽ：参加人数12名</p> <p>5月13日(土)押し花でメッセージカード作り：参加人数28名</p> <p>6月25日(日)木の実クラフト：参加人数30名</p> <p>7月12日(水)夏さんぽ：参加人数4名</p> <p>7月29日(土)</p> <p>イモムシの絵本『へんしん』読み聞かせ：参加人数30名</p> <p>9月12日(火)木の実クラフト：参加人数30名</p> <p>11月19日(日)</p> <p>秋の絵本ライブ しんちゃんの読み聞かせ：参加人数79名</p> <p>11月26日(日)どんぐりクッキー：参加人数21名</p> <p>12月12日(火)クリスマス飾りをつくろう：参加人数20名</p> <p>12月13日(水)クリスマス飾りをつくろう：参加人数32名</p> <p>1月19日(金)～31日(水)</p> <p>木のボールプールで遊ぼう：参加人数413名</p> <p>2月1日(木)～7日(水)</p> <p>木のボールプールで遊ぼう：参加人数158名</p> <p>2月12日(月・祝)～13日(火)</p> <p>バレンタインのメッセージカード作り：参加人数58名</p> <p>3月8日(金)</p> <p>三重県民の森でリトミックを楽しもう！：参加人数38名</p> <p>3月30日(土)春休み特別『先着順イベント』：参加人数60名</p> <p>3月31日(日)春休み特別『先着順イベント』：参加人数61名</p>

森林教育イベントの開催状況



7月：夏さんぽ



9月：木の実クラフト



11月：秋さんぽ



12月：クリスマス飾りをつくろう



2月：木のボールプールで遊ぼう！



3月：三重県民の森でリトミックを楽しもう！

(2) みえ森林教育ステーションの認定と活用支援

① みえ森林教育ステーションの認定

目的	県民の皆さんに森づくりの大切さや木材利用の意義を広く普及することを目的に、木製玩具や絵本などを通じて、親子で森林や木、木材の魅力に触れていただける常設型の森林教育施設を「みえ森林教育ステーション」に認定しました。
期間	令和5年4月～令和6年3月
対象施設	みえ森林教育ステーション認定要領第2条より (1) 県産材を使った遊具又は玩具を常設していること。 (2) 森林や木材に関する書籍や絵本について、未就学児から小学生までを対象に各年代に対応した書籍を10冊以上常設していること。 (3) 主に未就学児や児童、保護者等の複数名が日常的に利用できる空間（以下「森林教育空間」）が確保されていること。 (4) 森林教育空間の広さは、おおむね4㎡以上あり、木製の床であること。 (5) 常設の職員を配置し、森林教育活動を積極的に展開する意欲があること。 (6) 第5条の認定施設の管理者の責務の遂行が見込まれること。
認定状況	【令和5年度認定施設 15件】 認定 No.015 むむむ。(尾鷲市) 認定 No.016 三重トヨペット株式会社グリーンテラス亀山店(亀山市) 認定 No.017 三重スバル自動車株式会社 四日市店 (四日市市) 認定 No.018 三重スバル自動車株式会社松阪店 (松阪市) 認定 No.019 芸濃子育て支援センターげいのうわんぱーく (津市) 認定 No.020 鈴鹿市子育て支援センターりんりん (鈴鹿市) 認定 No.021 みえ尾鷲海洋深層水アクアステーション (尾鷲市) 認定 No.022 川越町つばめ児童館 (川越町) 認定 No.023 川越町おひさま児童館 (川越町) 認定 No.024 松阪市子育て支援センター ふれんず (松阪市) 認定 No.025 松阪市子育て支援センター 森のくまさん (松阪市) 認定 No.026 松阪市子育て支援センター げんきっこ (松阪市) 認定 No.027 松阪市子育て支援センター かんがるー (松阪市) 認定 No.028 松阪市子育て支援ルーム やまっこ (松阪市) 認定 No.029 度会町地域交流センター (度会町)

令和 5 年度 認定施設



げいのうわんぱーく (津市)



三重トヨペット株式会社グリーンテラス亀山店



松阪市子育て支援センター やまっこ



松阪市子育て支援センター 森のくまさん



みえ森林教育ステーションの認定書



川越町おひさま児童館

② みえ森林教育ステーションの活用に向けた支援

目的	みえ森林教育ステーションの認定を受けようとする施設の整備に必要な物品の一部を支援しました。
期間	令和5年4月～令和6年3月
支援施設数	令和5年度支援数 15施設
対象資材	みえ森林教育ステーション整備支援事業実施要領第4条より (1) 県産材の積み木（※可能な限り地域産材とする。） 1セット (2) 木製タイル 5㎡程度 (3) 木製玩具（※5点までとする。） (4) 森や木に関する書籍や絵本 10冊程度
活用状況	これまでに「みえ森林教育ステーション」に認定した29施設について、令和5年度は57,898人の方にご利用いただきました。

令和5年度に支援した森林教育関連物品の設置状況



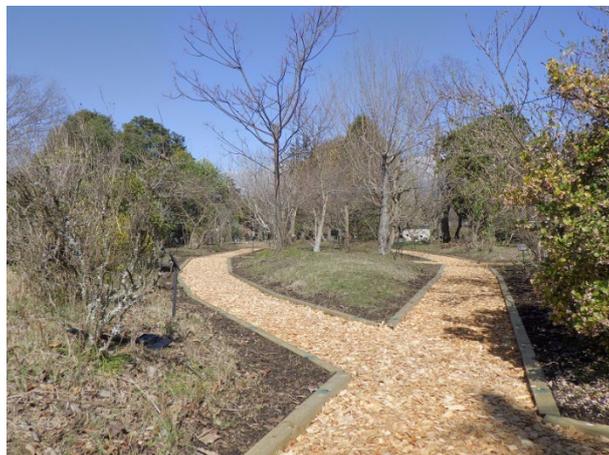
三重スバル自動車株四日市店



鈴鹿市子育て支援センター りんりん

(3) 三重県林業研究所における「みえ森林教育ステーション」の整備

目的	みえ森林教育ビジョンに基づき、子どもから大人まで誰もが森林や木、木材に親しみ、自ら考え、判断して行動できる人に育つことを促す森林教育活動を展開するため、三重県林業研究所の樹木図鑑園をみえ森林教育ステーションとして整備しました。
時期	令和 6 年 3 月
場所	三重県林業研究所 樹木図鑑園
内容	・令和 4 年度に実施した樹木図鑑園の現地調査を基に、木とふれあい、樹木について学ぶための観察歩道を 516.6m 整備するとともに、支障となる枝葉を伐採しました。



チップ舗装の歩道 516.6m を整備し、支障木を伐採した樹木図鑑園の様子

(4) 情報発信

① 県ホームページによる情報発信

みえ森林教育ステーション認定の意義や、認定した施設を県ホームページで紹介しました。

いいね! シェアする ホスト LINEで送る 印刷する

令和03年09月22日

「みえ森林教育ステーション認定制度」について

県と連携して「森林教育」に取り組んでいただける施設を募集しています。

県は、森林や木材が暮らしや経済に当たり前に取り入れられている社会をつかっていくために「みえ森林教育」の取組を進めています。

その一環として、令和3年度に、森林や木、木材の魅力に触れることができる施設を「みえ森林教育ステーション」として認定する制度を創設し、認定施設を募集しています。

(1) 制度の趣旨
この制度により、県内各地に森林教育に気軽にアクセスできる場を整備し、それらの場を活用した森林教育活動が積極的に展開されることを目指していきます。

(2) 対象
県内に所在する施設で、県産材を使った木製の遊具・玩具や、森林や木に関する絵本や書籍を常設し、森林教育活動を積極的に展開する意欲などの認定要件を満たす施設であれば、どの施設も対象となります。

辞典・百科事典の検... 文部科学省 林 林野庁ホームページ

令和05年07月31日

みえ森林教育ステーション認定施設

認定番号 012 伊賀市子育て包括支援センター (伊賀市)

伊賀市子育て包括支援センターは伊賀鉄道上野市駅の新正東に立地する、ハイトピア伊賀の4階にあります。施設は広く、子育て中の親子同士が気軽に交流できる「託児室」と子育て支援事業などのイベントにも活用される「プレイルーム」があります。

施設情報

施設名	伊賀市子育て包括支援センター
認定番号	012 令和5年3月20日認定
所在地	伊賀市上野丸之内500番地 ハイトピア伊賀4階
管理者	伊賀市
利用対象	伊賀市在住の就学前児童とその保護者等
開館時間	月曜日～金曜日 9:00～17:00 土曜日 9:00～17:00 日曜日 9:00～12:00
休館日	上記以外の土曜日と日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

ホームページ
伊賀市HP
<https://www.city.iga.lg.jp/gakids/0000007920.html>

問合せ 伊賀市役所 健康福祉部 こども未来課 子育て支援室
子育て包括支援センター
電話 0595-22-9665
FAX 0595-22-9666
e-mail koso@city.iga.lg.jp

【施設の写真】
施設外観



② Facebook による情報発信

林業研究所において「みえ森林教育ステーション」として整備した樹木図鑑園の様子を Facebook で情報発信しました。

みえ森林・林業アカデミー

目次紹介
このページは、「みえ森林・林業アカデミー」のフェイスブックページです?

ページ・学校
〒市 (Japan・三重県) 白山市二本木3769-1
059-262-5350
miefa@pref.mie.lg.jp
miefa.pref.mie.lg.jp
まだ評価はありません(レビュー0件)

写真 全ての写真を見る

【樹木図鑑園の観察歩道がヒノキの道に♪】
林業研究所には、昭和54年度に設置された樹木図鑑園があります。面積は4,060㎡で、さまざまな樹木が配植されており、樹木観察などの森林教育に活用できる貴重な場となっています。... さらに続き



あなた、平野 美凡、並田 誠、他47人 シェア1件

いいね! コメントする シェア

(5) 主な経費の内訳

項目	経費	備考
三重県民の森「みえ森林教育ステーション」運営 及び感染症対策等にかかる安全管理業務委託	4,920 千円	委託先) NPO 法人 ECCOM
みえ森林教育ステーションの認定支援	2,057 千円	15 施設を支援
林業研究所「みえ森林教育ステーション」の整備	5,863 千円	歩道整備等
その他 (消耗品等)	31 千円	
合計	12,872 千円	

⑤：生物多様性推進事業

担当課：みどり共生推進課

基本方針：②県民全体で森林を支える社会づくり

対策区分：⑤地域の身近な水や緑の環境づくり

1 事業の目的

活動団体や県民・事業者・行政などが連携して取り組む生物多様性の重要性に関する普及啓発や自然環境保全活動を推進し、県民みんなで森林生態系等の生物多様性の保全が図られる体制づくりを行うことで、森・川・海のつながりを意識した森林や緑、水辺環境を守り、生物多様性の保全を図ります。

2 事業の必要性

県では、これまで、地域の特性を踏まえた生物多様性の保全を進めるための地域戦略である「みえ生物多様性推進プラン」の取組方針に沿って、生物多様性に関する理解の促進を図るとともに、県民による地域の自然を守る保全活動など、地域と連携した取組を進めてきました。

その結果、自然環境の保全に取り組む活動団体数や希少種等の保全活動実施数が増加するなど、一定の成果が得られました。

一方で、近年、大規模な自然地の開発が増加しているほか、管理不足の里山等の増加、外来生物の増加など、森林生態系の置かれている現況は依然として厳しい状況にあります。

そのため、これまでの取り組みをさらに進めるとともに、今後は様々な主体と協力しながら生物多様性の保全に取り組んでいく必要があります。

3 事業の内容

生物多様性推進施策に必要な基礎的な情報の収集や希少な動植物の生息状況を調査・整理するとともに、生物多様性に関する普及啓発に取り組めます。

また、自然環境保全団体や専門家と協力して生物多様性の保全を推進します。

4 令和 5 年度生物多様性推進事業の実績

(1) 野生生物の生息状況調査

生物多様性推進施策に必要な野生動植物種の情報を把握するため、県内の湖沼・河川等にて、現況の確認及び野性鳥類（ガン類、カモ類、ハクチョウ類、カワウ）の生息状況調査を実施しました。（295地点）



写真、鳥類の生息状況調査のための鳥類判別研修

(2) 希少種評価対象リストの作成・調査

生物多様性保全の重要性がより一層求められている中、県の発行する「三重県レッドデータブック2015」は希少種保全の基礎資料として広く県民等に活用されていますが、発行から8年が経過し、内容の見直しが必要となっています。そこで、改訂に向けた生息状況調査及びカテゴリー評価（レッドリスト案作成）を実施するとともに、自然観察会や調査体験会等のイベントを20回開催し、生物多様性の重要性についての普及啓発を行いました。

表1. 「三重県レッドデータブック2015」改訂スケジュール

	R4												R5												R6											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
評価カテゴリー策定							■																													
ホットスポットみえ検討							■				■																									
評価対象種選定							■	■	■	■	■	■																								
生息状況調査							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■												
カテゴリー評価																																				
レッドリスト案作成																																				
執筆																									■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
RDB 案作成																																				
編集・製本																																				
普及啓発																																				

表 2. 主な生息状況調査の実施状況

調査日	部会	調査場所	調査内容、調査種など
5月17日	昆虫類	吉野熊野国立公園特別保護地区（大台ヶ原）	甲虫類
5月21日	植物	吉野熊野国立公園特別保護地区（大台ヶ原）	高山植物等
6月14日	キノコ類	大又国有林	トガサワラショウロ等
6月22日	植物	法花湿地（伊賀市）	湿地植物等
8月5日	甲殻類	田中川河口	干潟の甲殻類
9月7日	クモ類	伊勢市	シュウレイホラホメグモ等
9月17日	蘚苔類	熊野市	ミズゴケ等
10月14日	貝類	熊野市	海産貝類
10月15日	甲殻類	鳥羽市	海産の甲殻類
10月21日	キノコ類	大台町	森林性のキノコ類
11月19日	クモ類	紀北町	カネコトタテグモ等
11月21日	哺乳類	亀山市	小型哺乳類

表 3. レッドリスト案（抜粋）

三重県レッドリスト改訂案（哺乳類）							
	目名	科名	和名	学名	新カテゴリー	旧カテゴリー	環境省
1	食肉目	イヌ科	オオカミ	<i>Canis lupus</i> Linnaeus, 1758	EX	EX	EX
2	食肉目	イタチ科	カワウソ	<i>Lutra lutra</i> (Linnaeus, 1758)	EX	EX	EX
3	食肉目	アシカ科	ニホンアシカ	<i>Zalophus japonicus</i> (Peter, 1866)	EX	EX	CR
4	トガリネズミ形目	トガリネズミ科	シントウトガリネズミ	<i>Sorex shinto</i> Thomas, 1905	CR	CR	—
5	↑トガリネズミ形目	モグラ科	ヒメヒミス	<i>Dymecodon pilirostris</i> True, 1886	EN	VU	—
6	翼種目	オヒキコウモリ科	オヒキコウモリ	<i>Tadarida insignis</i> (Blyth, 1861)	EN	EN	VU
7	トガリネズミ形目	トガリネズミ科	カワネズミ	<i>Chimarrogale platycephalus</i> (Temminck, 1842)	VU	VU	—
8	翼種目	ヒナコウモリ科	ニホンウサギコウモリ	<i>Plecotus sacrimontis</i> G. M. Allen, 1908	VU	VU	—
9	翼種目	ヒナコウモリ科	ノレンコウモリ	<i>Myotis bombinus</i> Thomas, 1906	VU	VU	VU
10	齧歯目	キヌゲネズミ科	ヤチネズミ	<i>Eothenomys andersoni</i> (Thomas, 1905)	VU	VU	—
11	○齧歯目	キヌゲネズミ科	スミスネズミ	<i>Eothenomys smithii</i> (Thomas, 1905)	VU	—	—
12	偶蹄目	ウシ科	ニホンカモシカ	<i>Capricornis crispus</i> (Temminck, 1836)	VU	VU	—
13	鯨目	ネズミイルカ科	スナメリ	<i>Neophocaena asiaorientalis</i> (Pilleri & Gühr, 1972)	VU	VU	—
14	↓食肉目	クマ科	ツキノワグマ	<i>Ursus thibetanus</i> G. Cuvirr, 1823	VU	EN	LP
15	翼種目	ヒナコウモリ科	テングコウモリ	<i>Murina hilgendorfi</i> (Peters, 1880)	NT	NT	—
16	齧歯目	ヤマネ科	ヤマネ	<i>Glirulus japonicus</i> (Schinz, 1845)	NT	NT	—
17	齧歯目	リス科	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i> Temminck, 1844	NT	NT	—
18	↓齧歯目	リス科	ニホンモモンガ	<i>Pteromys momonga</i> Temminck, 1844	NT	VU	—
19	翼種目	ヒナコウモリ科	ヤマコウモリ	<i>Nyctalus aviator</i> (Thomas, 1911)	DD	DD	VU
20	翼種目	ヒナコウモリ科	ヒナコウモリ	<i>Vespertilio sinensis</i> (Peters, 1880)	DD	DD	—
21	◆翼種目	ヒナコウモリ科	ヒメホオヒゲコウモリ	<i>Myotis ikonnikovi</i> (Ognev, 1912)	DD	EN	LP
22	○翼種目	ヒナコウモリ科	クロホオヒゲコウモリ	<i>Myotis pruinus</i> Yoshiyuki, 1971	DD	—	VU
23	翼種目	ヒナコウモリ科	コテングコウモリ	<i>Murina ussuriensis</i> Ognev, 1913	DD	DD	—

表 4. 主な普及啓発イベント実施状況

実施日	イベント名	場所	参加者	実施概要
6月25日	植物調査体験会	伊賀市法花湿地	高校生5名	サギソウ等の湿地植物の調査
7月8日	植物調査体験会	紀北町片上池周辺	15名	ハマボウ等の海浜植物の調査
7月25日	親子標本作成体験会	志摩市磯部生涯学習センター	親子23組	植物の標本作成体験
7月26日	親子標本作成体験会	みえこどもの城	親子18組	昆虫の標本作成体験
10月22日	植物調査体験会	紀北町大島	高校生5名	オオタニワタリ等の暖地性植物の調査
12月3日	フェスタインかわげ	河芸公民館	約150名	生物多様性、三重県 RDB に関する座学
12月21日	小学生を対象とした社会学習	三重県環境保全事業団	小学生13名	生物多様性に関する座学、ビオトープ調査
2月17日	鈴鹿川探検隊	鈴鹿川	親子13組	鈴鹿川にて魚類等の水生生物の観察会



写真. 6月25日 植物調査体験会



写真. 7月26日 親子標本作成体験会

(3) 自然環境保全活動の支援

生物多様性保全活動について、専門家の派遣を行うなどにより支援を行いました。(表 4 参照)

表 4. 自然環境保全活動の実施状況

対 象 種	活動時期	実 施 内 容
マメナシ	令和 5 年 4 月、 9 月	保全活動団体、専門家とともに調査および保全活動を行った。
ギフチョウ	令和 5 年 4 月	保全活動団体とともに調査を行った。
アゼオトギリ	令和 4 年 6 月	保全活動団体、専門家とともに保全活動を行った。
マイヅルテン ナンショウ	令和 4 年 6 月	保全活動団体とともに調査を行った。
ウシモツゴ	令和 4 年 8 月、 9 月、10 月	保全活動団体とともに調査および保全活動を行った。
ため池の外来種	令和 4 年 10 月	保全活動団体とともに駆除活動を行った。



写真. 保全活動の実施状況 (マメナシ)



写真. 保全活動の実施状況 (ギフチョウ)



写真. 保全活動の実施状況 (マイヅルテンナンショウ)



写真. 保全活動の実施状況 (ウシモツゴ)

5 主な経費の内訳

項目	数量	単位	金額 (千円)	備考
野生生物の生息状況調査（鳥類）	1	式	387	委託料：385 旅費：2
希少種評価対象リストの作成・調査及び普及啓発（委託）	1	業務	13,207	委託料：13,200 旅費：6 使用料：1
自然環境保全活動の支援	1	式	71	報償費：18 旅費：25 消耗品費：17 傷害保険料：5 使用料：6
希少種の調査・保全活動等	1	式	209	報償費：36 旅費：76 委託料：95 使用料：2
外来種の防除	1	式	538	旅費：41 消耗品費：410 燃料費：35 使用料：52
その他事務経費等	1	式	50	
合計			14,462	

森林とふれあう自然公園環境整備事業

1. 事業の目的

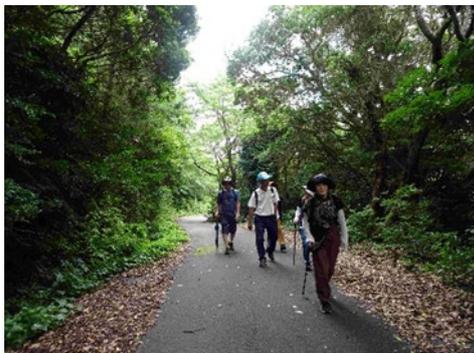
地域の活動団体や市町等と連携し、自然公園や森林公園を活用した森林教育のイベントやガイドツアーなどの推進と、自然公園や森林公園にある歩道等の施設整備を行うことにより、県民が森林や緑と親しむ機会を創出し、身近な緑や水辺の環境と県民との関係を深めます。

2. 令和5年度事業実績

1) 森林にふれあう活動の推進

県民が森林とふれあう機会を増大するため、県内にある自然公園内の園地や歩道、森林公園を活用して自然観察ツアーや森林教育イベントを行い、豊かな生態系の観察や森林のはたらきを伝えるとともに、一人ひとりが健やかな森林を次世代に引き継ぐ大切さを感じることができる「県民全体で森林を支える社会づくり」のための森林教育と施設整備、安全に施設を利用するための点検を行いました。

◆自然公園・自然歩道での取組状況



自然観察ツアー

ウォーキングツアーの状況



自然観察ツアー

ツアーガイドからの説明状況



自然観察ツアー

サイクリングツアーの状況



自然観察ツアー

ツアーガイドからの説明状況



森林教育イベント（植樹体験）

参加者による植樹状況
（自然環境保全活動）



森林教育イベント（植樹体験）

参加者による植樹状況
（自然環境保全活動）



森林教育イベント（樹名板づくり）

参加者による樹名板作成状況



森林教育イベント（樹名板づくり）

樹名板設置状況

◆大杉谷登山歩道での取組状況



自然観察ツアー&ボランティア整備

ツアーガイドからの説明状況



自然観察ツアー&ボランティア整備

参加者による歩道整備作業状況



自然観察ツアー&ボランティア整備
参加者によるごみ拾い状況
(自然環境保護活動)



自然観察ツアー&ボランティア整備
拾ったごみの集積状況
(自然環境保護活動)

◆ 森林公園での取組状況

○ 三重県民の森



森林教育イベント
「ウッドデッキをつくろう！」
参加者による作成状況



森林教育イベント
「ウッドデッキをつくろう！」
参加者による作成状況

○ 上野森林公園



森林教育イベント「親子で大工体験」
講師からの説明状況



森林教育イベント「親子で大工体験」
参加者による手すり設置状況

◆生活環境保全林での取組状況

木製施設の腐朽が進んでいるなど、安全な利用が困難になる恐れがある横山生活環境保全林について、森林教育フィールドとして歩道や手すりなどの補修等を行いました。（整備内容：階段補修 287 段、手すり設置 99m、案内板設置 1 式 ※一般競争入札で実施）

○横山生活環境保全林（志摩市）



森林教育フィールドの整備（整備前）
木製の階段や歩道、手すりが傷んでおり、安全に利用できなくなる恐れがある。



森林教育フィールドの整備（整備後）
木製の階段や歩道、手すりを再整備した。



森林教育フィールドの整備（整備前）
木製階段の腐朽状況



森林教育フィールドの整備（整備後）
防腐処理を施した県産材を用いた。



森林教育フィールドの整備（整備後）
より楽しく散策していただけるよう、案内板を設置



整備後の活用状況
森林教育イベント（樹名板設置）

◆ 森林教育実績

自然公園名	自然公園施設名	実施場所	実施日	参加人数	内容
公園区域外	近畿自然歩道	明和町	6月10日	6	自然観察と文化歴史ツアー（斎宮ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	南伊勢町	7月15日	7	自然観察ツアー（相賀浦ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	伊勢市	9月30日	11	自然観察ツアー（二見音無山ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	鳥羽市	10月9日	12	自然観察ツアー（答志島ウォーキング）と海女さんふれあい体験
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	鳥羽市	10月21日	11	自然観察ツアー（神島ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	鳥羽市～志摩市	11月11日	5	自然観察ツアー（青峯山ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	志摩市	11月26日	2	自然観察ツアー（浜島ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	南伊勢町	12月10日	11	自然観察ツアー（鶴倉半島ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	志摩市	1月7日	11	自然観察ツアー（安乗ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	伊勢市	2月3日	6	自然観察ツアー（宮川ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	鳥羽市	11月18日	17	森林教育イベント（クラフト体験教室）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	鳥羽市	11月19日	18	森林教育イベント（クラフト体験教室）
伊勢志摩国立公園	横山園地	志摩市	9月10日	19	自然観察ツアー（キノコ観察会）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	志摩市	10月29日	7	自然観察ツアー（浜島ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	近畿自然歩道	鳥羽市	11月19日	12	自然観察ツアー（答志島ウォーキング）
伊勢志摩国立公園	横山園地	志摩市	12月9日	12	森林教育イベント（草木染教室）
伊勢志摩国立公園	横山園地	志摩市	1月28日	8	森林教育イベント（樹名板づくり）
伊勢志摩国立公園	横山園地	志摩市	2月10日	9	森林教育イベント（樹名板づくり）
吉野熊野国立公園	大杉谷登山歩道	大台町	7月16日	7	自然観察ツアー（トレッキング）
			10月17日～18日	7	自然観察ツアー（トレッキング）とボランティア整備（歩道整備、ゴミ拾い）
鈴鹿国定公園	御在所岳園地	菟野町	9月16日	41	森林教育イベント（植樹：自然環境保全活動）
吉野熊野国立公園 奥伊勢宮川峡県立 自然公園	大杉谷登山歩道 大杉谷自然の家	大台町	11月26日	18	自然観察ツアー（森林と水のサイクリングツアー）
自然公園外	上野森林公園	伊賀市	2月10日	22	森林教育イベント（ウッドデッキ整備）
自然公園外	三重県民の森	菟野町	2月24日	15	森林教育イベント（ウッドデッキ整備）

◆ 自然公園等の年間利用者数

名称	利用者数（人）	備考
大杉谷登山歩道 （吉野熊野国立公園内）	5,763	令和5年度実績
伊勢志摩国立公園	472万	令和3年度実績
御在所ロープウェイ （鈴鹿国定公園内）	424,252	令和4年度実績
奥伊勢宮川峡県立自然公園	532,000	令和3年度実績
三重県民の森	159,503	令和5年度実績
上野森林公園	119,276	令和5年度実績

3. 『みえ森と緑の県民税』による取組であることの周知方法

- ・自然観察ツアーや森林教育イベント（以下「イベント」という。）の募集チラシ等に、『みえ森と緑の県民税』を活用していることが分かるように周知を行いました。
- ・イベントの参加者に対して、『みえ森と緑の県民税』のパンフレットなどの配布を行い、参加者に対して、『みえ森と緑の県民税』の目的や認知度確認、並びに参加しているイベントが『みえ森と緑の県民税』の取組のひとつであることの周知を行いました。
- ・イベント開催中は、『みえ森と緑の県民税』によるイベントであることが分かるように『のぼり旗』を設置し、イベント参加者以外の方々にもPRを行いました。
- ・植樹活動や施設整備などが行われた箇所には、『みえ森と緑の県民税』を活用して行われたことが分かるように看板などを設置しました。
- ・イベント実施後にも、ホームページやSNSなどを活用し情報発信を行っています。
- ・イベントの中には、テレビや新聞で取り上げられたものもあり、多くの方々に情報発信ができました。

◆ イベント開催募集チラシ等での周知状況



チラシやポスターでの周知状況
活動目的やロゴマークなどを記載

◆ イベント開催中での周知状況



イベント開催中での周知状況

「みえ森と緑の県民税」のぼり旗を設置

◆ 施設整備等を行った箇所の周知状況



自然環境保全活動を行った箇所の周知状況

「みえ森と緑の県民税」の看板を設置
(御在所岳)



施設整備を行った箇所の周知状況

「みえ森と緑の県民税」の看板を設置
(三重県民の森)



自然環境保全活動を行った箇所の周知状況

「みえ森と緑の県民税」ロゴ入り樹名板を設置
(横山園地)

◆ホームページなどでのイベント実施状況の周知



する楽しさを少しはお伝えできたかなと思います。
 2日目は笠倉遊歩小屋周辺の清掃活動をしていただきました。
 こちらもあっという間にゴミが集まって大動かり！やっぱ人が多いと早い！
 帰りは自然観察をしていただきながら日出ヶ岳へと登り返しました。

参加していただいた皆様、本当にありがとうございました！
 今後もボランティア整備を行う予定です。ご興味あれば是非ご参加下さい！

*このイベントは「#みえ森と緑の県民税」を活用しています。
 #大杉谷 #秘境 #源流 #登山 #トレッキング #富川 #大台町
 4週間前

インサイトを見る 投稿を宣伝

♡ 🔍 📍 🔖

👤 takashy_hathaway. 他186人が「いいね！」しました
 10月19日



自然環境保全活動を行った箇所の周知状況
 SNS、HP への掲載状況

◆新聞・テレビ等取材状況



森林教育イベント「親子で大工体験」
 地元ケーブルテレビ撮影状況（上野森林公園）

なお、上野森林公園でのイベント、御在所岳における植樹イベントについては、中日新聞の地方版に記事が掲載されました。

4. 参加者の意見及び感想

- ・また今度、植えた木が大きくなったか見に来たい。
- ・シカによる害で緑が衰退している現状を知ることができ、これからも機会があれば植樹体験に参加したいです。
- ・自然を感じることができ、また昆虫や雑草のお話など、生物の大切なお話もガイドさんから聞いて良かったです。楽しかったです。
- ・まだまだ（みえ森とみどりの県民税の）認知が広まっていないので、もっと人目につくところに多く使ったほうが良い
- ・子供たちが真剣に取り組んでいる姿が見れた。
- ・身近な木ができるまでがよく分かった。
- ・子どもと一緒に、なかなか出来ないことが出来て良い経験になりました。

5. 主な経費の内訳

委託業務名	契約先	契約額（円）
森林とふれあう自然公園環境整備業務委託（大杉谷）	公益社団法人 大杉谷登山センター	3,080,000
Happy Birthday!伊勢志摩国立公園	一般財団法人伊勢志摩国立公園協会	2,632,500
森林とふれあう自然公園環境整備業務委託（御在所岳）	御在所ロープウェイ株式会社	640,200
森林とふれあう自然公園環境整備業務委託（宮川ダム湖）	NPO 法人大杉谷自然学校	638,000
森林とふれあう自然公園環境整備業務委託（三重県民の森）	NPO 法人 ECCOM	902,000
森林とふれあう自然公園環境整備業務委託（上野森林公園）	NPO 法人 ECCOM	927,300
森林とふれあう自然公園環境整備事業（生活環境保全林）	有限会社小池建設	21,368,600
森林とふれあう自然公園環境整備（木製展望デッキ点検）業務委託	アルコ株式会社	957,000
その他事務経費等		122,868
合計		31,268,468

